「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくり

令和3年度「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート

令和３年度は、「再構築」している姿に着目し、授業実践を行いました。

上の図のように「読み解く力」を、ＡとＢの二つの側面と①から③の三つのプロセスで整理しています。

児童生徒が、教科等の学習において必要な情報を取り出し、それを根拠にして考えを構築し、対話をすることで考えを磨き、再構築につなげていくことが、各教科等で目指す資質・能力を確かに育成することにつながります。

令和４年１月

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

令和３年度　第３回「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポートについて

１　趣旨

今年度も、「読み解く力」の視点を踏まえた授業の推進に向け、市町から推薦されたプロジェクト研究委員が授業公開をしました。新型コロナウイルス感染症対策のため、少人数での授業研究会となりましたが、参加者が授業参観、研究協議等を通して知見を深めました。

本冊子は、公開された授業や研究協議会についてまとめています。各学校での校内研究や授業づくり等に御活用ください。

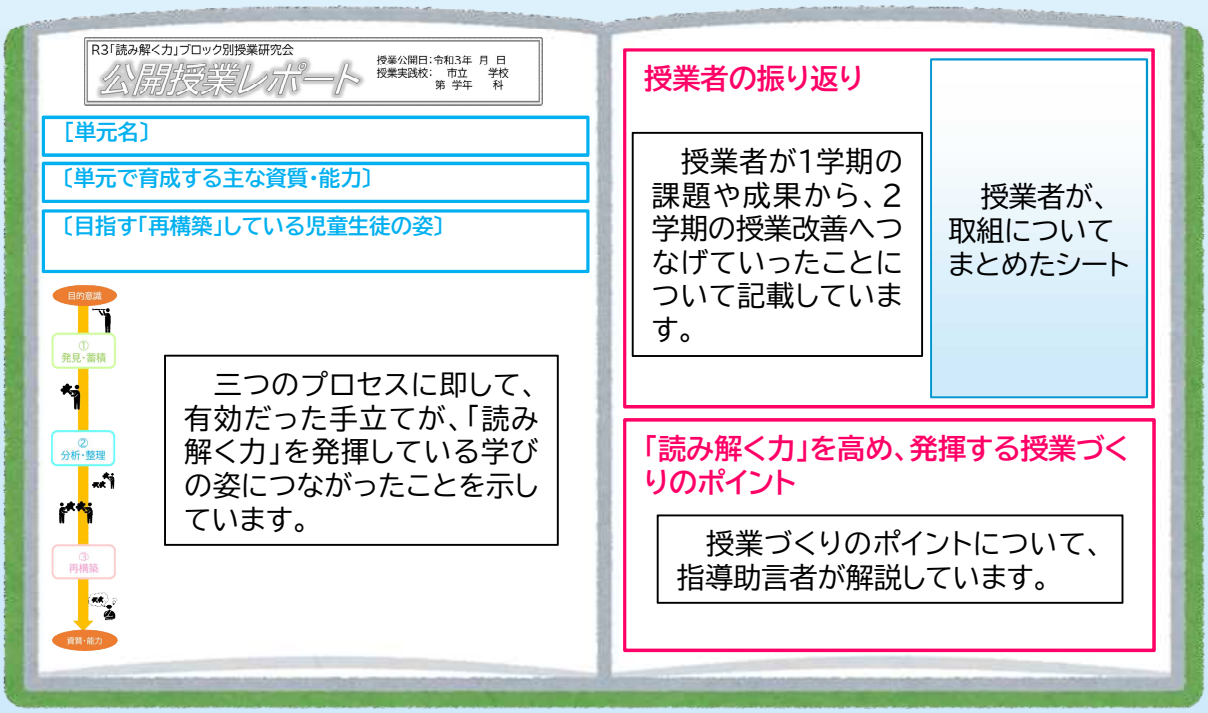
２　プロジェクト研究　研究の視点

	１年目（2019年度）	２年目（2020年度）	３年目（2021年度）
プロジェクト研究の視点	「読み解く力」全体に着目した研究	プロセス②「分析・整理」に着目した研究	プロセス③「再構築」に着目した研究

令和３年度は、以下の３点を意識し授業づくりを行いました。
- □よりよく「再構築」している姿の明確化
- □ＩＣＴを効果的に活用した授業実践
- □「再構築」している子どもの見取り

３　授業レポートの見方

見開き１ページで、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿を中心に単元の概要について紹介しています。また、授業者のこれまでの実践の振り返りと授業づくりのポイントを示しています。



目次

1　公開授業レポート・・・・・・・・・・・・・・・・P. 3～P.22
2　学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.23～P.82

	番号	学年・教科等	単元名	実践校	レポート	指導案
小学校	1	第２学年 国語科	なりきりペープサートをしよう！ ～そうぞうしたことを生かして読もう～	彦根市立 金城小学校	P.3 － P.4	P.23-P.28
		見所	登場人物の行動や気持ちを具体的に想像するために、付け足しの一言を考える。一人ひとりのタイミングで自力解決の時間とペア学習の時間を繰り返しながら、学びを深める姿。			
	2	第４学年 算数科	面積（広さの表し方を考えよう）	野洲市立 野洲小学校	P.5 － P.6	P.29-P.36
		見所	複合図形の面積の求め方について、既習内容を生かしたり、友だちとのやりとりを通したりして、自分の考えを深めたり広げたりする姿。			
	3	第４学年 総合的な 学習の時間	しずくのゆくえ	長浜市立 余呉小中学校	P.7 － P.8	P.37-P.41
		見所	「余呉のすてきを広めるためにどんなことをしていくか」について、考えを比較したり関連付けたりしながら整理することを通して、理由や根拠を明らかにし、自分の考えを再構築する姿。			
	4	第５学年 理科	流れる水のはたらきと土地の変化	高島市立 本庄小学校	P.9 － P.10	P.42-P.47
		見所	水量を増やしたり斜面の傾きを大きくしたりすると、流れる水のはたらきはどのように変化するのかについて、撮影した実験の動画を繰り返し見返しながら考察し、結論を導き出す姿。			
	5	第６学年 図画工作科	チャレンジ鳥獣人物戯画	近江八幡市立 八幡小学校	P.11－ P.12	P.48-P.53
		見所	鳥獣人物戯画を見て、面白さやよさを感じたところを写真に撮り、そのよさを強調して実際に墨で描いてみる。友だちとの交流や、描くことを通して見方や感じ方を深めていく姿。			
中学校	6	第１学年 国語科	「竹取物語」のイチオシの登場人物を紹介しよう～蓬莱の玉の枝ー「竹取物語」からー～	草津市立 玉川中学校	P.13-P.14	P.54-P.59
		見所	タブレットを活用し、自分の考えを、他者とのやりとりを通してより確かにする生徒の姿。			
	7	第２学年 外国語科	Unit 6 Research Your Topic & Research and Presentation (New Horizon English Course 2)	米原市立 伊吹山中学校	P.15-P.16	P.60-P.64
		見所	撮影した自分の発表や友だちからのアドバイス、中間指導を通して発表内容や伝え方を改善し、タブレットを活用してよりよく発表する生徒の姿。			
	8	第３学年 社会科	個人の尊重と日本国憲法	豊郷町立 豊日中学校	P.17-P.18	P.65-P.70
		見所	個人の尊重と公共の福祉を観点として、他の人の意見を参考にしながら自分の意見を表明する生徒の姿。			
	9	第３学年 数学科	相似な図形	大津市立 日吉中学校	P.19-P.20	P.71-P.77
		見所	課題解決のために、既習事項をもとに自分で考えたり、他人の意見を参考にしたりすることで、定理や性質を再構築する生徒の姿。			
	10	第３学年 特別活動	全員が進路決定への不安を乗り越えるためにできることを考えよう	栗東市立 栗東中学校	P.21-P.22	P.78-P.82
		見所	進路選択が迫られる２学期末に、お互いに支え合い励まし合う温かい学級にするために、みんなで取り組むことについて話し合う。自分事として考え、合意形成に向かう姿。			

R3「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート①

授業公開日：令和3年10月29日
授業実践校：彦根市立金城小学校
第2学年　国語科
授業者：北川　彩　教諭

〔単元名〕 なりきりペープサートをしよう！～そうぞうしたことを生かして読もう～

〔単元で育成する主な資質・能力〕
・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。　〔知識及び技能〕(1)ク
・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)エ
・楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。　〔学びに向かう力、人間性等〕

〔目指す「再構築」している児童生徒の姿〕
登場人物の行動や気持ちについて想像したことを添えて、音読する。そして、自分で考えることや、ペアで交流することを繰り返すことで、「とっておきの一言」を見出している姿。

◆有効だった手立て(★)・ICTの活用(☆)、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿 学びの姿

目的意識

☆ ゴールモデルを動画で提示

お世話になった6年生に向けて、お気に入りの物語を「ペープサート」で発表します。「なりきりペープサート」のモデルを動画で示しました。

学びの姿

児童がゴールイメージを描き、学習への見通しをもちます。

① 発見・蓄積

★ 想像することと音読の往還

教科書や本を指でなぞり、①～③を何度も繰り返します。
①何度も音読して大好きな箇所を選ぶ。
②音読に合わせてペープサートを動かす。
③想像したことを付け加えて音読する。

学びの姿

音読とペープサートの動きで内容を何度も確かめることで、誰が、何をしたのか、どんな様子なのかについて、理解しているかどうか確かめ、理解を深めます。

音読

ペープサート

② 分析・整理

★ ゆるやかな自力解決とペア交流

発表会に向けて、想像した「とっておきの一言」を考えます。「自分でじっくり考えたい」、「友だちに聞いてほしい」という児童の気持ちを基に、一人ひとりのタイミングで学習の仕方を選んでいきます。

学びの姿

教師が細かく指示することで動くのではなく、児童が一人学びからペア交流へと進むことを自ら判断したり、交流相手を見つけたりと主体的な学びの姿となります。
また、何度も繰り返すことで、想像したことを確かめたり、深めたり、広げたりすることができます。

言葉や文から想像したことを、付け加えて音読しています。

「並行読書マトリクス」を手掛かりに、交流相手を選びます。

○○さんの想像したことがよくわかったよ。
私の「とっておきの一言」をもう1回考えるよ。

③ 再構築

☆ 学びの成果をＩＣＴで残す

音声言語は、発せられた途端消えてしまうため、今日の学びを、毎時間タブレットで撮影します。

次の時間は、動画を見直して、もっと、工夫しよう。

学びの姿

音読の変化や成長を、児童自身が実感したり、振り返ったりします。

資質・能力

授業者の振り返り

1学期は

・「音読発表会」の言語活動で実践をしましたが、付箋に想像したことを書くことにとどまり、〔知識及び技能〕である、音読との関連を図ることに課題を感じていました。

・ペアやグループ交流については、教師が指示をしたため、児童の主体的な交流にはなりにくく、児童同士の交流も一方通行が多く見られました。

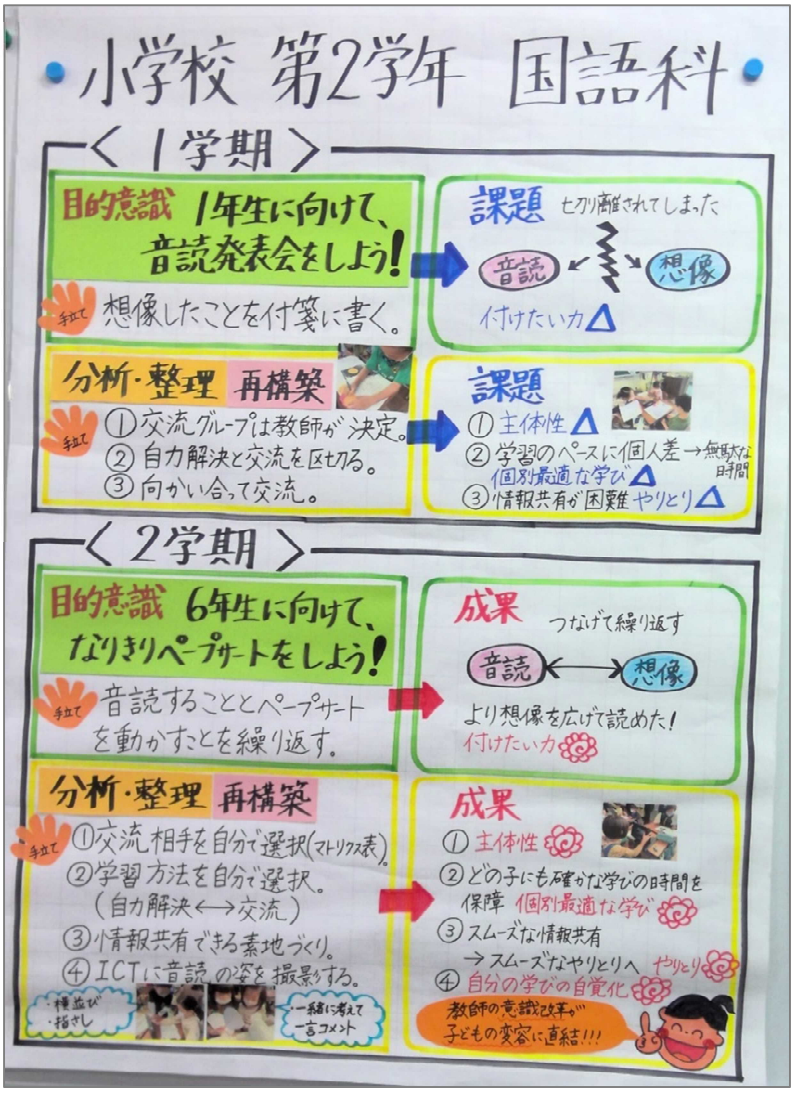
・自力解決から交流という流れにしていたため、自力解決が難しい児童とそうでない児童との学習のペースの差が生じていました。

2学期は

・お気に入りの物語を紹介するというゴールを動画で示すことで、児童が学ぶ目的を常に意識し、意欲的に取り組む姿が見られました。

・音読することとペープサートを動かすことを繰り返すことで、[知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]を一体的に育むことができました。

・児童自身のタイミングで、学習の仕方を選んでいく「ゆるやかな自力解決とペア交流」は、様々な実態のある本学級にぴったりのスタイルでした。これまで以上に、児童が大きく成長することができました。



「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント

京都女子大学 発達教育学部
教授 水戸部 修治 氏

・「場面の様子に着目して」の指導事項は、ややもすると場面ごとに読み取らせる指導に陥りがちです。子どもが、必然性をもって学ぶ姿にするために、大好きな物語のお気に入りの場面をペープサートで演じて紹介するという設定をすることで、「場面の様子に着目する」ということを2年生が自然に意識することができます。

・学級には、多様な児童がいます。そこで、指導者は緻密に手立てを打っていきました。並行読書材と教科書教材を交互にした単元構成。並行読書マトリクスを示し、読書状況を視覚化。それを、交流時にも児童が活用していました。また、学習活動における大事なポイントを掲示物で提示されていました。

・個別最適な学びを引き出す、長期的な学習活動を設定されていました。その結果、児童が細かく指示をされて動くのではなく、一人学びからペア交流へと進むことを自ら繰り返し、個別最適化された充実した学びが実現できました。細かく指示をする学習活動は、時間を持て余す子、時間の足りない子を生み出します。

・本実践のような、長期的な学習活動を生み出すのに、指導者は、授業構想段階で、以下①～⑥のように、ステップを明確にする必要があります。
①魅力的なゴールに向かう学習の見通しを子どもがもつ。
②交流時間を確保するために、導入をコンパクトにする。
③シンプルな導入を実現するためには、子どもが見通しをもっていることが必要。
④交流モデルの動画を示す。
⑤子どもが判断・選択する場面を的確に設定する。
⑥一連の学習を各教科等でも習熟させる。

R3「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート②

授業公開日：令和3年11月9日
授業実践校：野洲市立野洲小学校
第4学年　算数科
授業者：角　憲幸　教諭

〔単元名〕 面積（広さの表し方を考えよう）

〔単元で育成する主な資質・能力〕
・面積の単位「㎠」「㎡」「㎢」「a」「ha」とその関係や、長方形と正方形の求積公式について理解し、公式を用いて面積を求めることができる。〔知識及び技能〕
・単位の考え方を用いたり、図形の構成要素に着目したりして、面積の表し方や複合図形の面積の求め方、単位の関係について考え、説明することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
・面積を数値化して表すよさに気づき、生活や学習に生かそうとしたり、複合図形の面積の求め方について多面的に考え、よりよい方法を追求しようとしたりしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

〔目指す「再構築」している児童生徒の姿〕
図形を構成する要素に着目し、面積の求め方について多面的に捉えたり、より簡潔・明瞭・的確な表現で図形の面積の求め方を考察したりしている姿。

◆有効だった手立て（★）・ICTの活用（☆）、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿 学びの姿

目的意識

① 発見・蓄積

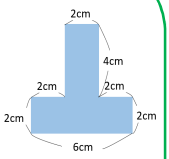
★ 目的意識を生み出す導入の工夫

面積を求める形はどんな形かな？辺の長さは？角の大きさは・・・？

長方形や正方形を発見！

図形の構成要素に着目できるように、少しずつ図形を提示していきます。

学びの姿



★ 本時の課題を明確にする場面の設定

学びの姿

前の時間に学習した形よりも複雑な形だけど・・・

今日の図形にも、正方形や長方形が隠れているよ。前の時間と同じように公式を使って考えられそうだね。

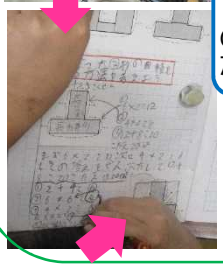
既習内容を一目で確認できる掲示物と問題を比較することで本時の課題が明確になります。

② 分析・整理

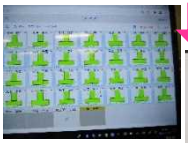
★ ☆ 自分の考えを広げたり深めたりする交流場面の設定

学びの姿

どのように図形を分解・合成・変形したかを共有画面に送信します。



友だちはどのように考えたのかな？



自分の考えを言葉、式等の多様な表現を使ってかいていきます。

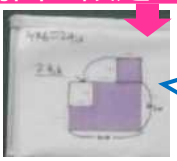
ペアや全体で、図を指し示しながら言葉や式と図を関連付けて説明しています。

どの考え方も切ったり補ったり移動させたりして正方形や長方形にしているよ。

切って移動する考え方は初めて知ったよ。

③ 再構築

★「わかったこと」を活用する場面の設定

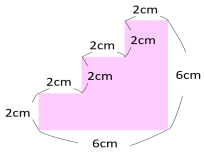


学びの姿

この方法が一番わかりやすかったよ。その理由は、・・・

もっと複雑な形の面積を求める「適用問題」で「分かったこと」を「できた」につなげました。さらに、面積の求め方について多面的に捉えたり、より簡潔・明瞭・的確な表現で図形の面積の求め方を考察したりしている姿も見られました。

☆ 発展問題をタブレットで送信



6×(2＋6)÷2＝24

「発展問題」で倍積変形につながる移動についても考えてみます。
この問題は、式を読んで、その式が表す意味を図で表します。タブレットに問題が入っているので、いつでもチャレンジ可能です。

資質・能力

授業者の振り返り

1学期は

・児童が、目的意識をもつこと、学びがつながる教室環境を整えること、学んだことが日常生活や他の教科につながるようにカリキュラム・マネジメントを行うことを意識して授業づくりに取り組みました。

・1学期は、できる子だけが発言する授業になってしまいました。

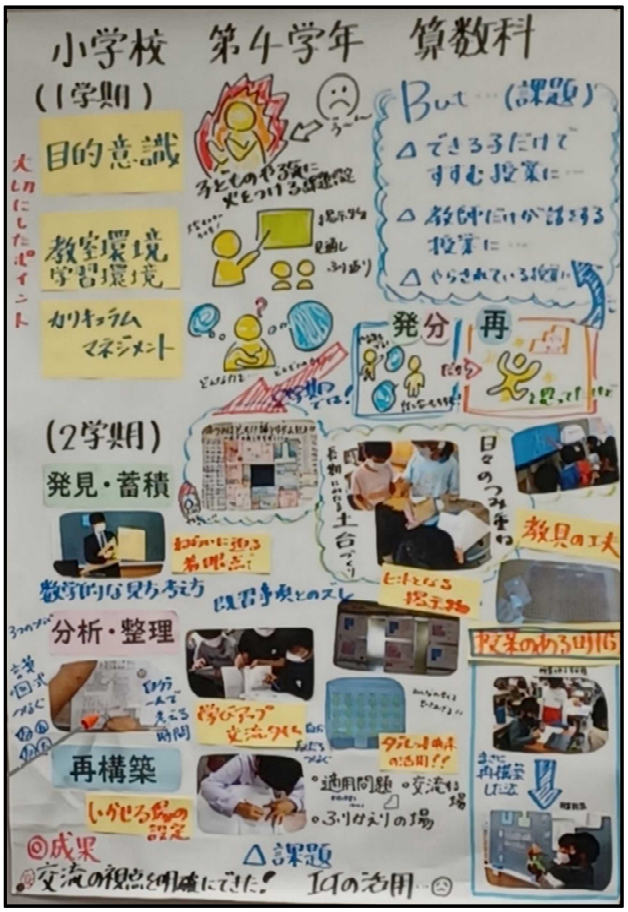
２学期は

・児童が自由に自分の考えを交流する場面を授業の中に多く取り入れるようにしました。交流の視点を示したり、伝え合うときのルールを意識したりするなどの指導を積み上げていきました。

・単元を通して、1時間ごとの再構築の姿を具体的に想定しました。児童の目指すゴールの姿を明確にすることで、逆算をし、それぞれのプロセスでの学びの姿を明 確にすることができました。

・効果的な場面でICTを活用することが課題です。

・これまで、読み解く力が自分のゴールになっていました。算数科の資質・能力を育成する視点が欠けていたと思います。授業を整理すると、自然と「読み解く力」の三つのプロセスとなることが分かりました。



「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント

・導入場面では、少しずつ図形を提示するなどの工夫により、角や辺、頂点などの図形の構成要素に着目したり、複合図形が長方形や正方形が組み合わさってできている形だということに気付いたりすることができました。また、前時に学習したL字型よりも形が複雑になっていることに気付くことができ、「前時よりももっと複雑な形の面積はどうやって求められるのかを解決する」という目的意識をもつことができました。

・展開の場面では、個々の考えをタブレット端末から共有画面に一斉送信し、クラスのみんなと共有しました。児童は、画面に提示された友だちの考えを見て、多様な考えがあることに気付くことができました。また、児童同士が自分の考えを何人もの友だちと自由に交流することで、どんどん説明が洗練していく様子が見られました。特に、「ここはどう考えたの？」、「もう一回教えて。」、「ここは私の考えと同じだよ。」など、自分の考えと比較しながら交流ができているペアも見受けられました。これまでの継続した指導の成果がよく表れていました。

・さらに、「目的をもったペア交流」を進めるために、「分析・整理」の場面でのICTの活用も考えられます。今回の授業では、共有した画面を見て、「私は ここまで考えたけれど、ここから先がわからなかった。」という児童は、同じところに線を引いている児童（同じ考えをしている児童）に考えを交流しに行く、また、「自分の考えには 自信がある」という児童は、違うところに線を引いた児童（違う考えをしている児童）に交流をしに行くことで、さらに自分の考えを深めたり広げたりすることができます。

・児童は、ノートに図や言葉、式等の多様な表現方法で自分の考えをかくことができています。交流の際には、その式が図のどの部分にあたるのか、その説明の言葉は、式のどの部分にあたるのか等にこだわり関連付けていくことで、より理解を深めることができます。

・「再構築」を図る適用問題では、多様な考えから、「なぜ、その考え方が良いと思うのか。」について考えることで、より簡潔・明瞭・的確な表現で図形の面積の求め方を考察したりしている姿も見られました。

・自分の考えを安心して表現できる人間関係や、思いやりをもって関わり合い、互いの違いを認め、高め合える学習集団づくりが土台となり、授業が展開されていました。

R3「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート③

授業公開日：令和3年10月29日
授業実践校：長浜市立余呉小中学校
第4学年　よごふるさと科（総合）
授業者：野村祐美子 教諭 ・ 清水としみ 教諭

〔単元名〕 しずくのゆくえ

〔単元で育成する主な資質・能力〕
余呉の自然環境の特徴やよさ、それを支える人々の努力や工夫、自然と共存していくことの素晴らしさについて理解し、自然環境の特徴を生かしながら、自然を生かした楽しみを見出したり、環境を守っていくために自分たちは何ができるかを考えるとともに、余呉の自然環境とのつながりを意識しながら行動したり、生活したりできるようにする。

〔目指す「再構築」している児童生徒の姿〕
・「余呉の山のすてきを広めるためにどんなことをしていくといいか」について、友だちと考えを比較したり関連付けたりしながら整理することを通して、理由や根拠を明らかにし、自分の考えを深め、確かなものにしている姿。
・体験活動等、単元の学びを自分の生活につなげ、単元を通した学びの変容を自覚する姿。
・各教科で学んだことを単元を通して自在に活用したり、使いこなしたりしながら探究する姿。

◆有効だった手立て（★）・ICTの活用（☆）、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿 学びの姿

目的意識

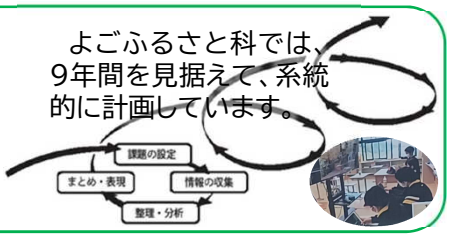
★ 連続・発展していく探究の過程

学びの姿

余呉は、山が9割。もっと余呉のことが知りたいな。

・余呉の自然をテーマに1学期に川を調べた子どもたち。次は余呉の山に興味をもちます。

よごふるさと科では、9年間を見据えて、系統的に計画しています。



① 発見・蓄積

★ 豊かな体験等による多様な情報収集

学びの姿

山の仕事を体験して感じたこと、考えたことをノートにまとめておこう！

タブレット端末で写真撮影したことをもとに

☆ 収集した情報の活用

山を探検したときに見つけたものです。
もっとみんなに知ってもらうためには…

学びの姿

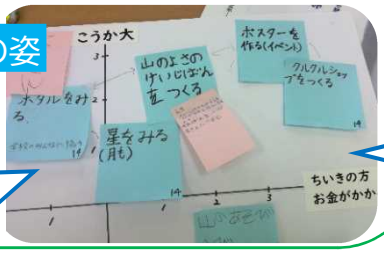
・収集した情報は、端末に蓄積しておき、必要に応じて写真や文章を活用しながら話し合います。

② 分析・整理

★ 話合いの可視化・構造化

・思考ツール（座標軸）を活用し、付箋を貼りながらアイディアを出し合います。
・収集した情報を根拠にして話し合います。

学びの姿



このグループは、複数の考えを関連付けているよ。
私たちの考えも関連付けられないかなぁ。

★ 各教科等で身に付けた力の活用

・収集した情報は、端末に蓄積しておき、必要に応じて写真や文章を活用しながら話し合います。

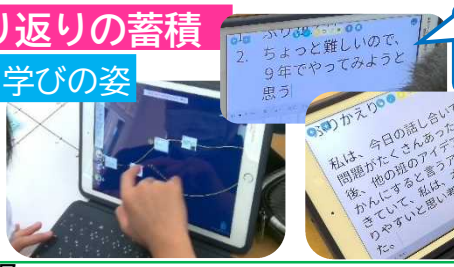
今回使った思考ツール（座標軸）は、国語で学習したものです。アイディアを整理したり、関連付けたりするときに使っています。

③ 再構築

☆ 端末を活用した振り返りの蓄積

・振り返りをロイロノートで入力し、蓄積しています。これまでの自分の考えと比べることで、自身の変容を自覚することができました。

学びの姿

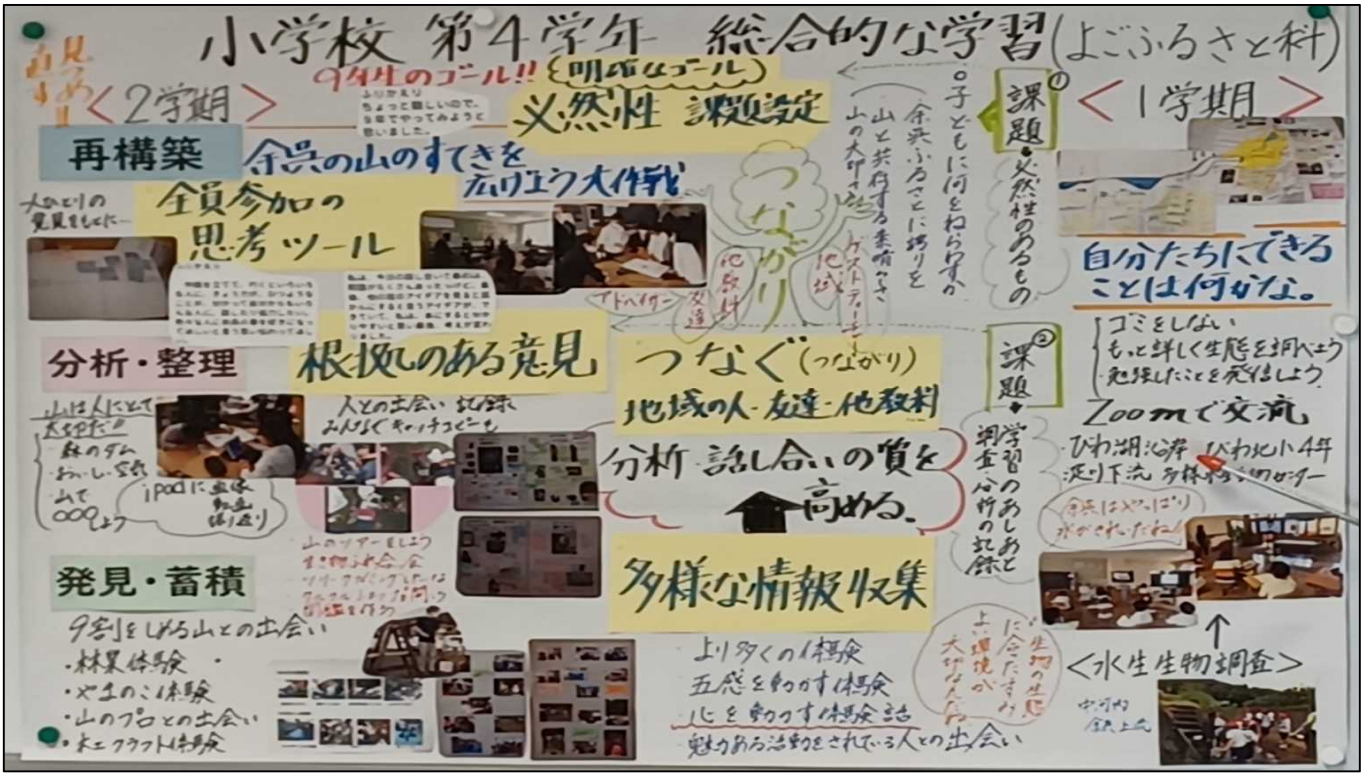


9年生（中学校3年生）でやってみたいことが見つかったよ。

他のグループのアイディアも参考になったよ。

資質・能力

授業者の振り返り



・よごふるさと科では、9年間を通して余呉の魅力を追究し「住み続けたい余呉のまち」をつくりあげていきます。特に、次の三つの視点を大切にしています。

① 余呉のよさや課題への気付き
② 余呉の魅力や課題を学び、まとめ、伝える力
③ 地域の方など様々な人からの学び

・ 4年生は余呉の自然をテーマに学習を進めます。

1学期は 余呉の川の魅力に迫る！

・1学期は、余呉川の水生生物調査をしました。探究を経て見いだしたことを踏まえ、自分たちにできることは何かを話し合いましたが、具体的でないものが多く、根拠も曖昧でした。

・学習の足跡として、体験や調査分析の記録が十分でなく、事実に基づいて考えることが課題でした。

2学期は 余呉の山の魅力に迫る！（やまのこ事業を活用）

・2学期は、ねらいに基づき明確なゴールを設定し、必然性のある課題を設定しました。

・心を動かす豊かな体験等による多様な情報収集と、根拠を明確にした考えの形成、全員参加の思考ツールを用いた交流が、よりよい再構築につながったと思います。明確な根拠に基づいた具体的なアイディアや、自分たちの生活に関連したアイディアが生まれました。

・本単元では、学びを充実させるために、次の三つの「つなぐ(つながり)」を大切にしました。
①多様な場面で地域の人とつながる
②交流等を通じて、友達と考えをつなぐ
③他教科等と総合を意図的・計画的につなぐ
（理科や社会科の学習に関連させた単元計画、国語科で学習した思考ツールの活用等）

「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント

・教科書がない総合的な学習の時間は、各学校で創意工夫をするとともに、明確な目標（育成を目指す資質・能力）を設定し、内容を計画する必要があります。よごふるさと科では、豊かな地域教材を活用しながら、小中9年間の学びを見据えて計画されています。大切にしている三つの視点は、三つの資質・能力とも大きく重なります。

・本授業では、授業者が「再構築」について、具体的な児童の姿でイメージされていました。そして、その姿を実現するためには、どのような分析・整理が必要か、どこからどのように発見・蓄積する必要があるかといったように、再構築から逆算して単元を設計されたことで、学習活動が資質・能力の育成につながりました。

・「再構築」については、様々な姿が考えられますが、特に「資質・能力」と「深い学び」に関わる姿を大切にしたいところです。総合的な学習の時間における「深い学び」の一つとして、各教科等で身に付けた資質・能力を何度も活用・発揮することが考えられます。本授業では、活用・発揮できるような学習場面を生み出すとともに、意図的な掲示物や教師の価値付けによって活用・発揮しやすい環境が整えられていました。

・思考ツール（座標軸）と付箋を活用したことで、全員が視覚的に友だちと考えを比較したり関連付けたりしながら整理することができていました。今後、どのような方法で情報の整理・分析を行うかを児童自身が決定することを目指したいところです。

・また、ICT端末を活用することで、理由や根拠となる多様な情報を共有しながら話し合い、考えを比べたり、関連付けたり、新たな考えを生み出したりすることができました。

R3「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート④

授業公開日：令和3年11月10日
授業実践校：高島市立本庄小学校
第5学年　理科
授業者：川端　宣実　教諭

〔単元名〕 流れる水のはたらきと土地の変化

〔単元で育成する主な資質・能力〕
流れる水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら、流れる水の働きと土地の変化を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

〔目指す「再構築」している児童生徒の姿〕
水量を増やしたり斜面の傾きを大きくしたりすると、流れる水のはたらきはどのように変化するのかについて、撮影した実験の動画を繰り返し確認しながら考察し、結論を導き出す姿。

◆有効だった手立て(★)・ICTの活用(☆)、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿 学びの姿

目的意識

① 発見・蓄積

★ 安曇川と関連付けた単元構成

学習したことを校区を流れる安曇川と結び付けることで、児童の意欲の向上や学習内容の深い理解につなげました。

学びの姿
単元の導入で「安曇川マップ」に疑問を書き込みました。疑問を解決するという目的意識をもって、学習に取り組みました。

☆ 結果を明確にするためのICT活用

実験の様子を動画で撮影し、実験結果を明確にするようにしました。その際、タブレットを固定して撮影することで、まずは自分の目で実験の様子を確認できるようにしました。

学びの姿
「水の量が増えたら…」、「斜面が急になったら…」など、前回の実験との違いを自分の目で確かめながら、実験に取り組む姿が見られました。

② 分析・整理

☆ 実験動画を繰り返し確認しながらの考察

撮影した実験動画を繰り返し確認したり、前回の実験動画と比較したりしながら考察しました。
タブレット上に書き込んだ考察をモニターで共有しながら、全体交流を行いました。

学びの姿
前回の実験では流れなかったストローが、今回は流れているよ。

学びの姿
A児：流れを急にしたら浸食が大きくなりました。
B児：運搬や堆積についてはどうでしたか？

③ 再構築

★ 導き出した結論と安曇川とを関連付けた振り返り

教師が各ペアの考察をつなぎながら、合意形成を目的とした話合いを行い、問題に対する結論を導き出しました。

導き出した結論を踏まえ、安曇川と関連付けた振り返りを記入することで、知識を再構築し、学習内容を深く理解することができました。

学びの姿
台風や大雨で川の水量が増えると、流れる水の働きが大きくなり、けずられるかもしれない。だから、けずられないように側面がコンクリートになっています。

資質・能力

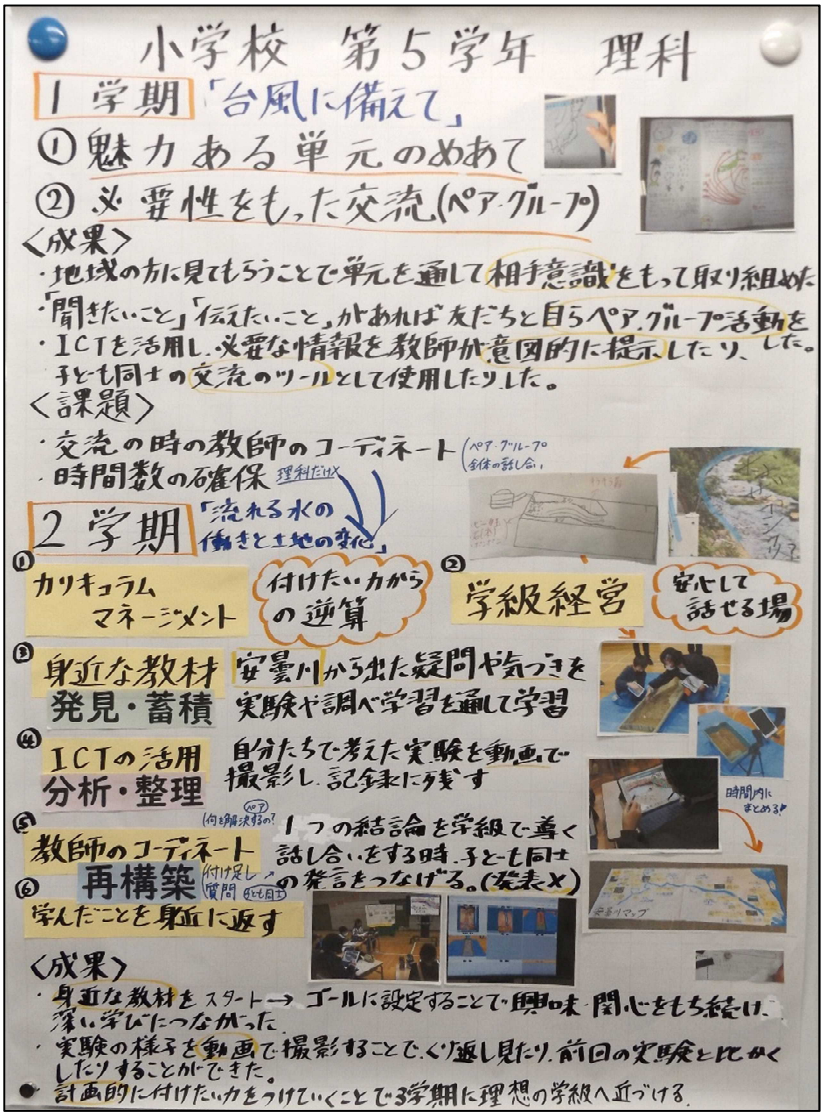
授業者の振り返り

1学期は

・「台風に備えて」の学習では、パンフレットを作って地域に発信するという、魅力ある単元のめあてを設定することで、児童は相手意識をもって意欲的に取り組むことができました。
・「聞きたいこと」、「伝えたいこと」があればペアやグループでの話合いを設定するなど、必要感をもった交流を意識しました。
・全体交流で学びを深めるための教師のコーディネートが難しかったです。

2学期は

・安心して話せる場づくりを意識した学級経営を大切にしました。
・「流れる水の働き」の学習では、安曇川についての疑問や気付きを実験や調べ学習を通して解決していきました。身近な川を教材にして、ゴールを明確にしたことで、児童は興味・関心をもち続けることができました。
・ICTを活用し、浸食・運搬・堆積の実験の様子を撮影することで、児童は繰り返し動画を見たり、前回の実験と比較したりすることができました。
・1学期の課題であった「教師のコーディネート」については、子ども同士の発言をつなげる意識をもって取り組みました。



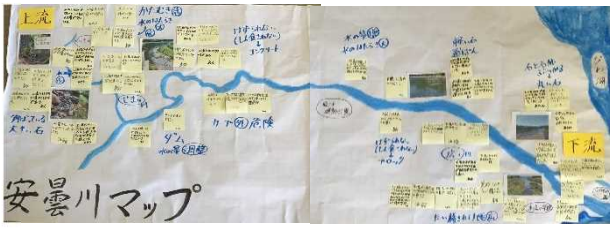
「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント

・「安曇川マップを作成して全校に伝える」という単元のゴールを設定しました。単元の導入場面では疑問や気付きを書き込み、展開場面では、実験で導き出した結論を踏まえて、安曇川との付き合い方を考えました。このように、単元を通して、校区を流れる安曇川と関連付けた指導を行うことで、児童は「目的意識」をもって学習に取り組むことができました。

・本単元で行う実験は、川のモデルを作って水を流すため、一瞬で終わってしまい、繰り返し実験を行うことが難しい実験です。このような実験では、ICTを活用して実験の様子を撮影し、実験結果を明確にすることが大切です。そうすることで、児童は撮影した動画を繰り返し確認しながら必要な情報を取り出し、考察することができます。

・ペアやグループでお互いの考えを交流する際には、自分の考えの根拠となる場面を動画から切り取ったり、切り取った場面に新たな気付きを書き込んだりすることで、話合いを活性化することができます。全体交流の場面では、教師がコーディネート役となり、児童同士の発言をつなぎながら、合意形成を目的とした話合いを充実させることが、「分析・整理」の質を高めることにつながります。

・理科の学習においては、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直したり、他教科等で学習した内容と関連付けて考えたりすることで、学習内容を深く理解することができるようになります。本単元では、問題解決の過程で導き出した結論を踏まえて、安曇川と関連付けた振り返りを毎回行うことで、児童は知識を再構築することができました。



R3「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート⑤

授業公開日：令和3年11月10日
授業実践校：近江八幡市立八幡小学校
第6学年　図画工作科
授業者：塚本　有貴　教諭

〔題材名〕 チャレンジ鳥獣人物戯画

〔題材で育成する主な資質・能力〕
「鳥獣人物戯画」について、見つけた面白さや特徴を共有したり、実際に描いてみたりすることを通して、古くから親しまれてきた日本古来の美術作品のよさや美しさを味わうことができる。
・自分の感覚や行為を通して、「鳥獣人物戯画」の形や色などの造形的な特徴を理解する。〔知識及び技能〕
・形などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、昔から多くの人々に親しまれてきた「鳥獣人物戯画」の表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。〔思考力、判断力、表現力等〕
・つくりだす喜びを味わい、主体的に「チャレンジ鳥獣人物戯画」を鑑賞する学習活動に取り組もうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

〔目指す「再構築」している児童の姿〕
作品を見て、単純に形など造形的な特徴に注目することで終わるのではなく、自分なりのイメージをもち、作品を見たり感じたり、「鳥獣人物戯画」を最初に見た頃の自分との対話や友だちと交流したりすることで見方や感じ方を深めている姿。

◆有効だった手立て(★)・ICTの活用(☆)、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿　学びの姿

目的意識

① 発見・蓄積

★ これまでの学習活動を提示、見通しをもたせる

学びの姿　本時のめあて「面白いと感じたところを強調して描いてみよう。」を具体的にイメージすることができました。

☆ 自分が描く場面を画像で示して交流

学びの姿　1時間目の「模写」、2時間目の「ブックトーク」から考えたことを交流し、「自分がチャレンジすること」を再確認しました。

② 分析・整理

★☆ 鳥獣人物戯画のもつ特徴やよさに迫るため、絵巻物に表す活動を設定

学びの姿

ICT端末に記録した「描きたい場面」の画像や資料、メモを確認しながら描くことで、どのように表現するのか、自分のイメージをもって描くことができました。

③ 再構築

★☆ 意図的指名で、モニターに提示しながら「チャレンジ」を発表

学びの姿　考えを共有することで、自分の見方や感じ方を深めていきます。

★ 気付いたことを言葉で表す振り返り

学びの姿

描く中で気付いたことを、書き留めておいたり、発表を聞いて改めて自分の絵を見返したりして、振り返ったことを書き加えました。言葉に表すことで、これまでの自分の見方や感じ方が変化していることに気付くことができました。

資質・能力

授業者の振り返り

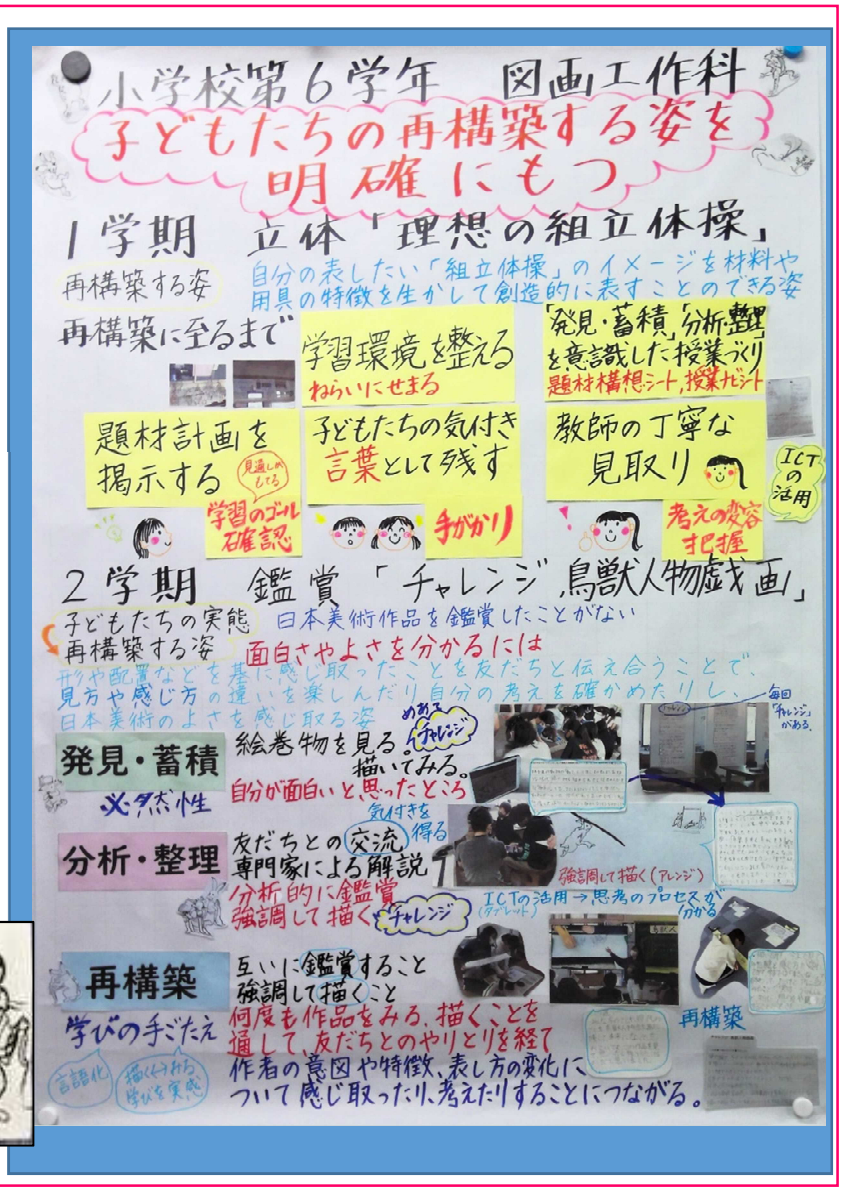
1学期は

- 「再構築」を意識することを大切にしました。
- 子どもたちといっしょに計画を立てたり、気付きを言葉で残したりすることが大切だと思いました。
- 教師の丁寧な見取りが大切だと思いました。ICT活用で学びを残すことも、子どもの考えの変容把握に、有効だと思いました。

2学期は

- 見るだけでなく、描いてみたり、専門家（図書館司書）の意見を聞いたりすることを題材に組み入れました。
- 自然な対話が生まれ、お互いが新たな気付きを得たり、知識を蓄積したりすることができました。
- 自己の解釈をもとに、自分の作品を描くことで、さらなる気付きを得ることができました。
- 振り返りでは、図工科の「見方・考え方」を踏まえて、学びの手ごたえを感じる様子が伺えました。

＜児童が描いた「チャレンジ鳥獣人物戯画」＞



「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント

- 独立して設定した鑑賞の授業や、鑑賞に重点をおいた授業の場合、作品の背景や作者についての知識は、教師が「教える」のではなく、結果として児童が得られることが大切です。本題材では、1時間目に作品と出会い、「模写」をすることで「何が描かれているのだろう」「知りたい」と思えるような【目的意識】を育む場をつくっています。そして、児童が知識を必要とするときに与えることができるように、2時間目に「ブックトーク」を設定しています。

- 〔共通事項〕に示す事項「自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること」、「形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと」を視点とした言語活動を設定することが大切です。本題材では、「見る」ことだけにとどまらず、「描く」という行為を通して見方・考え方を深め、言葉で表す活動も設定しています。

- 本時の「絵巻物に表す活動」は、1時間目の「模写」と2時間目の「ブックトーク」で【発見・蓄積】⇔【分析・整理】したものを表出する活動です。児童がそれまでの学習をもとに【再構築】している姿とも言えます。また同時に、描きながら自分のイメージを認識し、それまでの見方・考え方と比較しながら【分析・整理】している姿とも考えられます。1つの題材の中でも、1時間の授業の中でも、また、児童一人ひとりの学習活動の中でも、【発見・蓄積】⇔【分析・整理】⇔【再構築】は、何度も繰り返されます。必ずしも、最後に【再構築】が表れるのではなく、とぎれのないスパイラルのような学習が繰り返されています。

- 図画工作科では、「実際にものに触れたり、見たりすることが、資質・能力の育成において重要」です。しかし、美術作品に自由に触れることは実際には難しいです。本題材では、授業者が作品レプリカを準備しましたが、ICTの活用によって一人ひとりが自由に手元で画像を確認し、メモを加えたり、必要な資料を添付したり、見せ合いながら交流したりすることで「チャレンジすること」を具体的なイメージで捉えることに役立ちました。

R3「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート⑥

授業公開日：令和3年11月1日
授業実践校：草津市立玉川中学校
第1学年国語科
授業者：中田　利恵　教諭

〔単元名〕「竹取物語」のイチオシの登場人物を紹介しよう～蓬莱の玉の枝ー「竹取物語」からー～

〔単元で育成する主な資質・能力〕
・音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。
〔知識及び技能〕（3）ア
・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。
〔思考力・判断力・表現力〕C読むことカ
・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝えようとしている。
〔学びに向かう力、人間性〕

〔目指す「再構築」している児童生徒の姿〕
・音読に必要な文語の決まりを理解し、古文を音読し、内容を理解することを通して古典の世界に親しんでいる。
（例：「古文の音読にはこんな決まりがあるんだ。古文を読むことはおもしろい。」）
・古文を何度も読み返したり、友達と繰り返し交流したりすることを通して、自分の考えを確かなものにしている。
（例：「友達の考えや根拠を知り、もう一度自分の考えを振り返ることが大切だ。」）

◆有効だった手立て（★）・ICTの活用（☆）、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿　学びの姿

目的意識

★ 単元のゴールとこれまでの学習から、本時のめあてをもつ

これまでの学習を確認し、単元のゴール（イチオシの人物を紹介する）の達成に向け必要なことを考え、本時の学習のめあてをもちました。

学びの姿
本時の学習の目的を理解し、最後まで粘り強く取り組む姿が見られました。

イチオシを紹介するために、自分の考えをもっと確かにすることが必要だ。

① 発見・蓄積

イチオシの紹介に向け、これまで発見・蓄積したことを見直します。

② 分析・整理

★ 交流の目的、内容、方法を明確にする

交流の前に、目的（自分の考えをより確かにするために）、内容（イチオシポイントや根拠を）、分析・整理の方法（友達と自分の考えの違いに注目する）を明確にします。

☆ ＩＣＴで「立場」「考え」を共有し、多くの友達と交流する

立場を一覧で共有し、生徒が交流したい友達を選べるようにしました。また、考えの書いたワークシートを共有し、交流できるようにしました。「交流の進め方」を示したスライドを共有したことも効果的でした。

どの人と交流しようかな？

学びの姿
自分と異なる考えに多く触れたり、自分が必要としている情報を得たりすることができ、考えを広げたり、深めたりしている姿につながりました。

石上麿足には、○○な一面もあるんだ。

ここもイチオシポイントになるんじゃない？

③ 再構築

★ 学習課題に対するまとめと視点を明確にした振り返り

交流した内容を踏まえ、再度紹介する内容をまとめました。そして、最初の紹介の内容と比べ、「確かになったこと」や「できたこと」の視点で振り返りました。

学びの姿
学習の目的を意識して振り返り、学びを実感している姿が見られました。

○○の部分を付け加えたことで、考えがより確かになりました。

資質・能力

授業者の振り返り

1学期は

・発見・蓄積→分析・整理を何度も繰り返す学習展開にしました。その結果「文章の内容を踏まえたり、例を示して説明したりする姿」につながり、質の高い「再構築」につながりました。

・学習のゴールや進め方を教師から提示したため、主体的に学習する姿に課題を感じました。

2学期は

・学習に対する目的意識をもてるように、単元のゴールに向け、学習計画を立てることに取り組みました。その結果、単元を通して、粘り強く学習に取り組む姿につながりました。

・交流する力を高めることやICTの使い方など、ひとつの単元だけでなく、継続して取り組むことが必要だと感じました。

・グループで課題を解決する場面を多く設けました。そうすることで、知識を活用して説明する必要性が生まれ、資質・能力の育成につながりました。生徒が「再構築」できる環境をつくることが大切だと感じました。

・振り返りでは「何がわかったのか？」を記述するようにしました。そうすることで、生徒は新たな疑問をもち、次の学習に向かう姿につながりました。

・より質の高い「再構築」に向け、「視点や目的を明確にした交流」を継続して取り組むことが必要だと感じました。「同じ意見でも根拠が違う」「同じ根拠でも意見が違う」などの視点をもつことができるようにすることも重要だと学びました。さらに、「それはなぜ？」と問い返すことも効果があることを実感しました。生徒同士で問い返しができると、Bの側面における「読み解く力」が発揮され、交流を通して確かな資質・能力の育成につながると感じました。

実践を通して大切だと感じたこと

◎育成したい資質・能力を明確にして、単元計画を立てる！
◎ゴールとする生徒の再構築の姿を明らかにする！

「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント

・学習指導要領解説の内容から指導事項の趣旨を理解し、それを手掛かりに「読み解く力を高め、発揮している子どもの姿」をイメージし、単元を構想します。

・資質・能力の育成に向けて、生徒にとって魅力的で、授業者にとって学習のねらいを達成する適切な言語活動を設定します。

・学習のねらいやゴールを生徒と共有することで、生徒は学習の目的を理解でき、主体的に学習する姿につながります。ゴールの達成に向け、「どのように学習を進めたらよいか」を一緒に考えることも有効です。

・他者とのやりとりに向けて、目的（何のために）や分析・整理の方法（どのように）を明確にすることが重要です。交流の行い方を生徒が考えることも有効です。

・生徒自身が交流の目的をもてるように、考える時間を設定します。それぞれが目的をもつことで、個別最適な学びにつながります。

・質の高いやりとりに向けて、生徒の「問い返す力」を伸ばすことも大切です。手立てとして、教師が問い返す手本になることや、交流の中で問い返している生徒の姿を価値付けることなどが考えられます。

・学習のねらいに応じて、学習課題に対する自分の考えをまとめたり、学びを振り返ったりする時間を設定することが、「再構築」につながります。

・1人1台端末を活用して、他者の考えを共有することで分析・整理がしやすくなり、再構築につながります。また学習の指示やこれまでの学習内容を共有することにも活用できます。

・生徒自身が目的に応じて、ICTの活用方法を選択できるようにすることが大切です。

・校内研究で目指す子どもの姿と「読み解く力」の視点とを関連付け、学校全体で「読み解く力」を高めていくことが重要です。

R3「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート⑦

授業公開日：令和3年11月22日
授業実践校：米原市立伊吹山中学校
第2学年外国語科
授業者：藤川 直子 教諭

〔単元名〕 Unit 6 Research Your Topic & Research and Presentation
（New Horizon English Course 2）

〔単元で育成する主な資質・能力〕
ALTに自分たちのことをよりよく知ってもらうために、身近なトピックに関する調査とその結果発表を読んで理解し、自分たちのクラスで人気のあるものやことについて、その結果や自分の考えをまとまりのある内容で話すことができる。

〔目指す「再構築」している児童生徒の姿〕
次の授業で行うALTへの発表に向けて、調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で友達に話すことができる姿。

◆有効だった手立て(★)・ICTの活用(☆)、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿 学びの姿

目的意識

★ 生徒の実態に応じた具体的な目的・場面、状況のある言語活動の設定

学びの姿

ALTの「日本の中学生について教えてくれない？」という問いかけに答えることを単元のゴールとすることで、明確な目的意識をもって言語活動に取り組みます。

① 発見・蓄積

★ 友達の発表について「よい点」のフィードバック

聞き手は、友達の発表のよい点に着目することで、そのよさを自分の発表に取り入れます。

学びの姿

② 分析・整理

★ 生徒の姿に基づいた中間指導

指導者は1回目のグループ発表での生徒の姿を基に、「内容面」と「言語面」から、本時のゴールに向けた指導を行います。

☆ 再構築に向けた修正タイム

生徒は、撮影した自分の発表と友達や指導者からのアドバイスを照らし合わせ、2回目の発表がより豊かで確かな再構築となるよう、内容や発表の仕方を吟味し、自己調整を図ります。

学びの姿

③ 再構築

☆ 「即興で」話す力を育成するためのICTの活用

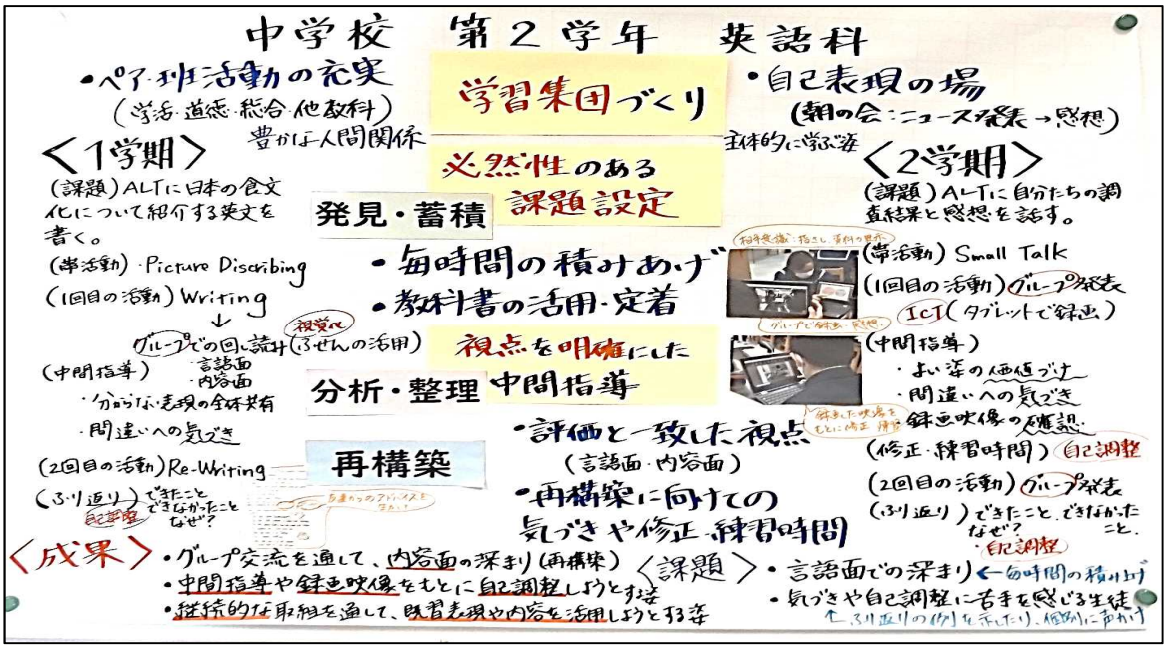
原稿を書いて暗唱したりするのではなく、伝えたい内容について、グラフや表、キーワードのみをタブレットに示し、それらを頼りに、調査結果や自分の考えを相手に分かりやすく自分の言葉で伝えます。

学びの姿

中間指導や修正タイムを生かして、ALTの先生により分かりやすく、詳しく伝えよう。

資質・能力

授業者の振り返り



1学期は

・各教科等の学習におけるペア、班活動の充実や朝の会での自己表現の場の設定を通して、学習集団づくりに力を入れて取り組みました。

・ある単元では、「書くこと」の学習において、「ALTの先生に日本の食文化について紹介文を書こう」という目的のある言語活動を通した指導を行いました。
→授業におけるグループ交流では、生徒の実情を踏まえて「内容面」に焦点を当てて友達が書いたものを互いに読み合う活動を行いました。しかし、「言語面」の定着に課題が見られ、交流を通して「内容面」を深めることの難しさを感じました。

2学期は

・学習を通した豊かな人間関係づくりと主体的に学習に取り組む態度の育成に力を入れ、引き続き、学習集団づくりと授業づくりの両輪を大切に取り組みました。

・本単元では、「話すこと[発表]」の学習において、「ALTの先生に日本の中学生についてよりよく知ってもらおう」という目的のある言語活動を通した指導を行いました。
→友達との学び合いを通して、再構築に向けて粘り強く取り組む生徒の姿が見られました。
→事実だけではなく、自分の思いや考えを英語で伝えるなど、「内容面」に深まりが見られるようになりました。
→「言語面」の定着については、教科書のよりよい活用についてさらなる工夫が必要であると感じました。

「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント

文部科学省　初等中等教育局
外国語教育推進室
教科調査官　山田　誠志　氏

・生徒が間違いを恐れず、英語によるコミュニケーションを通して資質・能力を育成することができるよう、学習集団づくりと授業づくりの両輪で日々の実践を積み重ねることが大切です。

・生徒の実態に応じた具体的な目的・場面、状況のある言語活動を通して、資質・能力の育成を目指します。

・単元の目標として付けたい力は、単元を通して繰り返し指導します。また、単元の中で繰り返すだけでなく、1 時間の授業の中でも＜言語活動－中間指導－言語活動＞という繰り返しのある指導によって、「内容面」をより豊かにし、「言語面」の正確さを徐々に高めていく指導を心掛けます。

・生徒が確かなゴールイメージをもって言語活動に臨めるよう、気付きを促すインプットを十分に行います。この時、言語材料の示しすぎや与えすぎに留意が必要です。

・既習の言語材料を言語活動の目的・場面、状況に応じて生徒自身が正しく活用できるようになるためには、ある程度の時間が必要です。教科書にあるPracticeやActivityを生徒の実態に応じてアレンジすることにより、持続可能な言語活動を日々実践することが大切です。

・「読み解く力」の視点を踏まえた授業づくりでは、指導と評価が一体化されていることが必須です。外国語科においては、「内容面」「言語面」がより豊かで確かなものとなるよう指導し、3観点で評価します。

R3「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート⑧

授業公開日：令和3年11月12日
授業実践校：豊郷町立豊日中学校
第3学年社会科
授業者：松谷 直宏　教諭

〔単元名〕 個人の尊重と日本国憲法

〔単元で育成する主な資質・能力〕
・個人の尊重についての考え方や法の意義、法に基づく政治および日本国憲法の基本原則などについて理解する。〔知識及び技能〕
・日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察する力、思考・判断したことを説明する力を養う。〔思考力・判断力・表現力等〕
・個人の尊重と日本国憲法について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。〔学びに向かう力人間性等〕

〔目指す「再構築」している児童生徒の姿〕
①「発見・蓄積」、②「分析・整理」のプロセスを通して、他の人の意見を参考にしながら、自分の立場を明確にして、多面的・多角的に考察し、自分の意見を表現している姿。

◆有効だった手立て（★）・ICTの活用（☆）、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿（学びの姿）

目的意識

★「単元を貫く問い」と本時の「めあて」の確認

学びの姿
「単元を貫く問い」と共に、本時の「めあて」を確認し、目的意識をもって学習に取り組んでいます。

道路拡張計画に賛成？反対？立場を明らかにして、その理由を説明しよう

① 発見・蓄積

★考える視点の確認
①個人の尊重と公共の福祉
②効率と公正

学びの姿
視点に基づいて考えられているか、自分の意見を見直しています。

② 分析・整理

☆賛成・反対それぞれの立場の意見をタブレットで確認
⇒グループで意見交流

学びの姿
自分と反対の立場をとる人たちと意見交流する中で、自分の意見を再整理したり、相手の意見を踏まえて、意見を修正したりしています。

歴史的景観や住民の生活にかかせない商店を奪うのは、地域住民の利益にならないのでは？

③ 再構築

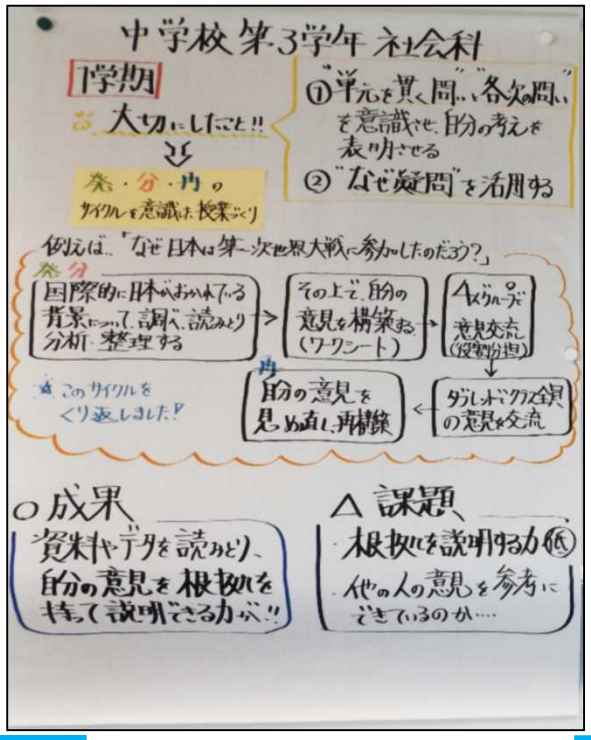
★☆影響を受けた意見に印（いいねボタン）
⇒自分の意見をタブレット入力

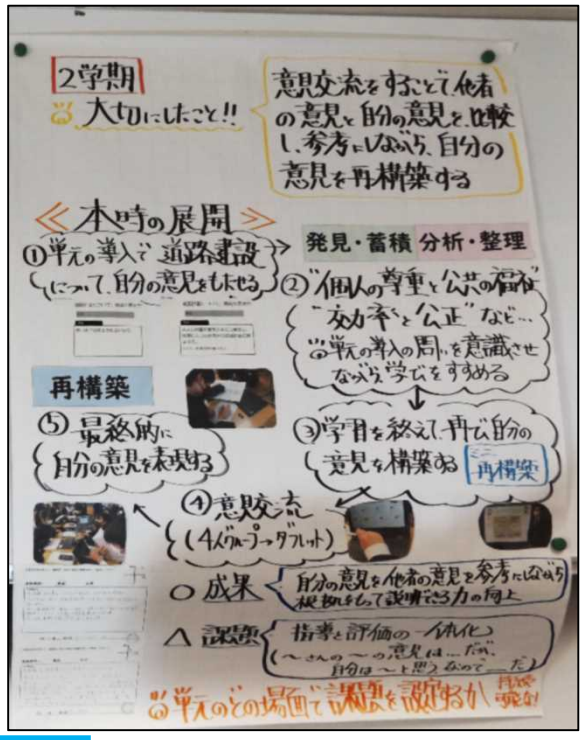
学びの姿
タブレットを用いて、学級全体で意見を共有することで、影響を受けた意見に注目することができます。

学びの姿
再整理された自分の意見や他の人の意見を参考にして、最終的な自分の意見をタブレットに入力しています。

資質・能力

授業者の振り返り





1学期

【大切にしたこと】

① 「単元を貫く問い」と「各次の問い」を意識する、ことで自分の考えを明確にもてるようにしました。

② めあてに「なぜ疑問」を活用するようにしました。

【成果】

・資料やデータを読み取り、自分の意見を根拠を持って説明する姿が見られるようになりました。

【課題】

・根拠を説明する力がまだ不十分な点と他者の意見を参考にできていない点が課題であると感じました。

2学期

【大切にしたこと】

① 単元の目標を明確にすることで、生徒にとってわかりやすい授業をつくるようにしました。

② 意見交流の中で、他者の意見と自分の意見を比較・検討し、自分の意見を再構築することを大切にしました。

【成果】

・単元のどの場面で学習課題を設定するのかを意識しながら単元を構想したことで、計画的に読み解く力の向上に取り組むことができました。

・再構築の視点を取り入れた授業をつくることで、生徒たちが他者の意見を参考にし、根拠をもって説明する力が身に付いてきたと感じました。また、多面的・多角的な視点を大切にする生徒の姿が見られるようになりました。

【課題】

・単元で育成を目指す資質・能力を身に付けた具体的な姿を明確にし、指導と評価の一体化を意識する必要性を感じました。

「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント

東京大学大学院教育学研究科
教授 藤江 康彦 氏

【授業について】

・道路拡張に伴う論争の構造化がなされており、課題の整理につながっています。

・多様な意見を取り入れながら、自分の意見をより確かなものにするために社会科の既習事項を用いていくという学びのプロセスがありました。社会科の授業では、今回のように架空の意見を資料としたり、あるいは実際に起きた過去の判例を資料としたりすることは有効です。

・自分の意見の確認では、論証的であるかどうかを事実・主張・根拠に基づいて考えられていました。 加えて、グループでの話合いだけでなく、文字にして書く活動により再構築につなげていました。

・ICTの活用では、全体の傾向(世論)と特定の意見の確認ができたことと、個別にアクセスすることに意味があり、自分の意見を冷静に考えるためにも重要です。

・ワークシートが、上下二段になっており、自分の書いたものがどう変化したのかが見える形になっていたことで学びの実感を得ることができました。また、「効率」と「公正」で考えることの良さを価値付けられていました。

・「効率」と「公正」の四象限を用いることで、自他の違いをまず把握した上で、具体的な意見を聞くことができました。賛成か反対かの軸だけでなく、同じ賛成意見でも根拠等の違いに生徒が敏感になれました。

【単元について】

・「効率」と「公正」は、現代社会をとらえる基本的な概念的枠組み(見方・考え方)で、それを単元においてどのように育んでいくか、そして、どのように引き出し、伸ばし、価値付けるかがポイントです。

R3「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート⑨

授業公開日：令和3年11月18日
授業実践校：大津市立日吉中学校
第3学年数学科
授業者：苗代　峻平　教諭

〔単元名〕 相似な図形

〔単元で育成する主な資質・能力〕

・平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解することができる。　〔知識及び技能〕(1)ア
・三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。
・平行線と線分の比についての性質を見いだし、それらを確かめることができる。
〔思考力・判断力・表現力等〕(1)イ
・相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。
〔学びに向かう力人間性等〕

〔目指す「再構築」している児童生徒の姿〕

既習の知識・技能を使って課題に取り組むことで、2年生と3年生で学習した内容（いろいろな四角形や中点連結定理）について、グループでの交流をもとに再構築する姿。

◆有効だった手立て（★）・ICTの活用（☆）、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿 学びの姿

目的意識

① 発見・蓄積

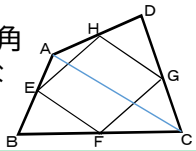
② 分析・整理

③ 再構築

資質・能力

★ 深い学びにつながる課題の設定

四角形の各辺の中点を結んでできる四角形は平行四辺形であることを基に、新たな図形の性質を発見することを目指します。

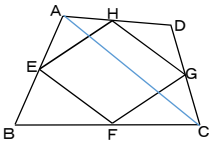


★☆ＩＣＴを活用した主体的な探究活動

ICTの活用によって、試行を容易に繰り返すことができます。操作することを通して、自分で性質を発見します。

学びの姿

ICTを活用し、一人ひとりが四角形ABCDの頂点を動かし、特殊な四角形を見つけることから課題を深く理解します。



★ グループでの交流

対角線AC、BDにどのような条件を加えると長方形・ひし形になるか、まずは自分の考えをもちます。次に自分で考えたことと他者の考えを比較し、考えたことを整理していきます。

学びの姿

自分の考えと他者の考えを比較することで、自分の論理を確かめ、理解を深めます。

長方形・ひし形になる条件を基にして、さらに正方形になる条件を考えています。

★ 交流したことをもとに、図形の性質を捉え直す時間の設定

対角線の条件を変えることで、四角形EFGHの形が変化しました。このことより、既習の正方形、ひし形、長方形、平行四辺形の性質について捉え直すことができました。

学びの姿

解釈した内容を既習の四角形の知識と結び付けながら図形の性質や中点連結定理について考えを深めます。

授業者の振り返り

1学期は

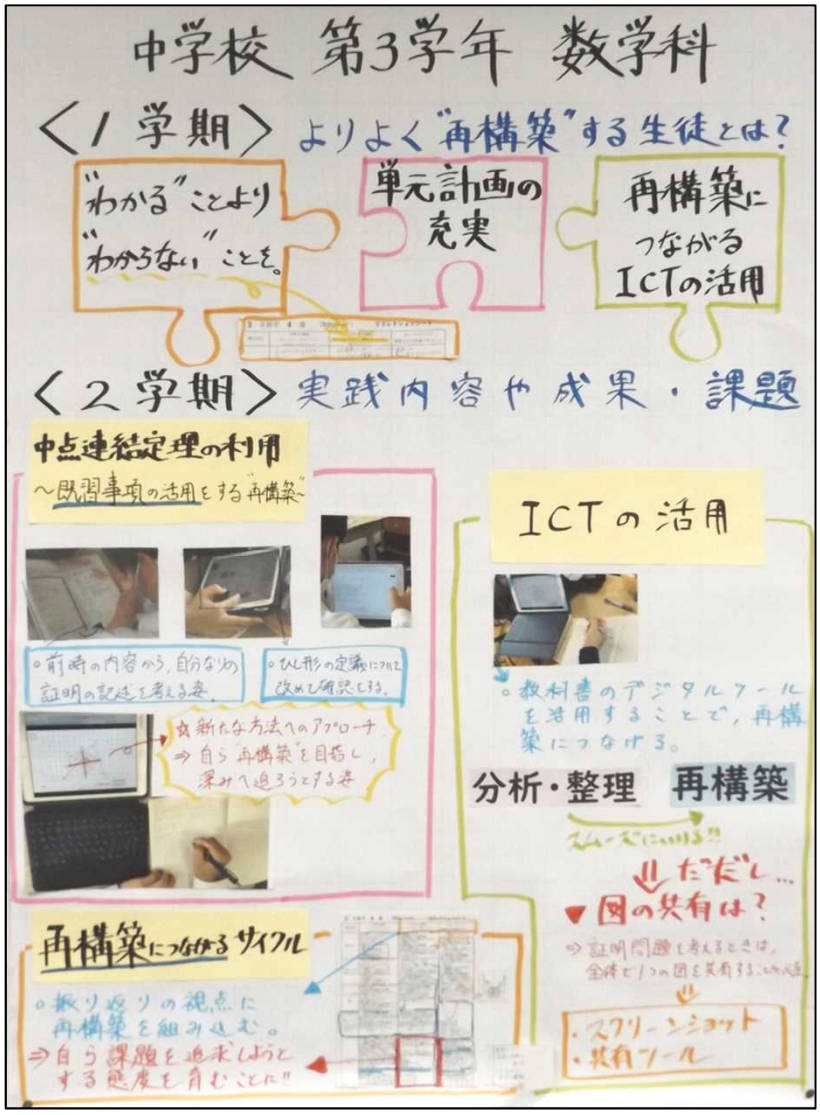
・生徒アンケートから、生徒は自分の成長を“わかることが何か”でなく、“わからないことが何か”を自覚し、改善することと捉え、日々取り組んでいるという声が複数ありました。このことから、授業の最後の振り返りシートに、わからないことや疑問に思ったことを記述することに取り組みました。

・「読み解く力」を意識し、特に自力解決の時間の確保を念頭におき、単元を計画し実施しました。

2学期は

・前時までの既習事項を活用する場面をつくることで、ノートや教科書を見返し、自己調整する姿が見られました。

・ICTを活用することで、ノートに図をいくつもかくことなく、繰り返せることから主体的に活動する姿が見られました。また、自ら興味をもったり、疑問に感じたりしたことを調べました。



「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント

・算数・数学の問題発見・解決の過程については、型のようにして捉えて授業を計画するのではなく、生徒が問いをもって主体的に取り組む営みとすることが大切です。

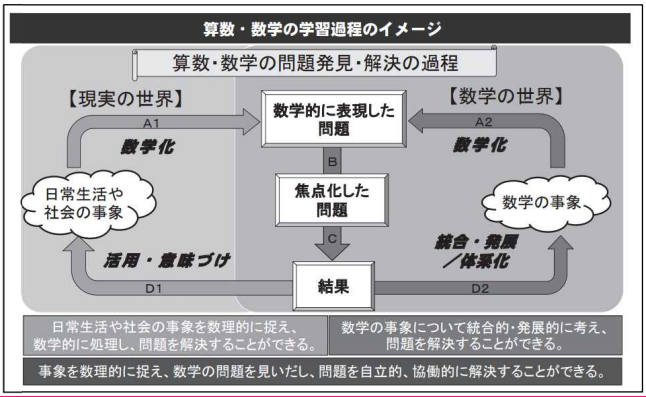
・「条件を変えても、同じようなことが成り立つのではないか。」「同じことが成り立つように前提条件を変えることはできないか。」などという問いをもつこと、それを数量や図形、その関係に着目して数学的に確認することで、本質的な条件となるものを見いだし、事象を統合的・発展的に考察することが深い学びにつながります。

・本事例のように、生徒が問題解決の過程を一周、二周と回していくような学習課題を設定することが考えられます。

・本事例では、事柄を予想しようとする、根拠を明らかにして成り立つことを説明しようとするといった、生徒の数学への態度を期待しました。そのための手立てとして、事柄を予想するためのICTの活用、証明の方針を図形の定義をもとに確認するなど、生徒が目的意識をもって問題解決に取り組むことができるようにしました。

・中点連結定理を根拠として証明をする際に、生徒が本質的な条件に気付くことができるようにするためには、前時の問題解決を振り返って、前提を変えても変わらない部分、変えなければいけない部分を確認したうえで、証明をかきはじめるように指導することが大切です。

・問題解決の過程を振り返る場面では、「自分がわかる(できる)ようになったのは授業のどの場面、何がきっかけだったのか」といった端緒を自身と対話して明らかにすることが、方法知の獲得につながります。



R3「読み解く力」ブロック別授業研究会

公開授業レポート⑩

授業公開日：令和3年11月9日
授業実践校：栗東市立栗東中学校
第3学年　特別活動　学級活動（1）
授業者：明石　勇気　教諭

〔単元名〕 全員が進路決定への不安を乗り越えるためにできることを考えよう

〔題材で育成する主な資質・能力〕
・話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。〔知識及び技能〕
・課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。〔思考力、判断力、表現力等〕
・人間関係を形成し、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

〔目指す「再構築」している児童生徒の姿〕
・他者の意見を聞いて自分の考えを整理し、積極的に話し合いに参加して、合意形成に向けて意見をまとめていこうとしている姿。

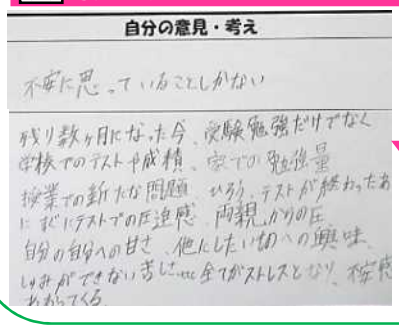
◆有効だった手立て（★）・ICTの活用（☆）、「読み解く力」を発揮している児童生徒の姿 学びの姿

目的意識

① 発見・蓄積

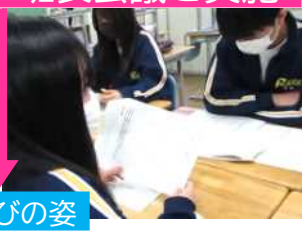
☆ みんなの意見を集約

★ 振り返りカードで思いを集める



学びの姿
進路選択について、自分の心の中に大きな不安があることを確かめました。

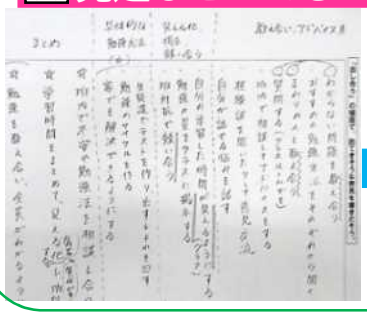
★ 代議員・班長会議を実施



学びの姿
代議員と班長が集まり、みんなの振り返りカードを読みました。進路決定への不安を全員が乗り越えるために、今こそみんなで話し合い、みんなで支え合う必要があると考えて、議題を選定しました。

② 分析・整理

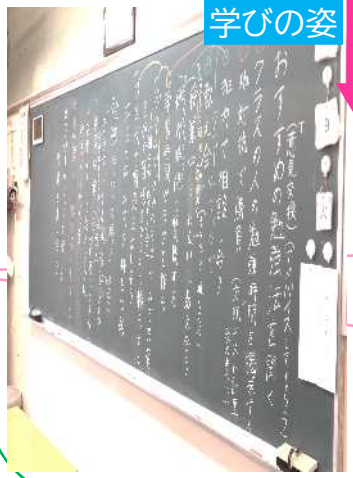
★ 見通しを立てるシュミレーション会議



学びの姿
代議員・班長で、全員のカードを読みました。どんな話合いになるかイメージを広げ、司会進行の仕方を相談しました。

③ 再構築

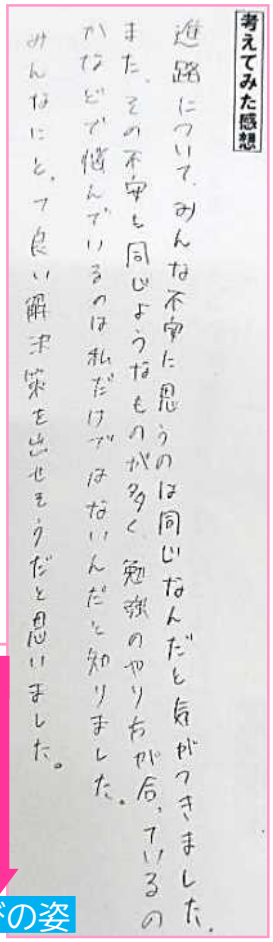
★ 板書計画を生かして意見を分析・整理



学びの姿
書記担当者は、シュミレーション会議等を通して、全員の意見を事前に分析・整理し、板書計画を立てました。
司会者が発表者を指名する際に、関連する内容から順に意見を求めていくことで、板書の整理が進みます。

★ 議題選定の理由に戻る

まとめでは、「進路実現に向けて、学級全員でだからこそできることを考えて、みんなで進路決定への不安を乗り越えていきたい」という、議題設定の理由に戻って確認することが大切です。また、振り返りを大切にし、自分の成長を実感することが次なる意欲へとつながります。



学びの姿

資質・能力

授業者の振り返り

1学期は

・1問1答形式の質問に対しては、多くの生徒が挙手して発言できました。

・学級会では、自分事として考えられず、表面的な話合いになりがちでした。

・自分の意見に自信がもてない生徒が多く、学級会を開いても話合いが深まりませんでした。

・教科学習でも話合いを取り入れてきたことで、じっくりと相手の話を聞き、自分の考えを伝えられる生徒が増えてきました。

・合意形成の見通しがもてず、話合いが停滞しがちでした。

・生徒の中から、「学級会を改善し、積極的に参加したい。」と考える生徒が増えました。

２学期は

・友達の意見を参考にできるようになりました。

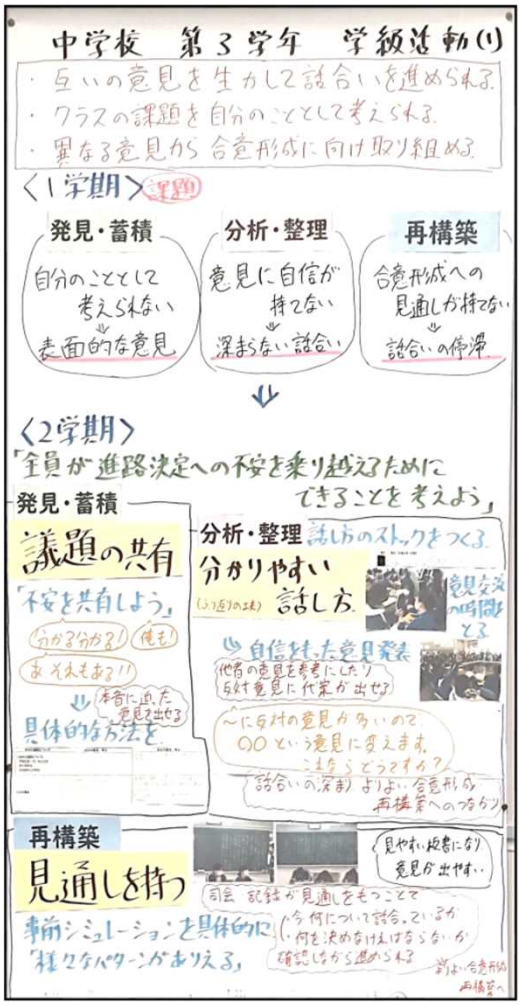
・議題を共有できるようになりました。

・シュミレーション会議により、見通しがもてるようになりました。

・自信をもって発言できるようになりました。

・合意形成に向かう話合いの中で、代案が出せるようになりました。

・学級への帰属意識が高まり、授業エスケープをしていた生徒が、積極的に学級会に参加できるようになり、教科学習においても、話合いが充実するようになりました。



「読み解く力」を高め、発揮する授業づくりのポイント

・ 何よりも大切なことは、学習の基盤となる安定した学級集団をつくることです。児童生徒が、自分の学級に対する愛着をもち、「安心できる自分の居場所」と感じられるような学級に高まっていくと、学級で起こることを自分事として考えられるようになっていきます。

・ 安心できる学級は、一朝一夕にできるものではありません。学級会を積み重ね、学級のことはみんなで話し合って決めるという文化を作っていくことが大切です。互いの意見を尊重する風土が学級の中で高まっていくことで、不安を感じていた生徒が次第に心を開き、本音で語り合うようになっていきます。

・ 本実践では、授業に入りにくかった生徒が、学級に自分の居場所を見つけ、前日のシュミレーション会議や当日の学級会でも、いきいきと発言をするようになりました。

・ 学級会では、【①発見・蓄積】の段階で時間をかけてしまい、【③再構築】にたどり着けなくなることがよくあります。そのため、初期の段階では、進行表を全員が手元に置いたり、「出し合う、比べ合う、まとめる」という基本的な流れを黒板に示したりして、見通しをもって話合いが進むように支援します。

・ 板書の仕方や思考ツールの使い方を指導し、生徒の考えを視覚化できるようにすることで、【②分析・整理】がスムーズに進み、合意形成に向けた話合いに時間を費やすことができます。本実践では、書記担当の生徒が事前に板書計画を立て、シュミレーション会議で紹介したことにより、みんなの意見を整理して視覚化することができ、論点が明確になりました。

・ 今回の題材は、進路選択に向かう生徒の不安に寄り添うもので、生徒にとって切実感がありました。児童生徒が話したくなる聞きたくなる議題を選定することで、【③再構築】の際に、お互いの意見を尊重したり、より深く考えたりするようになります。

・ 学級集団は、学級活動を通して【③再構築】を繰り返すことで、安定していくため、学級会を地道に積み重ねることが大切です。

第２学年国語科学習指導案

日　時：令和３年１０月２９日（金）５校時
学　級：第２学年１組　２８名
場　所：２年１組教室
授業者：北川　彩

１　単元名　「なりきりペープサートをしよう！～そうぞうしたことを生かして読もう～」
（「お手紙」　光村図書―下／「がまくんとかえるくんシリーズ」）

２　単元の目標

〇語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。　〔知識及び技能〕(１)ク
◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃ(１)エ
〇楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力，人間性等」

３　単元について

（１）　児童の実態

本学級には、初めての文章でもすらすらと読める児童もいれば、粒読みになってしまう児童もおり、個人差がとても大きい。また、声に出すことがとても苦手で、小さな声になってしまう児童も見られる。そのため、どの単元においても、導入までに繰り返し本文を音読できるようにして、少しでも文章を読むことに慣れたり、自信をもって学習を始められたりするようにしてきた。また、語彙が少ない児童も一定数おり、意味が分からないままに音読をしていることが多かった。そこで、文章の中で初めて出てくる言葉を動作化をしたり、具体物を示してイメージがもてるようにしてきた。そのことで、語のまとまりを意識して読めるようになったり、読み方の工夫が見られるようになった。

児童はこれまでの単元において、お気に入りのところを見つけようという経験をしてきている。また、普段から読み聞かせをする機会を設け、お気に入りのところを児童に尋ねることも繰り返し行ってきた。そうすることで、ほとんどの児童が物語の全文の中から場面の様子に着目し、自分なりの根拠をもって１番のお気に入りを決めることができるようになってきた。

また、第１学年の「くじらぐも」「スイミー」の単元では、「音読発表会」の言語活動を通して登場人物の気持ちを想像することをねらいとして学習を仕組んだ。「くじらぐも」では、挿絵、会話文、地の文と順を追って吹き出しを貼っていき、想像したことを吹き出しに書く活動を取り入れてきた。「スイミー」では、その経験を生かし、全文の中から自由に吹き出しを貼り、想像したことを付箋に書いてきた。しかしながら、想像したことを付箋に書き込むことはできたが、そのことが直接読み方に生かされるような授業展開ができなかった。書くときは書くだけ、読むときは読むだけ、というように指導者が分けて考えてしまっていたために、吹き出しに書いて想像したことが音読に生かされにくかった。

以上のことから、「お手紙」の単元では、想像したことを声に出して音読し、想像したことを確かめたり、自分が理解したことを表現することを交互に繰り返すことで、〔知識及び技能〕(１)クの「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる」と〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃ(１)エの「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる」の資質・能力を一体的に育むことができるような単元を構想していきたい。

（２）　教材について

本教材「お手紙」は、１学期に学習した「スイミー」に続く、２年生では３つ目の文学的な文章である。今まで一度もお手紙をもらったことがなく、悲しい気持ちでいるがまくんを見て、かえるくんがお手紙を書き、がまくんもかえるくんも幸せな気持ちになるという物語である。文章の中心は、がまくんとかえるくんのやりとりであり、二人の会話の中から気持ちを想像することがしやすい教材である。また、場面によってがまくんとかえるくんの気持ちも変化しており、その変化を捉え、音読や動きで表現することに適していると考える。

本単元では、「お手紙」の他にも、アーノルド・ローベルさんの「がまくんとかえるくんシリーズ」の短編集を教材として扱う。シリーズの本は、どれも短編集で読みやすく、がまくんとかえるくんのほんわかとした日常が描かれているものばかりである。いろいろなお話に触れ、お手紙で身に付けた力を並行読書材で活用することで、確かな力としたい。

（３）　指導について

第１学年及び第２学年
〔知識及び技能〕
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項
　ク　語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
〔思考力，判断力，表現力等〕
　C　読むこと
(1)エ　場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
「学びに向かう力，人間性等」
　言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書し、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

以上の指導事項を重点的に指導する。

本単元では、登場人物の行動を具体的に想像する力を身に付けられるようにしていくために、『なりきりペープサートをしよう！』をゴールに設定した。体育学習発表会でお世話になった６年生に頑張っている姿を見てもらおうという相手意識を大切にし、ペープサートを発表する。発表では、自分のお気に入りの本（がまくんとかえるくんシリーズ）の好きなところを選び、ペープサートで発表する。同じ本を選んだ友達とグループを作り、屋台形式で発表をしていく。時間の許す限り、何度でも発表を繰り返すことで、学んできたことを発揮する機会を十分に設けていきたい。

また、自分の言葉で話すのが苦手な児童がいる実態があることから、ペープサートを介することで、別の人物になりきって音読ができるような手立てとする。

ペープサートを行うために、学習を大きく４つの段階に分けて指導していく。一つ目に、好きなところを選んで音読を繰り返す学習をする。これまでの学習では、児童が本文を何度も声に出して確かめる活動が十分にもてていなかった。そのため、「これでいいのかな」「こう読もう」という思いを児童がたくさん貯めていけるような機会が少なかった。今回は、絶えず声に出して音読を繰り返していくことで、登場人物が何をしたのかという内容を確かめることができるようにしていきたい。二つ目に、音読に合わせてペープサートを動かす学習を取り入れる。そうすることで、登場人物の位置や動きなどをより具体的に想像できるようにしたい。三つ目に、本文に付け足す一言を考える。がまくんとかえるくんがどんなことを話しているのか、どんな気持ちなのかをペープサートを動かしながら考えていくことで、話し方の口調や様子が分かってきたり、なりきって音読をしたりすることにつなげていきたい。四つ目に、タブレットを活用して、自分のペープサートの姿を動画に撮り、見られるようにする。６年生にペープサートを見てもらうというゴールに向けて、自分が読みたいと思った読み方ができているかどうか、確かめたり、より高めたりしていける時間を設けたい。

（４）児童(生徒)が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	①…発見･蓄積：必要な情報を確かに取り出す ②…分析･整理：情報を比較し、関連付けて整理する ③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

ア　タブレットの活用【A1】【A2】【A3】【B2】

児童がゴールイメージを具体的にもって学習活動に取り組めるように、導入では教師があらかじめゴールモデルをビデオに録画しておき、児童に提示する。具体的な姿でゴールを示すことで、共通理解を図り、児童の中で目指す姿がはっきりとイメージできるようにしていきたい。また、学習の途中でいつでもその動画が見られるように、一人ひとりの児童のタブレットに動画を入れておき、児童が適宜活用できるようにしていきたい。

また、毎時間学習の終わりには自分の音読をタブレットで録画するようにする。そうすることで、自分の音読の変化や学びを児童自身が実感できるようにする。さらに、全員の音読の姿を教師も確認ができるため、評価にも生かしていけるようにしたい。

イ　ペープサートを行い、付け足しの一言を考える【A1】【A2】【A3】【B1】【B2】【B3】

児童がより想像を広げて読めるように、ペープサートを行い、付け足しの一言を考える。ペープサートを、文章に即して動かすことで、誰が、どうして、どうなったのかについて読みを確かにしたり、具体的に想像したりする手立てとする。また、そのときの登場人物の行動や気持ちを具体的に想像するために、付け足しの一言を考える。付け足しの一言を具体的に想像することで、嬉しい気持ち、悲

しい気持ちといった想像にとどまることなく、児童が豊かに想像する手立てとする。

ウ　想像したことを添えて音読して表現することを繰り返す【A1】【A2】【A3】
　想像したことを吹き出しに書いて終わるのではなく、想像したことを添えて音読して表現したり、理解したことを表現したりすることを繰り返すことで、より想像を広げられるようにする。そのため、ペープサートを動かしながら音読をしたり、音読をした後に吹き出しを書いたりするなど、[思考力、判断力、表現力]と[知識及び技能]の資質・能力を一体的に育むことができるような学習活動を設定する。

エ　自力解決とペア交流の行き来で学びを深める【B1】【B2】【B3】
　本単元では、自力解決の時間とペア学習の時間を繰り返しながら学べるようにしていく。その際、こちらが時間を区切って設けていくのではなく、児童が自分自身で「自分でじっくり考えたい」「友達に聞いてほしい」という気持ちを基に、自分がしたい学習の仕方が選べるようにしていく。

オ　教科書教材と並行読書をつなぐ単元構想【A1】【A2】【A3】
　『お手紙』の学習で身に付けたことを、確かな学びとするために、並行読書を行う。アーノルド・ローベルさんの本の中からお気に入りの話を選び、「６年生に向けてペープサートを行う」というゴールに向かって学習を進めていく。その際、「お手紙」での学習経験がすぐに生きるように、「お手紙」で学ぶ時間と並行読書で学ぶ時間を交互に設けていく。そうすることで、「お手紙」で身に付けた力をすぐに並行読書の本の学習で活用できると考える。

４　単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 ((1)ク)	「読むこと」において、場面の様子に着目して登場人物の行動や会話について具体的に想像している。 （C(1)エ）	積極的に、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かしてペープサートで表現しようとしている。

５　指導と評価の計画（全１１時間）

※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動	指導上の留意点　・　ICTの活用	評価規準・評価方法
0		○朝学習の時間などに絵本の読み聞かせをする。		
一	1	○単元のゴールや目的を理解し、学習の見通しをもつ。 ○教師の読み聞かせを聞き、物語の展開をつかむ。	・６年生にペープサートをするという単元のゴールと付けたい力を共有する。 ・教師が作成したペープサートモデルを動画（がまくんとかえるくんシリーズ）で提示し、ゴールイメージをもてるようにする。 ・挿絵をもとにあらすじを確認できるようにする。	
二	2	○『お手紙』の中からペープサートにしたい大好きなところを見つけて音読する。	・大好きなところは厳密な範囲指定はせず、「この辺が好きだな」という大まかなものでよいとする。 ・自分でペアを見つけて交流ができるように、全文掲示にそれぞれの児童の大好きなところが分かるように名前の付箋を貼る。	〔知・技〕 観察 ・『お手紙』の中からペープサートにしたい大好きなところを見つけ音読している様子。
	3	○並行読書の本から紹介したい話を選び、大好きなところを見つけて音読する。	・大好きなところは厳密な範囲指定はせず、「この辺が好きだな」という大まかなものでよいとする。 ・自分でペアを見つけて交流ができる	〔知・技〕 観察 ・並行読書のお話の中からペープサートに

			ように、並行読書マトリックスを使用し、掲示する。	したい大好きなところを見つける様子。
	4	○『お手紙』の大好きなところをペープサートを動かしながら音読する。	・本文を音読しながらペープサートを動かすことで、文章から離れた想像にならないように支援する。	〔思考・判断・表現〕 観察 ・想像したことを生かしてペープサートを動かしながら音読している様子。
	5	○並行読書のお話の大好きなところをペープサートを動かしながら音読する。	・本文を音読しながらペープサートを動かすことで、文章から離れた想像にならないように支援する。	〔思考・判断・表現〕 観察 ・想像したことを生かしてペープサートを動かしながら音読している様子。
	6	○『お手紙』の大好きなところについて、ペープサートを使いながら想像を広げて読み、付け足しの一言を考える。	・付け足しの言葉を添えて何度も音読し、「もう付け足しの言葉は大丈夫」と思ったら書き出すように伝える。 ・隣の人に聞こえるくらいの明確な発声を意識できるようにする。 ・自分で考えることとペアと交流することを繰り返す中で、想像を広げていけるようにする。 ・吹き出し型の付箋に書くことが難しい児童は、友達と交流する中でヒントになったことを音読し、最後に付け足しの一言が付箋に書けたらよいとする。 ・特に大好きなところを一つに絞ることで、自分の思いを明確にできるようにする。	〔思考・判断・表現〕 吹き出し ・吹き出しの内容。
	7 本時	○並行読書のお話の大好きなところについて、ペープサートを使いながら想像を広げて読み、付け足しの一言を考える。	・付け足しの言葉を添えて何度も音読し、「もう付け足しの言葉は大丈夫」と思ったら書き出すように伝える。 ・隣の人に聞こえるくらいの明確な発声を意識できるようにする。 ・自分で考えることとペアと交流することを繰り返す中で、想像を広げていけるようにする。 ・吹き出し型の付箋に書くことが難しい児童は、友達と交流する中でヒントになったことを音読し、最後に付け足しの一言が付箋に書けたらよいとする。 ・特に大好きなところを一つに絞ることで、自分の思いを明確にできるようにする。	〔思考・判断・表現〕 吹き出し ・吹き出しの内容。
	8	○『お手紙』でペープサートを使って音読している姿をタブレットで撮影し、自分の音読の仕方を確かめたり、工夫したりする。	・自分の動画を見て、ペープサートの様子を確かめる。 ・動画を見てペアと交流することで、さらに想像を広げたり、工夫したりできるようにする。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 観察 ・動画を見て、さらに工夫して音読している姿。
	9	○並行読書でペープサートを使って音読している姿をタブレッ	・自分の動画を見て、ペープサートの様子を確かめる。 ・動画を見てペアと交流することで、さ	〔主体的に学習に取り組む態度〕 観察

		トで撮影し、自分の音読の仕方を確かめたり、工夫したりする。	らに想像を広げたり、工夫したりできるようにする。	・動画を見て、さらに工夫して音読している姿。
	１０	○『お手紙』で『なりきりペープサート』をする。	・学級のみんなに向けて、ペープサートを行う。 ・並行読書のときと同じように、屋台形式の場を設定にして行う。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 観察 音読している様子。
	１１	○並行読書のお話で『なりきりペープサート』をする。	・同じ本を選んだ児童でブースを作り、屋台形式で発表をする。 ・時間内に同じ児童が何度でも発表してよいこととし、発表を繰り返す中で学習してきたことを出し切れるようにする。 ・６年生には、あらかじめこれまでの学習での頑張ってきたことや発表のめあてを伝え、そのことについて感想を言ってもらえるようにする。 ・単元を通しての振り返りを行い、それぞれの児童が学びを実感できるようにする。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 観察 今までの学習を生かして音読している様子。

６　本時の目標（本時：７／１１時間目）

場面の様子に着目して、「がまくん」や「かえるくん」の行動や会話について具体的に想像して読み、付け足しの一言を考えている。

７　本時の評価規準

◎場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話について具体的に想像している。

〔思考・判断・表現〕Ｃ(１)エ

８　本時の展開　*※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準*

	主な学習活動等	指導上の留意点(・)　ICTの活用(☆)　評価規準(□)
３分	１．本時のめあてをもつ。	・６年生に向けてペープサートをするというゴールを再度確認し、ゴールに向けてペープサートをよりよいものにしたいという気持ちが膨らむようにする。
	大すきなところをもっといっぱいそうぞうして読んで、つけ足しの一言を考えよう。	
４分	２．前時を振り返り、付け足しの一言を考えるためのポイントを確認する。	・前時の学びを思い出し、今日の学習に生かせるようにする。 〔ポイントの例〕 ・お気に入りの本文を指さして言葉を確かめながら音読する。 ・友達と好きなところを一緒に読んでからお話しする。 ・本文に続けて、付け足しの一言を言う。 ☆前時の活動の様子をＩＣＴを使って確認する。
２０分	３．ペープサートを使いながら、何度も音読し、付け足しの一言を考え、付箋に書く。 ①好きなところを声に出して読む。 ②ペープサートを動かしながら、会話を口頭で付け足してみる。（１回だけでなく何度も。隣の人に聞こえる声	・付け足しの言葉を添えて何度も音読し、「もう付け足しの言葉は大丈夫」と思ったら付箋に記入するということを確認する。それを踏まえて、いくつも書いて貼っていってもよいし、難しい児童は、友だちと交流する中でヒントになったことを音読し、付け足しの一言が付箋に書けたらよいことを伝える。 ・自分で考えることとペアで交流することを繰り返す中で、想像を広げていけるようにする。

	で） ③同じ話を選んでいる子と並行読書マトリクスを見てペアを組む。 ④何度も相手を変えながらペアで練習してみる。 ⑤「もう付けたしの言葉は大丈夫」と思ったら、自席に戻って、もう一度付け足しの言葉を話してから、吹き出しカードに書く。 ⑥ペア学習の合間に、一人で言葉を考えて、練習してみたくなったら、自席で①、②を繰り返し、自信がついたら③以降に戻る。	・児童自らが交流したい相手を見つけていけるように、誰がどの話を読んでいるかがすぐに分かる表（並行読書マトリクス）を掲示しておく。 ☆ゴールイメージや学習活動のイメージが具体的に分かるように、タブレットの中に見本となる動画を入れ、いつでも見られるようにしておく。 ・机間指導を行い、学習に困り感をもっている児童を見つけたら、個別の支援を行い、その後の学習が改善されるようにする。 〔予想される困り感〕 ・どんな風に付け足しの一言を考えればよいかわからない。 →教師の見本のビデオを見るように促す。 →付け足しの一言を考えられた子どもとつなぐ ・付け足しの一言が本文から離れすぎている。 →本文を読んでから付け足しの一言を考えることを確認する。
3分	4．想像した付け足しの一言の中から、とっておきの一言を決める。	・吹き出し型の付箋は想像したことを整理していくための手立てであるため、その枚数によって子ども達に優劣がつかないように、最終的に付け足しの一言として、付箋は１枚に絞って貼るようにする。 ・とっておきの一言を決めることで、自分の思いを明確にできるようにする。 □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像して吹き出しに書いている。 （思判表Ｃ（１）エ）
5分	5．付け足しの一言を加えて、好きなところのペープサートを発表する。	・何人かの子どもが発表できるようにし、今日の学びを確認したり、最後に録音する際にお手本となるところはないか考えながら聞けるようにする。
7分	6．ペープサートを使って音読している姿をタブレットで録画する。	・今日の学びの成果として、ペープサートを使って音読している姿を残せるようにする。 ・それぞれの児童が自分のタブレットで録画できるようにする。
3分	7．学習を振り返る。	・振り返りのワークシートを用意する。 ・今日の学習内容を踏まえて、次回どんなことをしたいかについて書けるようにする。 〔期待する児童の振り返り〕 ・つけ足しの一言が考えられたから、もっとなりきってペープサートができるようになりたいです。 ・つけ足しの一言を入れてうまく言えなかったから、もっと上手になれるようにれんしゅうしたいです。 ・６年生に上手と言ってもらえるように、何回もれんしゅうしたいです。

第４学年　算数科学習指導案

日　時：令和３年１１月９日(火)　５時間目
場　所：４年２組教室
指導者：角　憲幸

１　単元名　　「　面積　(広さの表し方を考えよう)　」(大日本図書)

２　単元の目標

（１）面積の単位「㎠」「㎡」「㎢」「ａ」「ha」とその関係や、長方形と正方形の求積公式について理解し、公式を用いて面積を求めることができる。

（２）単位の考えを用いたり、図形の構成要素に着目したりして、面積の表し方や複合図形の面積の求め方、単位の関係について考え、説明することができる。

（３）面積を数値化して表す良さに気付き、生活や学習に生かそうとしたり、複合図形の面積の求め方について、多面的に考え、よりよい方法を追求しようとしたりしている。

３　単元について

(１)児童の実態

本学級の児童は、明るく、新しいことに対して興味をもって意欲的に取り組もうとする。しかし、算数科の学習においては、意欲的に取り組む児童と苦手意識をもつ児童の両極端に分かれている。４月には、苦手意識をもつ児童は、「まず、何をしたらよいのか分からない」と学習に見通しをもてなかったり、「間違えたらどうしよう」と間違う怖さから学習に消極的となったりする様子が見られた。そこで１学期から子どもたちが学習の主体者であることを意識して学習に向かうことができるように取り組んできた。例えば、課題解決の手がかりを全体で共有する場を各時間に設定して見通しを明確にしてから自分の考えを書いたり、自分の考えを周りの友達と確認して助言し合うことで考えを認め合ったりする活動を取り入れてきた。その結果、少しずつ自分の考えを式や言葉を使って表現できるようになってきている。苦手意識をもっていた児童も「ここまではできたけど、ここからは分からない」と課題解決に向け、自分の状況を認知するようになってきている。さらに、児童が考えを発表する際には、理解したことを自分の言葉で表現したり友達と共有したりする場を繰り返し設定してきたことで、「自分の考えを伝えたい」と言う児童が増え始めている。

(２)教材について

学習指導要領における位置付け

Ｂ（４）平面図形の面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　次のような知識及び技能を身に付けること。 （ア）　面積の単位（平方センチメートル（㎠）、平方メートル（㎡）、平方キロメートル（㎢））について知ること。 （イ）　正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解すること。 イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えるとともに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察すること。

児童は、これまで広さを直接比較したり、身の回りにある物の広さを任意単位として、そのいくつ分かで表したりすることを学習した。加えて、３学年までに、長さ、かさ、重さについては、普遍単位の意味とそれらを用いた測定を学習してきている。４学年では、角の大きさについても、同様に学習を進めてきた。

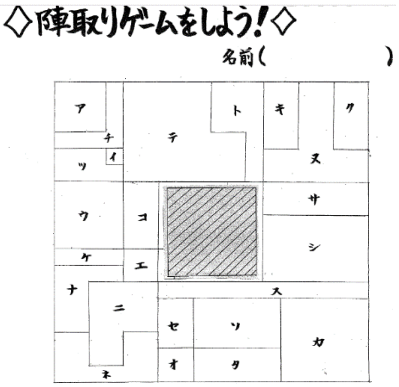
本単元では、主に図形の計量の仕方について考察する資質・能力を育成する。面積の単位や図形を構成する要素に着目し、計算によって面積を求める方法を考察させる。その際、単位正方形が規則正しく並んでいることから、その個数を手際よく求める良さに気付いたり、「長方形の面積＝縦×横」という公式を見いだしたりすることで、これまでに学習してきた乗法についてもより一層理解を深め、統合的・発展的に考察する態度を養っていきたい。

図形の構成要素に着目して面積や体積を計算で求める学習は、５学年の「四角形と三角形の面積」、「体積」、６学年の「角柱と円柱の体積」へと発展していく。

(３)指導について

「やってみたい」「考えてみたい」を引き出す学習課題の工夫

児童が目的意識をもち、主体的に学習を進めるために、「陣取りゲーム」を題材とした学習課題を設定する。ペアで「陣取りゲーム」をすることで、児童は形に着目して図形を見るようになると考える。「陣取りゲーム」では、様々な形(正方形・長方形・Ｌ字型・凹凸型)を組み合わせた陣取りゲームを作成しておく。児童はより広い形を得るために、試行錯誤すると考えられる。そこから、数値化できる単位量が必要であること、垂直に交わる二辺を計算することで正方形や長方形の面積を求めることができることを見いだすように仕向ける。また、学んだ知識を用いて求めることができる形とそうでない形があることで、何ができて何ができないかという学びの認知が生まれることも期待でき、単元を通して目的意識をもち続けて取り組むことができるようにする。



本時で使う「陣取りゲーム」のシート
(中央斜線部分は、シークレットマス)

「広さ」は面の広がりであることを実感させる活動

直接比較、間接比較、任意単位による比較の方法を想起させるためにも「陣取りゲーム」を取り上げた。「陣取りゲーム」のマス目をぬりつぶす活動や広さを表す活動を通して、広さの意味を捉えさせる。一見、どっちが広いか分からない「陣取りゲーム」の結果(【ウ】の正方形と【ソ】の長方形の図形)を取り上げ、確実に広さを比べる方法を考える。本学級の児童に自由に考えさせると、既習から「①重ねて比べる」「②単位となる広さのいくつ分かで表して比べる」等の考えが出てくることが予想される。「①重ねて比べる」の方法は、１つの図形を一度重ねただけでは、どちらが広いか分からないため、はみ出た部分を再度重ねて比較する必要がある。ここに複雑さを感じることで、次に導入される任意単位や普遍単位の良さに気付かせる。

「②単位となる広さのいくつ分かで表して比べる」の方法は、単位のいくつ分かで表すという量の測定、表し方全般に共有する考え方である。長さやかさ、重さの学習でも同様の考えをしてきたことを児童自身に気付かせるように助言していく。そして、直接比較では、２つのものの広さ比べしかできないが、広さを数値化して表すことで複数の広さを比べることができることもおさえていく。

つながりを意識した「学び合い」

本単元では、児童が目的意識をもって学び合いを進め、数学的な見方・考え方を働かせて数学的な表現を用い

て、筋道を立てて説明ができることをねらい、２つの「つながり」を意識した「学び合い」を進める。

１つ目は、「既習事項とのつながり」である。児童がこれまでに積み上げた知識を学習時に活用できるように、学んだことを一目で確認できる掲示物を用意する。また、タブレット端末に個々の学びや説明の参考となるデータを蓄積にしておくことで、必要な時に必要な情報を児童が自在に取り出せる環境を整える。

2つ目は、「他者とのつながり」である。児童が多面的に事象を捉え、考えを広げたり深めたりするために、他者の視点からの情報が重要となる。児童は自分の考えをもつと、それが正しいのか「確かめたい」「伝えてみたい」という思いが生まれる。考えをもちにくい子は周りの児童がどのように考えているのか「知りたい」との思いをもち、交流をする目的意識が強くなる。児童が目的に合った交流を進めるために、ICTを活用して個々の考えを可視化し、共有することで個々の児童の学びをつなげていく。

一人ひとりの学びを「つなげる」ＩＣＴの活用

本単元では、児童が ICT を効果的に活用し、児童一人ひとりの学びを確かなものにできることをねらい、タブレット端末を取り入れた学習を進める。これまでに取り組んできた具体的な活用場面は以下の４つである。

１つ目に、「必要な情報を常に取り出せるためのタブレット端末の活用」である。今までに自分たちが書いた振り返りや友だちのすごい説明の仕方の動画等既習事項の内容等タブレット端末に学びを蓄積していくことで、いつでも必要に応じてほしい情報を選択しながら自由に児童が取り出すことができるようにする。

２つ目に、「視覚的に理解を手助けさせるための ICT の活用」である。複合図形の面積を求める時には、正方形や長方形をもとにして考える。そのために、児童の考えをもとに複合図形を縦や横に切って分けて考える方法やＬ字の図形の出ている長方形を半分だけ上に移動させて正方形にして考える等、図形を動的に捉えることができ、理解することへの手助けとなると考える。

３つ目に、「情報を共有するためのタブレット端末の活用」である。交流する際に、自分の考えを友だちに伝えるだけでは、学びを深めることはできない。タブレット端末の画面を共有する機能を効果的に使い、短い時間で友だちと考えの共通点や相違点を一目で見ることができる。児童は、交流する相手を意図的に選び、自分の考えを深めたり、広げたりすることができ、多様な考えを形成できると考えた。

４つ目に、「一人ひとりの考えを取り上げるためのタブレット端末の活用」である。まとめや適用問題を行うときには、一人で考えても、つまずく児童もいる。そのために、共有機能を活用し、個々やペアの進捗状況を確認できるようにする。挙手してあてられた児童以外の意見も見ることができるので、多くの児童の考えを授業に取り上げることができる。また、児童同士も自由に見ることができるので、友だちの考えをヒントにどのように問題に取り組むことができるのか手助けになるようにする。

アナログとデジタルの両方の良さを活用し、授業を進め、深い学びにつなげていく。

(４)児童が「読み解く力」を高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の２つの側面】	【「読み解く力」の３つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	①発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す ②分析・整理：情報を比較し、関連づけて整理する ③再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

発見・蓄積のプロセス

特にＡの側面では、既習事項との違いや疑問等を見つけ出し、課題を創り出している姿を目指す。そのために児童が目的意識をもって学習に取り組めるように「陣取りゲーム」を行う。児童はペアとなり、より広い陣地の獲得を目指すことで形に着目して図形を見るようになる。また、学習の時には、タブレット端末に学びを蓄積し

ていくことで、いつでも必要な時に既習事項を児童が取り出すことができるようにする。前時に学んだ内容が本時の学習に密に関わるので、前時の学びを本時の学びにつなげることができ、課題解決への目的意識をもち続けながら学習に取り組んでいけるようにする。

分析・整理のプロセス

特にＢの側面では、友達と説明し合ったり、発表したりする交流において、友達と自分の考えを比較・検討し簡潔・明瞭・的確な説明となっているかを吟味する姿を目指す。そのために交流の際には、児童が交流に必然性をもって取り組むように個の学びの視覚化を行う。例えばICT機器を活用し、個々の学びの様子を児童が容易に把握できるようにすることで、欲しい情報に応じて交流の相手を児童が選び、交流をより意図のあるものとできるようにする。

再構築のプロセス

特にＡの側面では、図形を構成する要素に着目し、より簡潔・明瞭・的確な表現で図形の面積の求め方を考察している姿を目指す。そのために、再構築をする場面として、「適用問題」において学んだことを生かして問題に取り組む場を設定する。また、学習の振り返りでは、観点を示して振り返りを行うことにより、児童が単元を通した自身の学びの変容を自覚することにつなげたい。

また、本時で取り扱う授業は、１時間の授業の中で３つのプロセスを意識した授業だけでなく、単元全体を「読み解く力」の視点で捉えた時にも、既習事項を活かした「再構築」する場面となっている。

【関連と発展】

１年　ながさくらべと ひろさくらべ
２年　長さのたんい
２年　長い ものの 長さ のたんい
３年　長さ

・長さの直接比較、間接比較と広さの直接比較
・任意単位を用いた長さ、広さの数値による比較
・長さの測定と普遍単位による表現
・長さの単位cm、mm、m、kmと単位間の関係

２年　三角形と四角形

・長方形、正方形の定義

４年　面積

・面積の概念と測定の意味
・面積の単位cm^2、m^2、km^2、ａ、ｈａと単位の相互関係
・長方形、正方形の求積と公式
・複合図形の求積(面積)

５年　四角形と三角形の面積

・平行四辺形や三角形、台形、ひし形の面積の求め方と求積公式
・平行四辺形の底辺・高さと面積の変わり方
・一般四角形や五角形の求積

５年　体積

・体積の概念と測定の意味
・体積の単位cm^3、m^3と単位の相互関係
・直方体、立方体の求積と公式
・複合図形の求積(体積)
・直方体の高さと体積の変わり方
・容積の意味と求積

６年　角柱と円柱の体積

・「底面積」の用語と意味
・角柱、円柱の体積の求め方と求積公式
・複合図形の求積(体積)

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①面積の単位(平方センチメートル(㎠)、平方メートル(㎡)、平方キロメートル(㎢)) について知り、測定の意味について理解している。 ②必要な部分の長さを用いることで、正方形及び長方形の面積は計算によって求めることができることを理解している。 ③正方形や長方形の面積を、公式を用いて求めることができる。	①面積の単位や図形を構成する要素に着目し、正方形及び長方形の面積の計算による求め方を考えている。 ②長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、図形の構成の仕方に着目して考えている。 ③面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。	①面積の大きさを数値化して表すことのよさに気付き、面積を調べる際に活用しようとしている。 ②長方形を組み合わせた図形の面積の求め方について、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えている。

5　指導と評価の計画(全１１時)

時間	ねらい・学習内容	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
１	「陣取りゲーム」を行い、広さのくらべ方を考え、本単元の学習の見通しをもつ。 広さの比べ方を考え、１辺が１cmの正方形のいくつ分かで面積を数値化する。		・思① (行動観察、ノート分析)	○態① (行動観察、ノート分析)
２	「面積」の用語とその意味を理解し、単位「㎠」を知り、図形の面積を㎠で表す。	○知① (行動観察、ノート分析)		
３	長方形や正方形の面積を計算で求める方法を理解し、それらを求積公式にまとめて適用する。	○知②③ (行動観察、ノート分析)		
４	周りの長さでは、面積が決まらないことを理解する 長方形の面積と一方の辺の長さから、もう一方の辺の長さを求める方法を考える。	○知② (行動観察、ノート分析)	・思① (行動観察、ノート分析)	
５ ６ 【本時】	複合図形の面積を、求積公式を適用して求める。		○思② (行動観察、ノート分析)	・態② （行動観察、ノート分析）
７	面積の単位「㎡」を知り、面積を㎡で表す。	・知① (ノート分析)		○態① (ノート分析)
８	「㎡」と「㎠」の関係を理解する。また、	○知①②		○態①

	縦と横で長さの単位が異なる長方形の面積を求める。 身の回りの物の面積を求める。	(ノート分析)		(ノート分析)
９	面積の単位「㎢」を知り、面積を㎢で表す。 「㎢」「㎡」の関係を理解する。	・知① (ノート分析)		
１０	面積の単位「ａ」「ｈａ」を知り、面積をａ、ｈａで表す。 面積の単位の関係を、正方形の一辺の長さに着目して整理する。	・知① (ノート分析)	○思① (行動観察、ノート分析)	
１１	基本的な学習活動を理解しているか確認し、それに習熟する。	○知①②③ (ペーパーテスト)	・思①②③ (ペーパーテスト)	

※指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」を、その中で特に学級全員の児童の学習状況について、総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「○」を付けている。

６　本時の目標(本時：６／１１時間目)

・正方形や長方形の求積公式を活用し、複合図形の面積の求め方を言葉、数、式、図を用いて説明することができる。

・複合図形の面積の求め方について多面的に捉え、検討してよりよいものを求めて粘り強く考えている。

７　本時の評価規準

・図形の構成の仕方に着目して複合図形の面積の求め方を考え、説明している。　【思考・判断・表現】

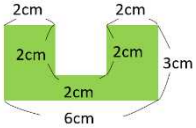
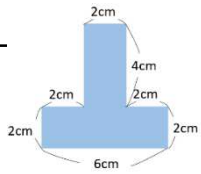
・複合図形の面積の求め方について多面的に考えようとしたり、よりよい求め方を考えようとしたりしている。

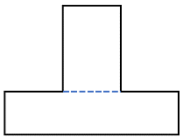
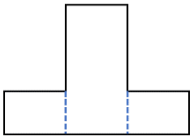
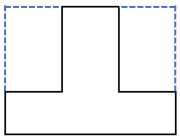
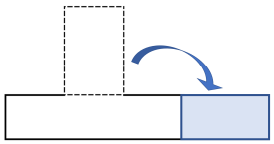
【主体的に学習に取り組む態度】

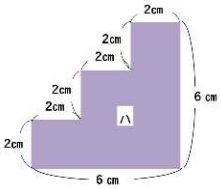
８　本時の展開　　***※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準***

【大切にしたい数学的な見方・考え方】

・図形の合成・分解・変形等多様な方法で複合図形の中に「長方形」や「正方形」を見つけ出し、計算による面積の求め方を考えている。

	主な学習活動等　◎予想される児童の反応 ★教師の主発問	指導上の留意点(・)　ICT の活用(☆) 評価規準(□)
発見・蓄積 問題把握 (４分)	１．本時の課題を確認する。 ・前時までを振り返り「陣取りゲーム」で面積を比べるために、求める必要のある形を確認する。 「陣取りゲーム」でどちらの面積が大きいかを説明し合って明らかにしよう (ネ)  (ヌ)  	・既習内容を掲示しておく。 ・本時で扱う(ヌ)の図形を少しずつ見せることで、図形の構成の仕方に着目させ、正方形・長方形が組み合わさっている図形であることに気付かせる。

分析・整理１ 見通し （６分）	２．本時のめあてを設定する。 めあて：ふくざつな図形の面積は、どうすれば求められるだろう ３．見通しをもつ ・個々に考えを表現してタブレット端末で共有することで考えの手がかりを確認する。	・手がかりとなる既習事項のポイントを掲示物で確認する。【A2】【B2】 ☆自分の考えを、タブレット端末で送付し、全体で共有する。
分析・整理２ 再構築１ 自力・協働解決 （１０分）	４．自力・協働で課題解決をする。 ①自分の課題を解決する方法をノートに書く。 ②自分の目的に応じて交流をする。	・求め方を見つけることができた児童は、他の方法を考える。 ☆タブレット端末で共有した考えを手がかりに交流する。
分析・整理３ 中間交流 まとめ （１５分）	５．中間交流 ・それぞれの図形の面積を求めた方法を紹介し、相違点・共通点を見つけ出す。 【凸型の予想される児童の考え】 ①横に補助線を引く  ２×６＝１２ ２×４＝８ １２＋８＝２０ ②縦に補助線を引く  ２×２＝４ ２×６＝１２ ２×２＝４ ４＋１２＋４＝２０ ③おぎなって引く  ６×６＝３６ ２×４×２＝１６ 36-16＝２０ ④移動して長方形にする  ２×１０＝２０ ★「どんなことに気付いたかな？考えの相違点や共通点はなんだろう？」 ◎「複雑な形の図形の面積でも、正方形と長方形に分けて考えているね。」 ◎「複合図形の形によって分けて考えたり、引いて考えたり、動かしたり、いろいろな方法があるな」	・式や図、言葉等、多様な表現で説明ができるようにする。また、式と図、言葉等をつなげられるような発問をする。 □複合図形の面積の求め方について多面的に考えようとしたり、よりよい求め方を考えようとしたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 □図形の構成の仕方に着目して複合図形の面積の求め方を考え、説明している。 【思考・判断・表現】 ・中間交流の時に、いろいろな考え方を発表させる。また、説明や書いた式、図を見てどのように考えたかを他の子が説明する等して、考えをつなげる。また、できるだけ多くの児童が発表できる機会をつくる。

	６．学びをまとめる。 まとめ　：ふくざつな図形の面積でも、分けたり、うめたり、動かしたりして、 正方形や長方形をもとにして求めるといい。	・児童のつぶやきから、本時の学習をまとめる。
再構築２ 適用問題 自力解決 (１０分) 振り返り	７．残った図形の面積(ハ)を求める。  〇今日の学びを振り返る。 ・今日学んだこと等振り返りを書く。	□図形の構成の仕方に着目して複合図形の面積の求め方を考え、説明している。 【思考・判断・表現】 ☆振り返りを書いて、タブレットに蓄積し、今後見返すことができるようにする。【Ａ３】

第４学年よごふるさと科学習指導案

日　時：令和３年１０月２９日（金）
２校時
学　級：第４学年　１４名
場　所：４年教室
多目的室（展示室）
授業者：野村祐美子　清水としみ

１　単元名（題材名）

「しずくのゆくえ」

「しずく」とは、子ども自身。雨の一滴は丸くなって、周りのものを映し出す。地面に落ちたしずくは、地上の目に見えるものの間を流れたり、地下水となって深く潜ったりする。また、気体となって、大気中に浮かぶこともある。集まって川となり、やがて広い海に出ていくだろう。

しずくのように子どもたちが、いろいろなものや人に出会う過程で自分自身の認識を変容させ、友達や多くの人と共同しながら、外の世界に働きかける姿を期待している。

２　単元（題材）の目標

自分たちが住む余呉の自然環境の特徴について調べたり、自然環境に関わる活動に協働して取り組んだりすることを通して、余呉の自然環境の特徴やよさ、それを支える人々の努力や工夫、自然と共存していくことの素晴らしさについて理解し、自然環境の特徴を生かしながら、自然を生かした楽しみを見出したり、環境を守っていくために自分たちは何ができるかを考えるとともに、余呉の自然環境とのつながりを意識しながら行動したり、生活したりできるようにする。

３　単元について

（１）　児童(生徒)の実態

１４名の単級の学級であり、こども園時代から共に生活を送ってきており、お互いをよく知り合った仲間である。特に特別支援学級の児童のことをよく理解し、安心して学級へ入れるよう日頃から声掛けをし接することのできる児童たちである。特別支援学級の児童も交流学級の児童たちと一緒に学習する「よごふるさと科」の学習を楽しみにしており、友達の意見を聞いたり、助言を受けたりしながら多くのことを学んでいる。

クラスの児童は三世代家族も多く、幼いころから地域の行事に参加したり、身近な自然環境の中で生き物採取を行ったりしてきている。しかしながら、余呉の自然を十分に知っているとは言えない。余呉町の９割を占める山に対しての認識も高いとはいえず、人がどのように山や森と関わりをもっているのかというあたりはほとんど知らない状態である。低学年での生活科で、余呉の町探検を通して、余呉の歴史的な名所、生き物が多く採取できる川や山、有名な店等、大好きな余呉をたくさん発見し地域の方々に発信してきている。３年生の「よごふるさと科」では、余呉の伝統文化について、「地域に残る祭」について調査し、実際に祭りの踊りを体験してきている。古き伝統を大切に受け継いでいる余呉の人々の願いや思いを学び、余呉の魅力をたくさん感じ取ってきた。

本単元の学習を通して、自分たちの住む余呉を見直し、更に余呉のすてきをもっと広げていきたいという思いをもたせたい。

（２）　教材について

よごふるさと科では、９年間を通して余呉の魅力を追究し「住み続けたい余呉のまち」をつくりあげていく。この学習で特に大切にしていきたい視点は以下の３点である。

① 余呉のよさや課題への気づき
この視点では、体験や活動調査を通して、課題を追究し、解決する資質や能力を身に付けさせたい。

② 余呉の魅力や課題を学び、まとめ、伝える力
この視点では、余呉の自然、文化、歴史、くらし、産業に関わり、自ら課題を見つけ主体的に考える力を身に付けさせたい。

③ 地域の方など様々な人からの学び
この視点では、様々な考え方、人の生き方に触れ、自己の生き方や将来について考えさせたい。

本単元では、４年生での総合的な学習を理科「雨水のゆくえと地面のようす」、社会科「くらしをささえる水」の学習に関連させながら、「余呉の自然」に焦点を当て進めていく。余呉の自然の特徴に気付かせ、余呉の自然を生かした楽しみを見出したり、自然と共存していくことについて、自分なりの考えを深めたりさせたい。

（３）　指導について

４年生では、「みずすまし調査隊」や「やまのこ学習」の環境学習が位置づけられている。これらの学習をリンクさせ、本学年では、自然環境を通して余呉の魅力を学ばせていきたい。

Ｉ学期は、水生生物調査の学習を通して、余呉の川に注目してきた。他の地域（琵琶湖沿岸や淀川下流）と比較することで、余呉の水環境が優れていることが分かった。しかし、きれいな水だから必ずしも生き物たちに良いということではないことも分かってきた。生物たちには「それぞれの生態に合った住みよい環境が必要である」ということもみんなで確認をした。そして、そのためには、自分たちは何ができるかを考えてきた。ごみを捨てない、汚い水を流し込まないといった意見のほかに、どんな環境が生き物に相応しいのか更に生態について調べたい、自分たちの調査の結果を多くの人たちに発信して知ってもらいたい等の意見が出てきた。これらの学習を受けて、２学期は学習の舞台を川から森に移す。本単元では、自然の恵みや魅力を体感し、自然と共存していくことの素晴らしさに気づける様、具体的な体験活動を取り入れたり、山の仕事に携わっている方々の生の声を聞いたりする機会を設けたい。

（４）児童(生徒)が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
Ａ…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 Ｂ…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	①　…発見･蓄積：必要な情報を確かに取り出す ②　…分析･整理：情報を比較し、関連付けて整理する ③　…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

発見・蓄積のプロセス

特にＡの側面では、体験したことや知ったことを手掛かりに、課題意識をもって取り組んでいこうとして情報を「発見・蓄積」する姿を目指す。そのために、体験活動を重視する。児童が地域の自然環境を対象とし、五感を使って十分に対象と向き合うことによって、課題意識をもつことにつなげたい。また、iPad に観察活動で気づいたことを写真や動画で撮影、保存しておくことで、必要な時に情報を取り出すことができるようにする。

さらに、地域で自然に関わる仕事や取組をしている人を、ゲストティーチャーとして情報を取り出す対象とする。児童が自然に関わる情報を広く集めることから、課題意識をもつことができる環境を整える。

分析・整理のプロセス

特にＢの側面では、地域の環境を「分析・整理」し、根拠を明確にした自分の考えをもつ姿を目指す。そのためにまず、余呉川の水が流れていく下流の地域の学校と同時双方向型のオンラインでの交流を行い、上流、中流、下流において、各校の児童が収集した情報を手掛かりとして河川の様子を比較・検討する。さらに、地域の山で活躍されている方や特産物に関わっている方にも幅を広げて情報を集め、iPad に蓄積しておく。共通した課題意識をもつ児童が交流を進める際にそれらを活用し、自分の根拠を明確にできるようにする。

再構築のプロセス

特にＡの側面では、友達の発表を生かして見い出した、余呉のすてきを広げるために自分にできることを考える姿を目指す。そのために、余呉のすてきをどのようにして広げるのか、広める対象を明確にして考えを「再構築」することを目指す。また、余呉のすてきを単元の終始で個々に振り返ることにより、学びの変容の自覚にもつなげたい。

本時は単元の終末の授業となる。単元全体の「再構築」と捉えた時に、これまでの学習の足跡が生かされた「再構築」としたい。そのために、学習の足跡を掲示したり情報を iPad に蓄積したりしておくことで、学びをつなげていくことができるようにする。

また、単元を通して各教科で学んだことを自在に活用したり、使いこなしたりしながら探究することができるように、Ｉ学期からの学習の足跡が見えるように掲示しておく。

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　自分たちの住む余呉の自然環境の特徴やよさを理解するとともに、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付いている。 ②　余呉の自然環境の状況を捉えるために、目的に応じた方法で必要な情報を収集している。 ③　余呉の自然環境と自分たちの生活との関連についての理解は、地域の人々との関わりや体験活動を通して探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①　余呉の自然環境とのつながりについて、関心をもとに課題を設定するとともに、解決に必要な調査方法を明確にしながらフィールドワークの計画を立てている。 ②　余呉の自然環境をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集している。 ③　余呉の魅力を広く発信することについて、事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにし、具体的な方法を決定している。 ④　余呉の魅力を広く発信するために、自分の考えを表現方法の特徴や表現の目的に合わせて分かりやすくまとめている。	①　余呉の自然環境に関わる目的に向け、自分自身で設定した課題の価値を理解している。 ②　自分と異なる意見や考えを生かしながら、協働的に探究活動に取り組んでいる。 ③　自分と自然環境や地域の人々等とのつながりに気付き、地域のために自分たちにできることを考えようとしている。

5　指導と評価の計画（全 26 時間）

※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動・⇒指導上の留意点	知	思	態	評価方法
一	1 2	学校の裏山の林道を歩き、発見したこと、気づいたことをみんなで共有し、課題を設定する。 ⇒実際に山や川を歩き、自然の恵みをたくさん体感できるようにする。どうしてだろう？もっと調べたいという意欲をもって探究できるように体験から得た感動や驚き・疑問を大切にする。		①	①	記録シート 行動観察 発言
	3 4	くらしを支えている水がどこから流れてきているのかについて考えることを通して、大切な資源であることを学ぶ。 ⇒社会科「くらしをささえる水」と理科「雨水のゆくえと地面のようす」と関連させて学習を進める。	①			ノート 社会科テスト
	5 6 7 8	余呉の川でフィールドワークを行い、上流と中流の比較をしながら水環境について調べる。 ⇒水生生物調査等、実際に子どもたちが体験しながら収集した情報をもとに、川の水質や川環境について考える。	②	②		調査シート 行動観察
	9 10 11	他の地域（琵琶湖沿岸や淀川下流）と比較しながら、余呉の水環境の特徴やよさについて知り、自分たちには何ができるかを考える。 ⇒zoom で交流したびわ北小学校の調査結果や、生物多様性センターの職員の方の話をもとに、余呉の川と琵琶湖沿岸、淀川下流部の水環境を比較することで、それぞれの特徴を整理できるようにする。 ⇒自分たちができることについて、付箋紙を使って交流し、グルーピングをすることを通して、整理していく。さらに友達の意見を聞いて考えたことや共感したことも付箋に書き、グルーピングマップに追加していくように促す。		③	②	ノート 発言 記録シート ノート振り返り 発言 付箋書き込み

	12 13 14 15	山の仕事や、山の資源を生かした取り組みをされている方々の話を聞いたり、実際に間伐体験や木工クラフト等の体験をしたりする。 ⇒体感を豊かにするために、五感を使った活動を大切にする。 ⇒森林組合や森林マッチングセンター等の山の仕事をされている方々をゲストティーチャーに招き、話をしていただく。	①	②		行動観察 発言 活動シート
	16 17	自分の見つけた「山のすてき」をまとめ、これまでの（２学期）の活動を振り返りながら、学習の足跡を残していく。 ⇒keynote に、ゲストティーチャーの話や体験活動等の中で印象に残った画像を保存しておき、それを活用しながら「山のすてき」をまとめていけるようにする。		③	②	ノート 発言 Keynote ロイロノート
ニ	18 19	「しずくのゆくえ」展の準備を開始する。 ⇒１学期に学習した「水生生物調査のまとめ」「zoom での交流内容」も、２学期の学習内容と関連させながら展示する。	③	③ ④	② ③	Keynote 展示物 発言 発表シート 発言 付箋書き込み
	20 21 22 (本時)	「山のすてき」を振り返り、「余呉のすてきをもっと広げていくためにどんなことをしていったらいいか」について考える。 自分の考えた「山のすてきを広げよう大作戦」について、友達と交流し合い、計画を整理する。さらに、友だちや参観者の意見を踏まえて、自分の考えを深める。(本時) ⇒よりよい再構築を目指すために、まず、自分の計画を整理する。そして、友達やゲストティーチャーからの意見を広く聞ける場を設定する。「アドバイスカード」等を用意し、他者からの意見を踏まえて、自分の考えを再構築することにつながるようにする。				
	23 24 25	「しずくのゆくえ」展を更に発展させていく。				
	26	「しずくのゆくえ」展を開催する。１１月２４日（学校公開日）				

6　本時の目標（本時：22／26時間目）

○「余呉のすてきを広げよう大作戦」について自分の考えを深め、確かなものにすることができる。

7　本時の評価規準

・「余呉のすてきを広めるためにどんなことをしていくといいか」について、考えを比較したり関連付けたりしながら整理することを通して、理由や根拠を明らかにし、自分の考えを再構築している。
（思考・判断・表現）

・自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、協働して学び合おうとしている。
（主体的に学習に取り組む態度）

8　本時の展開　　***※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準***

	主な学習活動等	指導上の留意点(・)　ICTの活用(☆)　評価規準(□)
2	本時の課題、「余呉のすてきを広げよう大作戦」について、よごのすてきがもっと広がっていくために、どんなことをしていくといいか考え、学級全体で話し合うことやその進め方を確認する。	・本時のめあてを確認させ、活動の流れの見通しをもたせる。
	学習を振り返り、「山のよさ」について発表し合い、友達の見つけた良さを知る。 ・防災の役割 ・特産物 ・間伐	・参観者にも分かるように画像等を使いながら、簡単に発表させ「山のよさ」をみんなで確認する。 ☆ipad を活用し、これまでの体験活動の写真や動画、聞き取り調査等のデータをいつでも振り返れるよ

	・山のお仕事 ・水源 ・自然を生かしたしおり	うにしておく。
3	「余呉のすてきを広げよう大作戦！」について、思考ツールを使いながらグループの友達と交流し、自分の計画を整理する。 ・山の昆虫を紹介する。 ・山の遊び場を設計したい。 ・特産物を作ってみる。 ・特産物を買ってみる。 ・余呉のすてきを発信したい。 ・余呉ツアーの計画を立てる。 ・余呉のパンフレット作りをしたい。	・山に関わる仕事をされている人々や体験活動を通して感じたことを生かしながら、自分たちにできる作戦を考えるように促す。 ・お互いに意見を出し合い交流する中で、自分の計画を整理することができるように、似た内容のメンバーで話し合いグループを組む。 ☆事前に「余呉のすてきを広げよう大作戦」について考える時間をとり、ロイロノートに自分の考えたアイディアを記録し貯めておく。 ・国語科と関連して話合いを進める時には、視点を示した座標軸上に付箋を貼りながら考える。 ☆意見を言う際には、根拠を明らかにして自分の作戦が説明できるように、記録した写真等を活用する。 □考えを比較したり関連付けたりしながら整理し、理由や根拠を明らかにしている。（思考・判断・表現） □自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、協働して学び合おうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）
4	「余呉のすてきを広げよう大作戦！」について全体で交流し、ゲストティーチャーからアドバイスをもらう。 ・木のしおりは、図書室において使ってもらえるといいね。 ・町の図書館にもおいてもらおうよ。 ・余呉のパンフレットを作るのなら、ビジターセンターの方にアドバイスをもらうといいよ。	・ゲストティーチャーと事前に打合せをしておく。 ・グループごとの話し合いの足跡が残った座標軸シートを掲示し、みんなで共有する。 ・グループでの話し合いを参観されていたゲストティーチャーからアドバイスをもらう。 ・友達やその他の参観者からは、「アドバイスカード」を書いてもらいシートに貼ってもらう。 ☆ロイロノートに振り返りを書き提出する。
5	計画をバージョンアップさせる。 ・アドバイスや交流したことを参考に今の自分の「余呉のすてきを広げよう大作戦！」をまとめる。	□アドバイスや交流をもとに、自分の考えを深め、確かなものにしている。（思考・判断・表現）

第５学年　理科学習指導案

日　時：令和３年11月10日（水）６校時
学　級：第５学年　８名
場　所：体育館
授業者：川端　宣実

１　単元名　「流れる水のはたらきと土地の変化」

２　単元の目標

流れる水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら、流れる水の働きと土地の変化を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

３　単元について

（１）　児童の実態

理科の学習に興味・関心をもち、観察、実験などに意欲的に取り組む児童が多い。

「植物の発芽と成長」の学習では、種子の発芽の条件について調べる際に、条件を制御しながら実験を行った。本単元でも、流れる水のはたらきについて調べる実験の方法を発想する際には、児童が条件制御の考え方を働かせることができるよう支援していきたい。

また、これまでの理科の学習では、問題解決の過程を大切に授業を行い、学びの定着を図ってきたものの、学習したことを日常生活と結びつけて深く理解することができなかった。そこで、本単元の学習では、生活区域に大きな川が流れている地域の特徴を生かし学習を展開していく。導入の場面では、安曇川の動画や写真を使ったり、実際に川に足を運んだりし、教材が身近に感じられるようにする。まとめの場面では、実験から導き出した流れる水の働きが、実際の安曇川でも見られるのかを確認する時間を設ける。このように日常生活と関わりをもたせながら学習していくことにより深い学びにつなげていきたいと考える。

（２）　教材について

本単元は、学習指導要領第５学年の学習内容「Ｂ生命・地球領域（３）流れる水の働きと土地の変化」を受けたものであり、児童が、流れる水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら、流れる水の働きと土地の変化を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成することがねらいである。

本単元では、川を流れる水の速さや量に着目して、それらと土地の変化とを関係付けて流れる水の働きを調べるために、モデル実験を行う。それにより、流す水の量を増やしたり、斜面の傾きを大きくしたりするなど、変化させる要因と変化させない要因とを区別しながら計画的に実験を行うことが可能となることから、児童が「条件を制御する」考え方を働かせながら、問題解決に取り組むのに適した教材である。

また、モデル実験を通して学んだことを実際の川と関連付けて考え、より深い理解につなげるという点で、校区を安曇川が流れる本校児童にとっては、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直すことのできる身近な教材といえる。

（３）　指導について

教材を身近に感じながら学習できるように、安曇川と関連させながら進めていく。そのために、安曇川について気付いたことをまとめた「安曇川マップ」と関連させて単元を通して指導する。単元の導入では、「安曇川マップ」に疑問を書き込み、単元を通して目的意識をもって学習に取り組めるようにする。単元の展開では、問題解決の過程で導き出した結論を踏まえて、安曇川との付き合い方を考えていく。単元の終末では、個人で書き込んだミニ安曇川マップを全体で交流し、学級で大きな「安曇川マップ」を作成する。作成したものは掲示し、全校に発信する。

また、予想や仮説を基に、解決の方法を発想する場面では、実験に使えそうな複数の物や道具を教師が事前に準備することで、実験に対するイメージをもちやすくする。そして、自分たちで発想した実験が仮説を立証できる方法かどうかをペアや学級全体で話し合うことにより、実験の妥当性を高めていきたい。

他にも、iPadのカメラやインターネット等の情報機器を活用することで、視覚的に理解を深めることがで

きるようにする。導入の場面では、iPadで学区にある実際の川の様子の写真や映像資料を提示することによって、児童の学習意欲を引き出し、身近に感じられるようにする。観察や実験の場面では、その様子をiPadカメラで撮影することにより、考察の場面で、撮影した動画を一度止めて見たり、繰り返し再生したりするなどして、実験結果から何が言えるのか、自分の考えをもつことができるよう支援する。さらに、考察を全体で交流する場面では、動画や写真を使いながら、より分かりやすく説明することができるようにする。そうすることで、侵食・運搬・堆積といった流れる水の働きについての、より深い理解につなげていきたい。

その他、長雨や集中豪雨がもたらす川の増水による自然災害についても触れ、身近な地域において川の水による増水を防ぐ取組がどのようになされているかを調べる活動を取り入れることで児童の日常生活との関連を図っていく。

（４）児童(生徒)が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
Ａ…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	①…発見･蓄積：必要な情報を確かに取り出す
Ｂ…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	②…分析･整理：情報を比較し、関連付けて整理する
	③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

単元の導入では、実際に安曇川に行ったり、安曇川の写真やグーグルアースの映像を見たりすることで気付いたことや疑問を共有する（A①）。

問題を見出した後、問題を解決するための実験や調べる方法を考えるなど、個人で解決方法を発想する(A②)。発想した解決方法をペアで交流し、妥当性を高める(B①②)。妥当性を高めた実験をペアで協力しながら実施し、得られた結果を分析・整理し、個人で考察する（A②）。お互いの考察を交流し、妥当性を高める（B①②）。

その後、学級全体での合意形成を目的とした話し合いを通して、問題に対する結論を導き出す(B③)。さらに、学習したことを自分なりの言葉でまとめ、ミニ安曇川マップを作り（A③）、作ったミニ安曇川マップをもとに協働で校内に掲示するための安曇川マップを作成する（B③）。

＜発見・蓄積のプロセス＞

安曇川マップを作成するという目的意識をもちながら、気付いたことや疑問を学級で共有し、問題を見いだしていく。その際には、児童が自由に発言できる環境をつくり、児童の素直な疑問や気付きを大切にしていきたい。また、校区内にある川ということもあり、身近に感じている児童も多いことから、実際に安曇川に行ったり、安曇川の写真やグーグルアースの映像を見たりするなど、ＩＣＴも活用して日常生活の中で感じていた安曇川の流れに関する疑問などを共有していく。

＜分析・整理のプロセス＞

解決方法を発想・交流する場面では、教師が事前に準備した物や道具を基に、仮説を立証できる実験方法を絵や言葉でまとめる。交流することで、新たに気が付いたことについては、まとめたものに書き加え、より妥当性のある実験にしていく。考えが思い浮かばない児童には、掲示物を使って仮説を再確認したり、ペアの児童と相談する時間を設けたりするなどして支援していく。

実験の場面では、実験の様子を動画や写真で撮影する。その際に、児童がタブレットを持って撮影するのではなく、タブレットを固定（設置）して撮影するようにする。そうすることで、まずは自分の目で実験の様子を確認できるようにしたい。

考察する場面では、撮影した動画や写真を、侵食・運搬・堆積のそれぞれの観点で繰り返し見返すことで、結果から何が言えるのか、自分の考えをしっかりともつことができるよう支援する。また、川を流れる水の速さや量を変えて、水の働きを調べる実験では、第１次で撮影した実験の様子と比べながら見ていくことで、より妥当性のある結論を導き出す。

＜再構築のプロセス＞

「侵食が大きい地点では、コンクリートで土地が固められている」「堆積が大きい河口地点では、土地の面積が広くなっている。」「河口の石は、運搬される時に、壁や石同士でぶつかって丸くなっている。」「水の量が増えた時に水がためられるようにダムがある。」など学習したことを活かしながら、安曇川マップに気付いたことをまとめ、安曇川と学習内容を関連付けて、日常生活につなげていく。まとめる内容が学習内容と結びつくよう、実験内容と実験結果をまとめたものをいつでも見返せるように掲示したり、学習内容と結びついていない内容を記載している児童には、自分の考察や振り返りを確認するよう促したりする。

4　単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　流れる水の働きについて調べ、その過程や結果を記録し、侵食・運搬・堆積の働きがあることを理解している。 ②　川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。 ③　流れる水の速さや水の量が変わることにより、土地の様子が大きく変化することを理解している。 ④　流れる水の働きについて、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	①　流れる水の働きについて、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 ②　流れる水の働きについて、実験を行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	①　流れる水のはたらきについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②　流れる水のはたらきについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

5　指導と評価の計画（全１４時間）

次	時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
第１次	１	○安曇川を見に行き、気付いたことを写真で撮影したり、メモを取ったりし、各自で問題を見出す。	思		思考・判断・表現①／【記述分析】
	２	○写真やグーグルアースなどで安曇川の様子を調べ、気付いたことや疑問に思ったことを基に、各自が問題を見出す。 ○見出した問題を全体で共有し、大きな安曇川マップに書き込む。	思		思考・判断・表現①／【記述分析】 ・差異点や共通点を基に、問題を見出すことができているかを確認する。
	３	○各自が見出した問題を基に、学級の問題を設定し、仮説を立てる。 ＜問題＞ A カーブの外側がコンクリートで固められているのはどうしてだろう。 B 安曇川にある石は、どこから来たのだろう。 C 琵琶湖の近くに土がたまっているのは、どうしてだろう。 D 上流と下流の石の大きさが違うのは、どうしてだろう。 E 上流と下流では、川幅が違うのはどうしてだろう。	態		主体的に学習に取り組む態度① 【発言分析】
	４	○仮説を立証する実験方法や調査方法を、個人で考える。A～C の実験については、教師が準備した道具を使いながら１回の実験にまとめ、流れる水の働き（侵食・運搬・堆積）の様子が分かるようにする。 ○A～C をまとめた実験については、個人で考えた実験を基に、ペアで共有し、より妥当性の高い実験にしていく。 ○ペアで考えた実験を絵や言葉でまとめ、全体で共有していく。（写真で撮影し、大画面に提示する）	思		思考・判断・表現①／【記述分析】

	5	○前時に考えた実験方法を確認し、実験を実施する。 ○流れる水の働きを調べ、記録する。 ○「侵食・運搬・堆積」の様子をもとに、流れる水には、どのような働きがあるか結論を導き出す。 ＜結論＞ 流れる水には、地面をけずったり、土を運んだり、運んだ土を積もらせたりするはたらきがある。	知 思	○	知識・技能④／【記録分析】 ・実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録しているかを評価する。 思考・判断・表現②／ 【行動観察・発言分析・記述分析】
	6	○上流と下流の石の大きさや形が違うことを写真や動画を見たり、インターネットや本で調べる。 ○調べたことを基に、全体で共有する。 ○川のはたらきと関連させて、まとめる。	知		知識・技能②／【記録分析】 ・川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。
	7	○川幅が広がる理由を写真や動画を見たり、インターネットや本で調べる。 ○調べたことを基に、全体で共有する。 ○流れる水の働きと関連させて、まとめる。	知		知識・技能③／【記録分析】
	8	○安曇川の上流～下流の様子を調べ、流れる水の働き（侵食・運搬・堆積）が分かるところを写真やグーグルアース等で確認し、安曇川の地図にまとめる。 ○まとめたものを全体で共有する。	態	○	主体的に学習に取り組む態度① 【行動観察・記述分析】 ・流れる水のはたらきについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているか評価する。
第2次	9	○水の量が違う河口の写真や斜面の角度が違う川の様子の写真から問題を見いだし、仮説を立てる。 ＜問題＞ F　水の量が多くなると流れる水のはたらきは、どのように変化するのだろう。 G　斜面を急にして流れをはやくすることで、流れる水のはたらきは、どのように変化するのだろう	思		思考・判断・表現①／【記述分析】
	10	○仮説を立証する実験方法を、個人で考える。 ○個人で考えた実験を基に、ペアで共有し、より妥当性の高い実験にしていく。 ○ペアで考えた実験を絵や言葉でまとめ、全体で共有していく。（写真で撮影し、大画面に提示する）	思	○	思考・判断・表現①／ 【発言分析・記述分析】 ・仮説を基に、解決の方法を発想しているかを評価する。
	11 本時	○前時に考えた実験方法を確認し、実験を実施する。 ○水量を増やしたり、流れを速くしたりした時の土の様子を調べ、記録する。 ○６時で行った実験と比較しながら、「侵食・運搬・堆積」の様子の違いについて結論を導き出す。 ＜結論＞ 水量が増えたり傾きを急にすると、流れる水のはたらきは大きくなり、より大きく侵食されたり、より多く堆積したりする。	知 思	○	知識・技能④／【記録分析】 思考・判断・表現②／ 【発言分析・記述分析】 ・水の量を増やしたり、流れを速くしたりして実験を行い、得られた結果を基に考察し、表現しているかを評価する。
	12	○写真やグーグルアース等を見ながら、単元を通して、学んだことを安曇川の様子と関連付けて、地図にまとめミニ安曇川マップを作成する。	知	○	知識・技能①②③ 【行動観察・記述分析】 ・作成したミニ安曇川マップにおいて、これまでの学習内容が理解できているかを評価する。

	13	○ミニ安曇川マップをペアで交流し、新しく発見したことや気付いたことを書き加える。 ○作成したミニ安曇川マップを使いながら、自分が新しく発見したことや気付いたことを説明する。	態	○	主体的に学習に取り組む態度① 【行動観察・記述分析】 ・新たな気付きをミニ安曇川マップに反映するなど、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しているかを評価する。
	14	○個人で作ったミニ安曇川マップを基に、学級で一つの大きな安曇川マップを作成する。	態	○	主体的に学習に取り組む態度② 【行動観察・記述分析】 ・流れる水の働きについて、学んだことを安曇川マップに生かそうとしているかを評価する。

6　本時の目標（本時：１１／１４時間目）

水量を増やしたり斜面の傾きを大きくしたりすると、流れる水の働きはどのように変化するのかを実験結果を基に考察し、説明することができる。

7　本時の評価規準

流れる水の働きについて、実験を行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。

8　本時の展開

	主な学習活動等	指導上の留意点(・)　ICTの活用(☆)　評価規準(□)
5分	○解決すべき問題と実験方法を確認する。 ・水量が増えると、流れる水の働き（侵食・運搬・堆積）はどのように変化するのか。 ・斜面の傾きが大きくなると、流れる水の働き（侵食・運搬・堆積）はどのように変化するのか。	・解決すべき問題と実験方法については、教師が示すのではなく、児童の声で確認する。 ・確認する際には、これまでの学習をまとめた掲示物を活用する。 ・実験方法については、第１次の実験から変える条件と同じにする条件を確認する。
5分	○以下の①②の実験のうち、ペアで考えた実験を行う。 ①流す水の量を多くし、土の様子を調べ、記録する。 ②バットの傾きを急にし、土の様子を調べ、記録する。	☆実験の様子を動画で撮影することで、実験結果を明確にしておく。その際、児童がタブレットを持って撮影するのではなく、タブレットを固定（設置）して撮影することで、まずは自分の目で実験の様子を確認できるようにする。
15分	○動画で記録した実験の様子を基にペアで考察し、その内容を個人でワークシートにまとめる。	☆第１次で撮影した実験の様子を見返し、比較しながら考察するよう声をかける。 ☆動画や写真を使い、侵食・運搬・堆積のそれぞれの観点で繰り返し動画を見返しながら考察するよう促す。 ☆気付いたことや分かったことは、ペアで話し合いながらタブレット上の写真に記入し、後の全体交流で活用できるようにする。 ・ペアで考察した後、その内容を一人ひとりがワークシートにまとめることで、自分の考えを整理できるようにする。 □得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。（思考・判断・表現②【発言分析・記述分析】）
	○ペアで考察したことを全体で共有し、結論を導き出す。	☆各ペアの考察を記録した写真を大画面に映し、学級全体で共有しながら話し合う。 ・各ペアの共通した意見をまとめていくことで、全員が納得した結論を導きだせるようにする。異なる意見が出た場合は、

15分	＜結論＞ 水量が増えたり、傾きを急にしたりすることで流れる水のはたらきは大きくなり、より大きく侵食されたり、より多く堆積したりする。	動画を学級全体で確認し、実験方法等に誤りがなかったかどうかを確かめるようにする。 □得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。（思考・判断・表現②【発言分析・記述分析】）
5分	○安曇川と関連付けた振り返りを記入する。	・導き出した結論を踏まえ、「安曇川とのつき合い方」を考えて記入するよう声かけをする。

第６学年図画工作科学習指導案

日　時：令和３年１１月１０日（水）５校時
学　級：第６学年３組 ３２名
場　所：図工室
授業者：塚本　有貴

１　題材名

チャレンジ鳥獣人物戯画

２　題材の目標

「鳥獣人物戯画」について、見つけた面白さや特徴を共有したり、実際に描いてみたりすることを通して、古くから親しまれてきた日本古来の美術作品のよさや美しさを味わうことができる。

〇自分の感覚や行為を通して、「鳥獣人物戯画」の形や色などの造形的な特徴を理解する。〔知識〕
〇形などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、昔から多くの人々に親しまれてきた「鳥獣人物戯画」の表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。〔思考力，判断力，表現力等〕
〇つくりだす喜びを味わい、主体的に「チャレンジ鳥獣人物戯画」を鑑賞する学習活動に取り組もうとする。〔学びに向かう力，人間性等〕

３　題材について

（１）　児童の実態

本学級の児童は、図画工作科の時間を楽しみにし、自分なりのイメージをもって意欲的に活動に取り組んでいる。しかし、題材によっては自分のイメージがもてずに時間がかかってしまったり、どのようにつくったり描いたりしたらよいのか戸惑っていたりする姿も見られる。６年生になり、「思い出の校舎」の題材に取り組んだ際には、奥行きが感じられる構図や似た色、目立つ色の組み合わせ、形の大小などの「見方・考え方」を働かせて描く様子が見られた。その際、水彩絵の具やパステルなどこれまでに経験した様々な描画材や表現方法を用いて思い入れのある校舎を描こうとする児童が多くいた。

前題材「自分の思いのままに墨で表そう」の学習では、国語科の学習で作成した詩を、自分なりのイメージで墨の濃さを変えたり筆以外の用具を使用したりして、色々な方法を試しながら描くことの楽しさを味わうことができた。段ボール紙をちぎり、断面の線の違いを楽しんだり、紐を何重にも束ね合わせて描いたりと、自分の表現を追求する姿が垣間見えた。何度も和紙に描く中で「かすれの表現が面白い」「墨がにじんで、色の変化がとてもきれい」とこれまでの自分の体験と結び付けた表現ができるようになってきた。さらに、友だちの表現を見て、「にじみの重なりが美しい」「筆などを動かすスピードや持ち方を変えてみる」「偶然できた形も生かして、はじかせてみた」などと表し方の違いや表現のよさ、美しさを感じ取ることができた様子だった。発想段階や制作段階で友だちとアドバイスをし合ったり、お互いの表現のよいと思うところを作品に取り入れたりして、完成した作品を通し、作品のどんなところがよいと感じたのか根拠を示して伝えることもできるようになってきた。

１学期の児童の学習に取り組む様子から、形や色などへのイメージをもって表したいものを表現したり、気持ちや感覚を主にした抽象的な表現をしたりすることへの意欲の高まりを感じている。一方、自分や友人の作品を鑑賞することはあっても、本格的に日本の美術作品を鑑賞した経験のある児童は少ない。そこで、児童に一人の表現者として、文化のよさや面白さを理解し、創造する楽しみを味わわせることを大事にしたい。さまざまな表現手法に苦手意識をもっている児童も、表現の面白さを体験したり、実感を伴う学習の中で、「表すことを通して分かりたい」といった思いを満たすことができるのではないかと考える。古くから親しまれてきた日本古来の美術作品のよさや美しさを味わう学習活動に取り組むことで、その伝統を受け継ぎ発展させていこうとする児童の心が育まれていくのではないかと考える。

（２）　教材について

四大絵巻物のうちの１つである「鳥獣人物戯画　甲巻」を鑑賞する。平安時代から鎌倉時代にかけて制作されたと考えられており、京都市右京区の高山寺に伝わる宝物である。「鳥獣人物戯画」は日本最古の漫画といわれ、甲巻、乙巻、丙巻、丁巻の四巻からなる紙本墨画の絵巻物である。今回取り扱う絵巻物は、時間の推移を表現できるという特性をもっている。一度に全体を見渡せないため、時間的・空間的な楽しさを味わいながら、右から左へと展開されていくストーリーの世界に浸ることができる。「鳥獣人物戯画　甲巻」には、兎や蛙などのなじみのある動物たちが登場する。それらの動物は擬人化して描かれており、２本足で歩行するなどユーモアに富んでいる。登場する動物の表情や動作が細やかにそして豊かに表現されていることが物語を読み解く楽しさにつながっている。また、この絵巻物は毛筆による墨で描かれた線を主体としており、墨による書画の面白さを感じ取ることもできる。

「鳥獣人物戯画」は、昔の人々が生活を楽しむための工夫として考えられてきたが、どのような楽しみ方をしていたのかを想像することで、日本古来の美術作品のよさも感じることができる。

（３）　指導について

本題材は、学習指導要領第５学年及び第６学年「B 鑑賞」における「（１）ア親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。」をねらいとしている。あわせて共通事項における「（１）ア　自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。」「（１）イ　形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。」についても学べるように題材の目標を設定した。

今回の学習では、親しみやすい美術作品(「鳥獣人物戯画　甲巻」)について鑑賞し、作品から感じたり考えたりした特徴や面白さにチャレンジして表現し、つくることを通して日本美術のよさに迫っていく活動である。

「鳥獣人物戯画」の続きを想像して絵に描いたり、現代の生活の中に登場させたりといった「チャレンジ」をすることを通して、作者の表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり、考えたりすることができると考え「チャレンジ鳥獣人物戯画」を設定した。形式的に「鳥獣人物戯画」の特徴を伝えるのではなく、児童自らが体験することで美術作品に対して親しみをもって捉えることができるようになると考える。

さらに、完成物を鑑賞し合う「私のチャレンジ鳥獣人物戯画発表会」を設定した。自らのチャレンジ「挑戦した！やってみた！」を交流することで、自分が気付かなかった表現方法にも視野が広がると考える。題材の導入で「鳥獣人物戯画」を初めて鑑賞したときと、実際に絵巻物をつくったときとを比べて、表現の工夫や自分の思いの違いに着目できるようにする。そうすることで、物語の面白さや筆でしか表すことのできない墨の濃淡や余白のよさ、かすれなどの表現に気付くとともにつくり出す喜びを味わえると考える。同時に、「チャレンジ鳥獣人物戯画」では、実際に描いたり試してみたりすることで見ているだけのときとは違った見方、感じ方をすることができると考える。児童がこの学習を通して、なぜ「鳥獣人物戯画」が今まで多くの人々から親しまれているのかを考え、日本美術や伝統文化のよさを感じ取れるようにしたい。

（４）　児童が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	①…発見･蓄積：必要な情報を確かに取り出す
B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	②…分析･整理：情報を比較し、関連付けて整理する
	③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

児童が、何から、何を、どのように「発見・蓄積」するか

「鳥獣人物戯画　甲巻」を鑑賞し、日本古来の美術作品である「鳥獣人物戯画」のよさ(面白さや特徴)を味わうにはどのようにしたらよいか、子どもたちが考えられるようにする。児童一人ひとりが学習に対する目的意識をもつことができるように、めあてを児童の言葉で明確にしていきたい。まずは、模写することで「鳥獣人物戯画」の表現の面白さや特徴を発見できるようにする。また、模写することで一つひとつの形など造形的な特徴に焦点が当てられると考える。さらに、「鳥獣人物戯画」の面白

さや特徴を捉えるだけでなく、感じ取ったことを友だちと伝え合うことで、感じ方の違いを楽しんだり自分の考えを確かめたりし、さらに考えを広げられるようにしていく。２時間目は、学校図書館司書によるブックトークを行う。「鳥獣人物戯画」は作者が不明であることから、さまざまな解説書が出ている。ここでは、学校図書館司書から「鳥獣人物戯画」の見方や感じ方について話を聞き、分析・整理のための視野を広げる糸口とする。また「鳥獣人物戯画」に関する資料を多数用意することで、表現の意図や特徴等を発見・蓄積するための手がかりとし、自分の作品に対する解釈や想像を膨らませ、再構築へと向かうことができると考える。平安時代から鎌倉時代につくられたという「鳥獣人物戯画」が現代にも伝わっているのは、昔の人々が生活を楽しむために工夫していたのだと気付くことができると、自分の表現に対してもさらに深まりが出てくるのではないかと思う。

児童が、何を、どのように、何のために「分析・整理」するか

グループや全体交流での意見交流や学校図書館司書によるブックトークなどを経て気付いたことを整理し、提示することで絵巻物の構成を考える際の手がかりとしていきたい。３時間目には、児童自らが気付いた表現の面白さや特徴を描くことを通して理解できるようにしていく。まずは、自分が気付いた表現の面白さや特徴をじっくりと分析的に鑑賞し、表現できればと考える。そして、その表現の意図は何かを考えることで自分なりの見方や感じ方を膨らませることを促したい。さらに、絵巻物の製作途中で相互鑑賞することでお互いの表現のよさや面白さを認め合い、表現する喜びを高めていきたいと考える。

育成したい資質・能力に照らし合わせて、児童がどのような「再構築」をするか

友だちと互いに作品を自由に見合う時間「私のチャレンジ鳥獣人物戯画発表会」を設定する。ここでは、自らチャレンジ（挑戦した！やってみた！）をしたことで、どのような絵巻物になったのかを自分の言葉で整理できるようにする。さらに、タイトルや作品全体の解説を書いて作品に添付しておく。鑑賞活動をきっかけに、「鳥獣人物戯画」のもつ世界観を生かしながら、児童が独自の物語を考えたり、墨を使って絵で表現したりする面白さや楽しさを互いに感じたりし、日本古来の美術作品のよさを味わうことができると考えた。作品を見て、単純に形など造形的な特徴に注目することで終わるのではなく、自分なりのイメージをもち、作品を見たり感じたりすること。そして「鳥獣人物戯画」を最初に見た頃の自分との対話や、友だちと交流したりすることで、見方や感じ方を深めていくことを「再構築」と考える。

４　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の感覚や行為を通して、「鳥獣人物戯画」の形や色などの造形的な特徴を理解している。	形などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、昔から多くの人々に親しまれてきた「鳥獣人物戯画」の表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	つくりだす喜びを味わい主体的に「鳥獣人物戯画」を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

※本題材は、「鑑賞」に重点をおいた題材であり、「技能」や「発想や構想」については、題材の目標として設定していない。

5　指導と評価の計画（全４時間）

※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準

時間	主な学習活動	評価の観点			指導上の留意点 ・ ICT の活用
		知 知識	思 鑑賞	態	
1	○滋賀県内の「ミュージアム」で展示されていた「鳥獣人物戯画　甲巻」の絵巻物を見て、作品に興味をもつ。「鳥獣人物戯画」の絵巻物を見て、どのような特徴があるのか考える。 ○実際に模写することを通し、「鳥獣人物戯画」の表現の面白さや特徴を友だちと交流する。	↓	○	↓	・縮小版の絵巻物を用意して、実際に触れたり、見たりできるようにする。 ・絵巻物を見て気になったところをタブレットで写真を撮り、表現の面白さや特徴に気付けるようにする。なぜそこを選んだのか尋ね、形や配置に着目できるようにする。 ・他の人の表現の説明を聞いたり尋ねたりする中で、自分の考えをより確かにしたり生かせるものを選んだりして、自分の表現につなげられるようにする。 ・「鳥獣人物戯画」の表現の面白さや特徴など気付いたことを整理し、提示する。
2	○「鳥獣人物戯画」について、学校図書館司書によるブックトークを聞く。	↓		↓	・「鳥獣人物戯画」に関する資料を自由に手に取れるように置いておく。 ・作品の面白さや特徴に触れた意見があれば取り上げる。 ・「鳥獣人物戯画」の面白さや特徴を改めて整理し、児童自らが気付いた面白さや特徴を描くことを通して、表現できるようにまとめさせる。
3 本時	○「チャレンジ鳥獣人物戯画」に取り組む。	↓	◎	↓	・登場人物の動きやお話の簡単な構成を考えるために図書室の本やタブレットを用意する。 ・制作途中で必要に応じて作品を鑑賞できるようにする。 ・タブレットで撮った児童の作品を提示しながら、作品の面白さや特徴を振り返る時間を設ける。
4	○「私のチャレンジ鳥獣人物戯画発表会」を行う。	◎	◎	◎	・タイトルや一押しの部分、全体の解説を書いて作品に添付できるカードを用意する。 ・どのようなチャレンジ（挑戦した！やってみた！）をしたことで、どのような絵巻物になったのかを自由に交流できるようにする。 ・振り返りシートを用意し、「鳥獣人物戯画」を改めて見て、自分の見方や感じ方が変わったところに着目できるようにする。

６　本時の目標（本時：３／４時間目）

友だちとの意見交流やブックトークを通じて見つけた面白さや特徴を生かして、絵巻物に表すことで鳥獣人物戯画のもつ特徴やよさに迫ることができる。

７　本時の評価規準

・形などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、昔から多くの人々に親しまれてきた「鳥獣人物戯画」の表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、描くことや、友だちと交流することから感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。【思・判・表】
・自分なりの絵巻物にしていく喜びを味わい、主体的に「チャレンジ鳥獣人物戯画」を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。【態】

８　本時の展開　*※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準*

	主な学習活動等	指導上の留意点(・)　ICTの活用(☆)　評価規準(□)
導入	○絵巻物を描くにあたり、もう一度描いてみたいと思って撮った写真を見返す。 ○描きたいと思ったところを必要に応じて友だちと話す。	・前時までに子どもたちが見つけた「鳥獣人物戯画」の面白さや特徴についてまとめたものを黒板に提示しておく。 ・筆と墨、和紙、タブレットを準備しておく。 ☆もう一度描きたいと思ったところをタブレットで撮っておき、見返すようにする。
めあて	面白いと感じたところを強調して描いてみよう。	
展開	・お話を考えて、動物たちに動きを付けたしたい。 ・未来にも現代の生活を残していきたい。 ・鳥獣人物戯画に自分が感じる日常生活の面白さを墨や筆を使って表したい。 ○友だちの意見を参考にしながら、強調して描いてみたいところを筆と墨を使って表現する。 ・野球をしている兎や蛙がいる。 ・スマホをもって写真をとっている蛙やポーズをきめている兎がいる。 ・けがをしている猿を救急箱をもって手当てをしている兎がいる。	・子どもたちに問いかけながら、本時のめあてを明確にしていく。 ・絵巻物に描くことを通して何を表したいのか、本時でチャレンジすることを考えられるようにする。 ・表現しきれなかったことは、次時に言葉で捕捉することを伝えておく。 ・どこに面白さを感じ、強調して表現しようとしているのかに気付けるように助言する。 ・描く時間は２０分であることを伝える。 □自分なりの絵巻物にしていく喜びを味わい主体的に「チャレンジ鳥獣人物戯画」を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。【態】(観察・対話・作品) ☆机間指導の際に子どもたちの表現をタブレットで撮り、子どもたちの気付きを把握しておく。
終末 まとめ	○強調して描いていく中で気付いたことを付箋に書いておく。 ・今の本や漫画も面白いけれど、鳥獣人物戯画のように物語や人物を想像したりするのも面白いなと思った。	・付箋を配付し、描いていく中で気付いた面白さを書き留めることができるようにする。

	・あらためて鳥獣人物戯画は輪郭や体の形、人物の動きを描くのがむずかしいと感じた。 ・スマホをもっている兎の表情を描くことができた。	
振り返り	○強調して描いてみることを通して気付いた面白さを全体で交流する。 ○自分の絵巻物を見返し、振り返る。 ○交流を通して気付いた面白さを絵に描き加えたり、付箋の端にメモをしたりしておく。 ・筆の太さや登場人物の大きさを考えることで、関係性や場面の様子がよく分かる。 ・自分が描くことを通して描き手の気持ちがよく分かる。 ○片付けをする。	・全体交流のときに、自分が気付いたことを発表できるようにする。 ・いろいろな気付きがあることを共有するために、発表者の作品をモニターに提示する。 ☆本時のまとめとして児童の作品を提示しながら、作品の面白さや特徴について振り返る時間を設ける。 □形などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、昔から多くの人々に親しまれてきた鳥獣人物戯画」の表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、描くことや、友だちと交流することから感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。【思・判・表】(作品、付箋) ・自分が描いた作品を提出してから、墨や筆を片付けるように声をかける。

第１学年国語科学習指導案

日　時：令和３年 11 月１日(月)５校時
学　級：第１学年４組 32 名
場　所：１年４組教室
授業者：中田　利恵

１　単元名

「竹取物語」のイチオシの登場人物を紹介しよう。～蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から―～

２　単元の目標

（１）音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。〔知識及び技能〕(３)ア

（２）場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。〔思考力,判断力,表現力等〕Ｃ(１)イ

（３）文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。〔思考力,判断力,表現力等〕Ｃ(１)オ

（４）言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝えようとしている。「学びに向かう力,人間性等」

３　単元について

（１）　生徒の実態

本単元の目標である「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。」（Ｃ読むこと(１)イ）と「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。」（Ｃ読むこと(１)オ）の二つの資質・能力について、１学期に「シンシュン」を学習し、物語の展開や登場人物の心情の変化に心を揺さぶられ、そのことを通じて捉えた登場人物の相互関係や自分の考え等を素直に表現する力が身に付いている。また、文学的な文章の場面の展開や人物の関係、心情の変化を捉えることが好きな生徒が多く、文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えを確かにする活動も意欲的に取り組むことができる。これらの実態から古典の学習においても、登場人物の相互関係や心情の変化などに興味をもって取り組むことができると予想される。

古典の学習においては、小学校で、百人一首や「竹取物語」「平家物語」の冒頭部分の音読を通じて、今と昔で仮名遣いや使われている語句が違うことは知っているが、古典の基本的なきまりや、中学校で初めて出会う語彙に不安を感じ、苦手意識や古典を難しいものと捉える生徒も多くいる。また、学習を積み重ねることに課題がみられる生徒がいることも踏まえ、本単元では、生徒それぞれの興味を引き出し、資質・能力を伸ばすことができるように、単元における課題の提示や学習計画を工夫し、生徒自らが主体的に学びに向かうことが重要と考える。

（２）　教材について

前単元では、「いろは歌」を基に、音読を通して古典特有のリズムの面白さを味わう学習を行っている。また、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを捉えることを通して古文独特の言葉の感覚に親しんでいる。本単元の「竹取物語」については、有名な御伽草子であり、「かぐや姫」の物語として、どの生徒にとっても親しみやすく、内容を捉えやすい教材である。ただ、小学校の学習から『竹取物語』を暗唱や暗記するものと捉える生徒が多く、本単元では、「竹取物語」のもっている「物語としての魅力」を捉えていきたい。

また、物語としての魅力も多い。多様な人間模様や相互関係の在り方は魅力の最たる例であり、傲慢であったり、ずる賢かったり、誠実であっても報われなかったりするそれぞれの貴公子や苦悩するかぐや姫など、読み進めていく中で自らとの共通点や相違点を感じながら深められることが、古典のおもろさにつながると考える。

（３） 指導について

学習指導要領（平成２９年告示）解説国語編によると、第１学年「Ｃ読むこと(Ｉ)オ」では、「文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりし、それを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることを通して、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにすること」が求められている。

そこで本単元では、次のように指導を行う。

① 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることを単元のゴールとし、「竹取物語」の登場人物（主に五人の貴公子）の中から一人を選び、紹介する言語活動に取り組む。

② 単元のゴールに向かって、粘り強く、見通しをもって学習に取り組めるように、単元の初めに、学習内容を理解し、学習計画を考える時間を設け、必要な準備や活動の在り方について検討した上で学習に取り組ませる。また、振り返りを毎時間行い、学習の現在地を確認する活動を行う。

③ 登場人物の紹介において、独りよがりな解釈に頼るのではなく、「竹取物語」の内容を理解し、自分の考えの根拠を文章に求める姿が求められる。そのためには、歴史的仮名遣いや語句の違いなどを理解し、古文を読む力を習得することが重要である。また、文章に出てくる語句や、物の名称の理解を深めるため国語便覧や ICT を活用したりして、生徒の語感を養う工夫を心がける。また、日常の学習で活用している「言葉ノート」を活用し、新たな言葉との出会いの場としたい。

（４）生徒が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	①…発見･蓄積：必要な情報を確かに取り出す
B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	②…分析･整理：情報を比較し、関連付けて整理する
	③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

【再構築をしている生徒の姿】

A③･･･古文の音読に必要な文語のきまりを理解して音読し、古典の世界に親しんでいる。

A③･･･文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもっている。

B③･･･話合い活動を経て、改めて自分の考えるイチオシの登場人物についてまとめ、考えを確かにしている。

【発見・蓄積＆分析・整理をしている姿】

A②･･･複数の登場人物の読み比べをして、必要な情報を読み取っている。

A①②･･･登場人物に関する情報が読み取れる描写を発見、蓄積している。そして、複数の描写を比較・分析し、結び付けて登場人物の心情の変化、人物の関係、人物像などを解釈している。

A②･･･「竹取物語」の登場人物と自分たちの共通点・相違点を考えている。

B①･･･登場人物に関する他の人の意見を理解している。

B②･･･解釈した内容について、自分自身の考えや価値観と比較し、イチオシの登場人物を選んでいる。

B②･･･話合い活動の中で、他の人の意見を聞きながら登場人物に関する情報を分類している。

【「読み解く力」を高め、発揮するための手立て】

・古文の音読ができるようになることや、登場人物の紹介に向けて様々な情報を見つけることができるように、生徒の目的に応じて、教科書以外の「竹取物語」の部分も読めるようにする。

・学習を進める中で、生徒が疑問に感じたことをいつでも調べることができるように、関連する図書資料やタブレットを活用する。

・古文の音読に必要な文語のきまりを理解して音読できるように、同じ場面をえらんだ生徒でグループを作り、音読したり、古語の意味を確認したりする。

・自分の考えを確かにするため、同じ登場人物を選んだ生徒でグループを作り、共有する。

・何を（自分のイチオシの登場人物やその根拠について不確かな部分や疑問点等）、何のために（イチオシの登場人物を紹介する根拠を確かにするために）、どのように（他者の考えの中から、「自分の考えを確かにできる情報を取り入れられるように）交流するのかを明確にする。

・生徒のより主体的な交流を行うため、交流したい人を自分で選べるようにする。

・交流における自分や他者の紹介を動画で記録し、よい紹介内容をみんなで共有したり、後から聞き返したり、最初の自分の紹介内容と比較したりできるようにする（タブレットの活用）。

4　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。	①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。	①積極的に古文を音読し、登場人物の相互関係や心情の変化を捉え、学習の見通しをもって、「竹取物語」のイチオシの登場人物を紹介しようとしている。

5　指導と評価の計画（全８時間）

※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動	指導上の留意点 ・ ICTの活用	評価規準（評価方法）
【事前】		⓪「竹取物語」に関する様々な現代作家の現代語訳・漫画・絵本を用意し、学習までに物語にふれる。	・生徒の目に留まりやすい廊下などの共有スペースなどに図書資料を設置し、興味・関心をもち、内容を理解できるようにする。	
一	1	①登場人物の紹介が単元のゴールだと理解し、登場人物を紹介する内容について検討する。 ②さまざまな古典作品や「竹取物語」の冒頭部分に触れ、古文の特徴をつかみ、これからの学習の見通しをもつ。	・身近な例で考えたり、授業者が見本を示したりすることを通して、「イチオシの登場人物を紹介する」という目的意識と見通しをもって、学習に取り組めるようにする。 ・単に今と昔の相違点を挙げるだけでなく、現代の文章との共通点や読み継がれる魅力はどこにあるのかを考えることで、学習に対する関心をもてるようにする。	
二	2	③古文と現代の文章との違いを確かめ、古文の基本的な知識（仮名遣い・文末の言葉・言葉の意味の違い）について学習する。 ④歴史的仮名遣いに注意して音読する。	・古文と現代の比較を通して、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すときのルールを理解できるようにする。 ・音読することで、歴史的仮名遣いなどの現代の文章との違いを楽しめるようにする。	〔知識・技能〕①（ワークシート）
	3 4	⑤五人の貴公子からの求婚の場面（教科書P159～162L6、資料）、帝からの求婚とかぐや姫の昇天の場面(教科 P162L71～164最後）を学習し、全体のあらすじを知	・教科書やその他の資料を用いて「竹取物語」のあらすじを理解できるようにする。 ・教科書の古文を音読する。 ・くらもちの皇子だけでなく、石作の皇子、右大臣阿倍御主人、大納言大伴御幸、中納言石上麿足それぞれの求婚にまつわる資料	〔知識・技能〕①（観察）

		る。 ⑥五人の貴公子からの求婚の場面について、複数の資料から情報を整理し、選ぶ。	を用意し、内容や登場人物の特徴が理解できたところで、「イチオシの候補」を挙げ、「もっと知りたい」という思いを生徒から引き出す。 ・登場人物への興味・関心が広がり、より深い理解となるように国語便覧等の資料を活用する。 ・内容理解に留まることがないように、好意を寄せる相手へのアプローチの在り方の違い等を読み取り、自らの生活と照らし合わせて考えることを意識できるようにする。 ・資料から五人の貴公子について捉えたことを共有し、イチオシの登場人物を選ぶことができるようにする。 ・学んだ音読に必要な文語のきまり等を意識し、自分が選んだ登場人物に関する古文を音読する。	〔知識・技能〕①（観察）
三	5	⑦イチオシの登場人物について、複数の描写を基に、登場人物の心情の変化、人物の関係、人物像などについて解釈し、自分の考えをもつ。	・同じ場面を選んだ生徒でグループを作り、音読したり、古語の意味を確認したりする。 ・それぞれの登場人物の行動やその結果、性格などを比較することを通して、イチオシのポイントを自分なりに考えることができるようにする。 ・それぞれの登場人物の特徴について、多くの情報に触れることができるように、関連する資料やタブレットを活用する。 ・イチオシの登場人物について、複数の描写（情報）を結び付けて、考えを形成できるようにする。	〔思考・判断・表現〕①（ワークシート・観察）
	6	⑧イチオシの登場人物について、同じ考えの人と交流しながら、自分の考えを確かにする。	・同じ登場人物を選んだ生徒でグループを作り、交流することを通して、考えを確かにすることができるようにする。 ・タブレットを用いて、それぞれの考えを共有できるようにする。 ・目的や内容を明確にして、交流ができるようにする。 ・自分の考えを確かなものにして	〔思考・判断・表現〕②（ワ

			いる生徒の姿を全体で共有し、考えを確かにするとはどういうことか、確かにするために必要なことは何かを理解できるようにする。	ークシート、撮影された動画）
	7 本 時	⑨イチオシの登場人物について、同じ考えの人と交流し、紹介する内容を吟味して、再度考えをまとめる。	・目的に応じた交流を行うことができるように、生徒が交流したい人を自分で選べるようにする。 ・タブレットを用いて、それぞれの考えを共有できるようにする。 ・目的や内容を明確にして、交流ができるようにする。 ・必要に応じて、自分や他者の紹介を動画で記録し、後から聞き直したり、最初の自分の紹介内容と比較したりできるようにする。 ・交流を通して、再度、自分の紹介の内容について考えをまとめる時間を設ける。	〔思考・判断・表現〕②（ワークシート・撮影された動画）
	8	⑩イチオシの登場人物を違う人物を選んだ人に紹介する。 ⑪単元での学習を振り返る。	・異なる登場人物を選んだ生徒でグループを作り、交流をする。 ・単元での学習を通して、「できるようになったこと」「これからの学習に生かしたこと」等の視点で振り返ることができるようにする。	〔主体的に学習に取り組む態度〕（ワークシート・発表）

6　本時の目標（本時：７／８時間目）

〔思考力・判断力・表現力等〕

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。

（Ｃ読むこと(Ｉ)オ）

7　本時の評価規準

「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。

（思考・判断・表現②）

8　本時の展開　　*※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準*

	主な学習活動等	指導上の留意点(・)　ICTの活用(☆)　評価規準(□)
導入	１　これまでの学習の振り返りをする。 ２　今日の学習内容を知る。 本時のめあて　：　イチオシの登場人物の紹介内容をより確かにしよう！！ 学習課題　：　自分の考えをより確かにするポイントは？	・単元のゴールを確認し、前時の学習内容について振り返り、本時の学習内容について考える。 ・前時で学習した「自分の考えを確かにする」ことについて確認する。
展開	３　イチオシの登場人物の紹介の準備をする。 ４　同じ意見の人と共有しながら、自分の考えを確かにする。 ５　イチオシの登場人物の紹介内容を再考する。	・自分の選んだ登場人物の紹介について、注目した描写や根拠を整理する。 ・目的に応じた交流を行うことができるように、生徒が交流したい人を自分で選べるようにする。 ☆タブレットを用いて、それぞれの考えを共有できるようにする。 ・何を（自分のイチオシの登場人物やその根拠について不確かな部分や疑問点等）、何のために（イチオシの登場人物を紹介する根拠を確かにするために）、どのように（他者の考えの中から、自分の考えを確かにできる情報を盗むように）交流するのかを明確にする。 ☆後で必要な情報を聞き返したり、最初の自分の紹介内容と比較したりできるように、自分や他者の紹介の様子をタブレットで撮影してもよいことを伝える。 ・交流を通して広がったことや深まったことを踏まえ、イチオシの登場人物の紹介内容を再考するよう伝える。 □〔思考・判断・表現〕文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。
終末	６　今日の学習の振り返りをする	・本時の学習を通して「できるようになったこと」や「次回の発表に向けて生かしたいこと」を振り返り、全体で共有する。

第２学年英語科学習指導案

日　時：令和３年 11 月 22 日（月）５校時
学　級：第２学年Ａ組　２５名
場　所：IT ルーム
授業者：Ｔ１　藤川　直子
　　Ｔ２　西尾　梨那
　　ALT　Devante Smith

１　単元名

Unit 6 Research Your Topic & Research and Presentation (New Horizon English Course 2)

２　単元の目標

ALT に自分たちのことをよりよく知ってもらうために、身近なトピックに関する調査とその結果発表を読んで理解し、自分たちのクラスで人気のあるものやことについて、その結果や自分の考えをまとまりのある内容で話すことができる。

３　単元について

（１）　生徒の実態

本学級の生徒は、「分かりたい」、「できるようになりたい」という思いはあるが、自分の考えを表現したり、感情を表したりすることが苦手であり、授業中の反応や発言も少ない。また、言いたいことがうまく表現できず、途中であきらめてしまう生徒や学習意欲が低い生徒も見られる。

このような生徒の実態から、本単元では、ＡＬＴに自分たちのことをよりよく知ってもらうために、身近なトピックで調査を行い、その結果をまとまりのある内容で話すことができるという単元目標に向けて、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

単元導入時にＡＬＴから「今、中学生に人気のあるものって何なの？みんなの好きなものやことを教えてくれない？」と問いかけをし、その問いかけに答えるという目的に向けて学習を進める。第８時には、ＪＴＥが発表のモデルを示すことで、生徒に単元のゴールの姿をイメージさせるとともに、「自分もこんなふうにやってみたい！」という意欲を引き出しながら、指導を進める。

調査内容は、ＡＬＴからの問いかけをもとに生徒自身が考える。そして、生徒の興味や関心に応じたグループ分けを行い、アンケートの実施、集計をグループで行う。しかし、資料作りや発表は個人で行うことで、一人ひとりが自分事として発表でき、全員に「できた！」「話せた！」という達成感をもたせたい。

（２）　教材について

Unit 6 は、映画に関するクラス内調査とその結果発表のプロセスを紹介するものであり、その流れを受けて、Stage Acitivity２で生徒自身が同様の活動に取り組める教材となっている。

言語材料としては、形容詞や副詞の原級、比較級、最上級を用いた比較表現が扱われている。これらの学習を通して、身近なことや生徒が興味をもっている複数のものや人について比べることが可能になる。また、一連の言語活動を通して、課題を設定する力や情報を収集しそれらを整理する力、またそれらを基に資料を作成、活用して発表する力を身に付けさせたい。

（３）　指導について

前半の学習では、教科書の映画に関する調査とその結果発表のプロセスから、自分たちの発表の流れやそのために必要な言語材料の確かな習得を目指したい。そのため、帯活動として Small Talk や Mini Activity を行い、比較表現等の定着を目指す。

後半の学習では、生徒の興味や関心に応じたグループで、アンケートの作成、実施、分析を行うが、資料作成からは個人で行い、一人ひとりが自分事として取り組めるようにする。そして、ペアやグループで話したり、タブレットで録画した自らの様子を振り返ったりしながら、単元終末のグループ発表、ALT への発表（パフォーマンステスト）に自信をもって臨めるように指導したい。

タブレットを活用し、資料やキーワードを頼りに話すことで、事前に書いた原稿を暗記するのではな

く、聞き手に配慮した発表をしながら、即興で話す力を身に付けることが可能になる。そのため、反応や質問する力など、聞き手への指導も積み上げていきたい。

このようなスモールステップでの指導を大切に、小さな「できた！」「話せた！」という成功体験を積み上げ、英語で発表することの楽しさや相手に伝わることの喜びを感じさせたい。

（4）生徒が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	①…発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す ②…分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する ③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

【A①】	【B①】
・教科書（P.84～97）の内容理解を通して、調査結果を伝えるために活用できる表現(比較表現等)を理解する。	・教員のモデルを見て、発表方法の工夫に気付く。 ・Mini Activity や Small Talk で比較表現を使いながら、その意味や語順等に気付き、理解する。
・調査結果を伝えるために活用できる比較を表す語や表現に着目しながら読む。 ・Mini Activity や帯活動（Small Talk）に継続して取り組むことで、新出語彙や表現への気付きと理解を深める。	
【A②】	【B②】
・調査結果を分析し、結果を示す図表やグラフなどの資料を基に、聞き手に伝える内容を整理したり話の展開を考えたりする。	・録画した映像や友達の発表を基に自分の発表を振り返るとともに、友達からのアドバイスや中間指導を生かし、再度聞き手に分かりやすい話の展開になっているか吟味する。
・調査結果を分析し、効果的に伝えるための資料を基に、伝える内容を整理したり話の展開を考えたりする。 ・友達のアドバイスや中間指導を参考に、聞き手に分かりやすい展開、内容、伝え方になっているか吟味する。	
【A③】	【B③】
・事実や考えなどを整理し、資料を効果的に活用しながら聞き手に分かりやすく発表する。	・友達からのアドバイスや中間指導等を生かし、聞き手がさらに知りたい内容を加えたり、問いかけなどの工夫をしたりして、分かりやすく発表する。
・友達のアドバイスや中間指導を生かし、伝える内容を精査したり、聞き手に問いかけたりするなどの工夫をする。	

4　単元の評価規準　【話すこと（発表）】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較表現やこれまでの学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・比較表現やこれまでの学習事項を用いて、クラスで人気のあるものやことについて、その結果や自分の考えをまとめて発表する技能を身に付けている。	・ALT に自分たちのことをよりよく知ってもらうために、クラスで人気のあるものやことについて、その結果や自分の考えをまとまりのある内容で話している。	・ALT に自分たちのことをよりよく知ってもらうために、クラスで人気のあるものやことについて、その結果や自分の考えをまとまりのある内容で話そうとしている。

5　指導と評価の計画（全１３時間）

※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動 / ICT の活用　ねらい（■）言語活動等	評価規準・評価方法			
			知	思	態	備考
一	1	Orientation Preview / Scene 1　p.84、85 ■単元の目標を理解する。(Listening・Reading)				・毎時間、学習の振り返りを行う。 ・第 12 時、第 13 時の終末

		・ＡＬＴの問いかけを聞いて、単元の目標を理解し、自己目標を設定する。 ・比較級、最上級の意味や用法について理解し、使えるようにする。				課題に向け、帯活動として Small Talk を行い、比較表現等の定着を目指す。
二	2	Scene 2　p.86 ■ジョシュと朝美の対話を読み取る。（Reading） ・対話の概要を捉える。 ・比較級、最上級（つづりの長い）の意味や用法を理解し、使えるようにする。				記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して、生徒の状況は確実に見届けて指導に生かすことは毎時間行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。
	3	Mini Activity Ⅰ　p.87 ■トリビアクイズを出し合い、クイズ王を決める。（Speaking・Listening） ・タブレットを活用し、情報を集め、比較表現等を用いたトリビアクイズをつくる。〔タブレットの活用〕 ・トリビアクイズを出し合い、クイズ王を決める。	○			
	4	Read and Think Ⅰ　p.88、89 ■ジョシュの発表を読み取る。（Reading） ・Small Talk を行う。（面白いテレビ番組や映画） ・調査結果を読み、必要な情報を捉える。 ・基本文や新出表現を理解する。				
	5	Read and Think Ⅰ　p.88、89 ■ジョシュの立場で、調査結果を伝える。（Reading・Speaking） ・Small Talk を行う。（一番好きな食べ物） ・ジョシュが伝えたい内容や発表する際に効果的な表現について意識しながら、音読する。				
	6	Read and Think 2　p.90、91 ■フィードバックシートを読み取る。（Reading） ・Small Talk を行う。（一番好きな教科） ・フィードバックシートのコメントを読み、概要を捉える。 ・基本文や新出表現を理解する。				
	7	Read and Think 2　p.90、91 ■海斗の立場で、フィードバックを伝える。（Reading・Speaking） ・Small Talk を行う。（好きな有名人や芸能人） ・海斗が伝えたい内容を意識しながら、音読する。 ・第Ⅰ次の学習内容を振り返る。				
三	8	Research and Presentation　p.96 ■発表の流れを確認し、英語でアンケートを作成する。 ・ＪＴＥの発表モデルを見て、発表の工夫に気付く。 ・グループ（４人）で調査内容を決め、英語でアンケートを作成する。				

	9 ～ 11	■アンケートの実施、集計、資料づくりを行い、それらを基に伝えたい内容をまとめる。 ・学級内でアンケートを実施し、グループごとに英語で結果を集計、分析する。 ・結果のまとめ方（p.97）を理解する。 ・タブレットを使って、資料（図表、グラフ、キーワード）を作成し、伝えたい内容をまとめる。〔タブレットの活用〕				
	12 本 時	■デバンテ先生への発表に向けて、調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で友達に話すことができる。 ・めあてを確認する。 ・グループで発表し合い（録画）、友達からフィードバックをもらう。 ・全体での中間指導を聞く。 ・友達からのアドバイスや中間指導を受けて、録画した映像を見ながら、展開や内容、伝え方を修正する。 ・修正した部分を意識して、グループで再度発表（録画）し、録画した映像を個人で振り返る。 ・録画した映像を提出する。〔タブレットの活用〕	○	○	○	
	13	Performance Test ■デバンテ先生に調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で話すことができる。 ・デバンテ先生の前で、１人ずつ発表を行う。〔タブレットの活用〕 ・自己目標の達成度を振り返り、次の課題を明確にする。	○	○	○	

6　本時の目標（本時：12／13 時間目）

デバンテ先生への発表に向けて、調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で友達に話すことができる。

7　本時の評価規準

条件１　調査結果を述べている。
条件２　調査結果に対する自分の感想や考えを述べている。
条件３　聞き手を意識し、まとまりのある内容を話している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話すことができる。	聞き手を意識し、調査結果とそれに対する自分の感想や考えを詳しく述べながら、３つの条件を満たして発表している。	聞き手を意識し、調査結果とそれに対する自分の感想や考えを詳しく述べながら、３つの条件を満たして発表しようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	３つの条件を満たして発表している。	３つの条件を満たして発表しようとしている。
c	「ｂ」を満たしていない。	「ｂ」を満たしていない。	「ｂ」を満たしていない。

8　本時の展開　　※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準

	主な学習活動等	指導上の留意点(・)　ICTの活用(☆)　評価規準(□)
2分	1．めあての確認 Today's Goal: デバンテ先生への発表に向けて、調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で友達に話すことができる。	・本時の流れとめあてを明確に示す。
12分	2．グループ発表 ・グループ内で発表し合う。(☆録画) ・聞き手は、反応や質問、フィードバックを述べたりする。 Presenter：My presentation is about school lunch. 90% of our classmates like school lunch. Our classmates like school lunch better than lunch boxes. "Age pan" is the most popular food in our class. Please try it. Thank you. A："age pan"ってデバンテ先生に分かるのかな？ B：Why do our classmates like school lunch?	・聞き手は、反応や質問、あるいはフィードバックを１発表につき１回以上することを事前に伝えてから、グループ発表を行う。 ・フィードバックで使えそうな視点を板書しておく。
10分	3．中間指導 ・次の３つの視点から中間指導を聞く。 1 内容の工夫（相手意識） 2 調査結果（事実）＋感想・考察（自分の考え） 3 文法的な誤り等言語面の指導	・グループ発表で見つけた生徒の姿を価値付けながら、中間指導を３つの視点から行う。 1 内容の工夫（相手意識） ・聞き手を意識した内容を価値付ける。 ・ALT は、さらに知りたい内容を生徒に伝える。 2 調査結果（事実）＋感想・考察（自分の考え） ・特に優れていた感想・考察を取り上げ、価値付ける。 3 文法的な誤り等言語面の指導 ・気になる誤りを板書し、ペアで間違いについて正しく直させ、言語面の正確性を高める。 （比較表現、接続詞、単数複数　など）
10分	4．個人で修正 ・録画した映像や友達からのフィードバック、中間指導を参考に、自分の発表を見直し、展開や内容、伝え方を吟味する。	・録画した映像を活用し、修正点に気付けるような声かけをしたり、積極的に教員にたずねたりするように促す。 ・本時のめあてを再度確認しながら、中間指導が生かせているかを見届け、フィードバックをする。
13分	5．グループ発表 ・修正した部分を意識してグループで再度発表し、録画した映像を個人で振り返る。(☆録画) ・録画した映像を提出する。 Presenter：My presentation is about school lunch. 90% of our classmates like school lunch. Our classmates like school lunch better than lunch boxes because we can eat a hot meal. "Age pan" is the most popular food in our class. Do you know it? It's fried bread with soybean flour. According to the Internet, "age pan" is the most popular food in Japan. So, please try it. Thank you.	2 調査結果（事実）＋感想・考察（自分の考え） 1 内容の工夫（相手意識）
3分	6．振り返り ・録画した映像を見ながら、本時のめあてに沿って本時にできるようになったことを振り返り、次時への見通しをもつ。	・録画した映像を活用し、本時のめあてに沿って振り返りをさせ、次時のパフォーマンステストで気を付けたいこと、できるようになりたいこと等について書くように促す。

第３学年社会科（公民的分野）学習指導案

日　時：令和３年１１月１２日（金）５校時
学　級：第３学年２組３２名
場　所：３年２組教室
授業者：松谷 直宏

１　単元名

個人の尊重と日本国憲法

２　単元の目標

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

・個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であること、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていること、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解する。〔知識及び技能〕

・我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。〔思考力、判断力、表現力等〕

・個人の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。また、だれもが自分らしく、幸せに生きることができる社会を創ることを目指し、これからの人権保障についての課題を主体的に追究する。〔学びに向かう力、人間性等〕

３　単元について

（１）　生徒の実態

個人の尊重についての考え方や法の意義、法に基づく政治及び日本国憲法の基本的原則に対する基礎的・基本的な知識を習得しているが、日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について理解することができる生徒は少ない。そのため、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であるということを、生徒の身近な生活と結び付けながら、考察できる力を身に付けられるようにしていきたい。

本学級では、基本的な資料の読み取りの力は少しずつ身に付いてきているが、資料と社会的事象を関連付けて考察したり、他者の意見や考えを踏まえて自分の意見を表現したりすることについて苦手意識をもつ生徒が多いため、ディスカッションや協働学習を用いて、多面的・多角的に考える場面を設定していきたい。

（２）　教材について

本単元は、民主的な見方や考え方の基礎が養えるように、個人の尊重についての考え方を深めるとともに、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について理解するものである。民主主義は、個人の尊厳を基礎として成り立ち、全ての国民の自由と平等が確保されていることを理解するために適切な教材であると考える。本単元の学習は、具体的な事例を取り上げながら学習を展開していくことで、生徒の人権に対する興味・関心を高めることができ、さらに個人の尊重についての考え方を深めることにつながる。

（３）　指導について

指導に当たっては、生徒の興味・関心が高まるように、具体的な事例を取り上げながら学習を展開し、「自分らしく幸せに生きていくために、どのような人権が保障されているのか」を学習問題として追究していきたい。資料を読み取る場面では、分析の仕方を確認しながら、資料分析の技能を高めていく。さらに、習得した知識や技能を生かしながら、意思決定を取り入れた討論型の発展学習を展開し、思考力、判断力、表現力等を育成する。今回は「人権の保障と公共の福祉」を題材に、社会的な問題の実例として、「道路建設をめぐる対立」を取り上げ、立ち退き拒否の側と立ち退きを求める側の対立の原因と

主張、根拠を整理しながら、「道路建設は公共の福祉にあたるのか」を視点に学習問題「道路の拡張計画について賛成か、反対か」を導き出したい。そして、視点を基に多面的・多角的に考察し、意思決定をする。討論場面では、グループ活動を取り入れ、その中で他者と意見交換をしながら、比較したり、共有したり、練り上げたりして、自分の考えを深めたい。公共の福祉を考える際には、個人の尊重という視点から、人権の制限には慎重にならなければならず、最大限バランスよく人権が保障されるよう配慮する必要がある。最終的には一方を選択するのではなく、対立を調整し、合意に導くためにはどうしたらいいかについても「効率」「公正」の見方や考え方を生かして検討したい。

（4） 生徒が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	①…発見･蓄積：必要な情報を確かに取り出す ②…分析･整理：情報を比較し、関連付けて整理する ③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

【A①】 ・我が国の政治における憲法の位置付けを図などから読み取ることで、憲法の重要性を理解している。	【B①】 ・グループによる意見交流を通して、憲法に基づく政治によって、国民の自由と権利が守られていることを理解している。
・人権保障について日常生活と結び付けたり、自分に置き換えたりする場面を設定する。	
【A②】 ・憲法に書かれている内容を知った上で、身の周りにある様々な人権保障に関する課題を、憲法の条文と照らし合わせながら考えている。 ・憲法をどのように解釈するか、既習の内容、これまでの自分の人生経験やその中で築き上げてきた価値観とも照らし合わせながら自分なりの考えを整理している。	【B②】 ・人それぞれの立場や価値観のちがいから、憲法の解釈の仕方、求める人権保障のあり方にはちがいがあることに気付き、自分の解釈をもう一度見つめ直している。
・収集した資料の中から、法の意義や我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることなどについての学習に役立つ情報を適切に選択し、読み取ったり図表などにまとめたりする。 ・グループによる意見交流を通して、「対立と合意」「効率と公正」の視点から自分の意見を整理する。	
【A③】 ・基本的人権の尊重を中心とした個人の尊重についての考え方と、憲法をはじめとした法との関連から課題を見つけ、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	【B③】 ・他の人の考え方を知った上で、対立と合意、効率と公正の視点から考察し、自分の考えを表現している。
・自分なりの考えをもつ時間を確保したあとに、意見交流をする場面を設定する。また、最後にもう一度自分の意見を整理する活動を設定することで、自分の考えの変容について気付くことができるようにする。	

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。 ・民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。 ・日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的･多角的に考察し、表現している。	・個人の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ・だれもが自分らしく幸せに生きることができる社会を創るために、これからの平和主義に関わる課題や基本的人権の

・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。		課題の解決、個人の尊重と公共の福祉を視野に主体的に追究しようとしている。

5　指導と評価の計画（全１９時間）*※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準*

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
一	1	・道路拡張計画に対して、自分の意見をもつ。個人の尊重と法の支配、効率と公正などに着目し、考えていくことを理解する。	・身近な事例から、自分と憲法や政治に関わる問題とのつながりに気付き、学習に対する関心や意欲をもつことができるよう身近な事例を取り上げる。	・個人の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。（態）
	2	・民主主義の考え方やその決定の仕方を理解することを通して、よりよい民主政治のために必要な事柄を考える。	・政治とはどのようなはたらきをもつものかを理解できるように具体例を挙げて説明する。	・民主主義に着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。（思）
	3	・政治権力が公平に行使され、私たちの自由を守るために、法の支配と権力分立が必要であることを、人の支配と比較して考察する。	・個人の尊重が実現されるためには、基本的人権を保障し、政治権力を制限する立憲主義の憲法が必要であることを人の支配と比較することを通して理解できるようにする。	・個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。（知）
	4	・日本国憲法の三つの基本原則は、どのような背景から成り立ったのかを理解する。	・日本国憲法がどのような経緯で制定されたのかを歴史的背景を基にしながら理解できるようにする。	・日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。（知）
	5	・民主主義と法の支配を実現させるために、国民主権と国民の政治参加がなぜ重要なのかを理解する。	・国民主権の意味と行使の方法や、日本国憲法における天皇の位置付けを憲法条文等を用いて理解できるようにする。	・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。（知）
二	1	・「あってよいちがい」と「あってはいけないちがい」に分類したときの根拠について考え、話合いながら、私たちが自分らしく幸せに生きていくために、どのような人権が保障されているのかを考える。	・基本的人権が個人の尊重の原理に基づいていることを理解し、だれもが自分らしく幸せに生きることができる社会を創るために、どのような人権が保障されべきかを考えるようにする。	・だれもが自分らしく幸せに生きることができる社会を創るために、基本的人権の課題の解決を視野に主体的に追究しようとしている。（態）
	2	・自由権が侵害された場合、どのような問題が生じるかを考える。	・個人として尊重され、個性や才能を発揮していくには、国家から干渉や妨害を受けない自由権があることを事例を基に考えられるようにする。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。（思）
	3	・男女共同参画社会や障がいのある人とともに生きる社会を実現する施策について理解する。	・基本的人権を基礎付ける法の下の平等の意義を、具体的な施策を取り上げて、理解できるようにする。	・個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。（知）
	4	・現在も存在する部落差別、アイヌ民族への差別、在日韓国・朝鮮人差別の問題を解決し、共に生きる社会を実現するための	・様々な資料から、差別解消のための取組について、それぞれの立場を意識して考えられるようにする。	・個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面

		施策について考える。		的・多角的に考察し、表現している。（思）
	5	・具体的な事例から、人間らしい生活を保障することとはどのようなことかを理解する。	・社会権が生まれた背景を踏まえ、社会権で保障されている内容を理解できるようにする。	・個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。（知）
	6	・参政権や請求権の重要性について理解する。	・参政権や請求権が、それぞれどのように人権を保障しているのかを理解できるようにする。	・個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。（知）
	7	・情報化に関わる新しい人権について、社会の変化を踏まえて考察し説明する。	・具体的な事例を挙げながら、社会の変化に伴って人権の考え方が広がり、日本国憲法に規定されていない人権も保障されてきていることに気付けるようにする。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。（思）
	8	・科学技術の発展に関わる新しい人権について、社会の変化を踏まえて理解する。	・科学技術の発展に関わる新しい人権の意義と内容を理解できるようにする。	・個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。（知）
	9	・国際的な人権課題を捉え、その解決の方向性について、理解する。	・国際的な人権保障がどのように展開されたのかを理解できるようにする。	・個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。（知）
	10	・公共の福祉による人権の制限について話合う。	・基本的人権と公共の福祉の関係について、具体的な事例を基に、その理由を考えられるようにする。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。（思）
	11	・道路拡張計画に対して、自分の意見を効率と公正、個人の尊重の視点を踏まえて考察し、表現する。	・原因や主張、根拠を整理させることで、対立する人権を把握できるようにする。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。（思）
	12 本時	・道路拡張計画に対して、他の人の意見を参考にしながら、根拠を明確にして考察し、表現する。	・人権の学習内容や日本国憲法条文をもとにして、自分の意見をまとめていけるようにする。	・だれもが自分らしく幸せに生きることができる社会を創るために、個人の尊重と公共の福祉を視野に主体的に追究しようとしている。（態）
三	1	・日本国憲法の平和主義のあり方を、日本国憲法の条文や資料をもとに理解する。	・日本国憲法の前文や第９条から、平和主義について記述している内容を読み取らせ、ワークシートにまとめていけるようにする。	・日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。（知）
	2	・日本国憲法の平和主義に基づいて、これからの日本の安全保障について考える。	・日本の安全保障、国際貢献に関する資料を基に、様々な議論があることを取り上げる。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。（思）

6　本時の目標（本時：１７／１９時間目）

・道路建設の是非を考えることを通して、個人の権利と公共の福祉が対立している状況に気付き、「道路建設は公共の福祉にあたるのか」について、個人の尊重と公共の福祉を視野に、他の人の意見を参考にしながら自分の意見を主体的に追究することができる。

7　本時の評価規準

主体的に学習に取り組む態度			
だれもが自分らしく幸せに生きることができる社会を創るために、個人の尊重と公共の福祉を視野に主体的に追究しようとしている。			
評価基準	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）
	これまでの学習内容、資料に基づく理由付けと他の人の意見から、意思決定し、記述している。	これまでの学習内容や自分なりの理由付けから、意思決定し、記述している。	（B）に達していない記述
（B)、(C)の生徒への支援		→資料や他の人の意見を基に自分の考えを整理するように促す。	→他の生徒の資料分析や考えをメモし、自分の文章に引用するように促す。

8　本時の展開　　*※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準*

	主な学習活動等	指導上の留意点（・）　評価規準（□） ＩＣＴの活用（☆）
導入	１．道路拡張に伴う論争を把握する。 ２．本時のめあてを確認する。	・前時にまとめた自分の意見を発表できるよう促す。
	道路拡張計画に賛成？反対？　立場を明らかにして、その理由を説明しよう	
展開	３．グループ交流を行う。 ・タブレットに書かれてある道路建設の是非についての自分の意見を根拠とともに表現する。 ・賛成派→反対派の順で説明をする。 【予想される生徒の意見】 ＜賛成＞ ・地域住民の交通面や不便さや危険性が想定されるため。 ・渋滞を解消するため。 ・経済活動を活発にするため。 ＜反対＞ ・歴史的な景観や住民生活の基礎ともいえる商店がならんでおり、それらを奪うことは地域住民の利益になるとはいえない。 ・Ａさんの人権を保障するため。	・根拠を基に自分の意見を図式化して導くことを通して、対立する主張の背景にある憲法条文に着目できるようにする。 ・公共の福祉に基づき、財産権を制限できるかをめぐる争いであることを確認できるようにする。 ・効率と公正のグラフに基づいて、Ａさんと Ｘ市がどのような権利や見方・考え方を重視しているかをわかるようにする。 ・Ｂさんから Ｇさんまでの意見がどのような権利や個人の尊重、効率と公正などの見方・考え方を重視しているかをわかるようにする。 ・公共の福祉の使用は慎重な対応が求められることを理解できるようにする。 ・自分と反対の立場をとる人たちと意見交流する中で、自分の意見を再整理したり、相手の意見を踏まえて、意見を修正したりできるようにする。

まとめ	４．自分の意見をまとめる。 ・タブレットを用いて学級全体で意見を共有する。影響を受けた意見には印をつける。 ・話合いや他の人の意見を参考にしながら、最終的な自分の意見をまとめる。 ・最終的な自分の意見をタブレットに打ち込む。	・個人の尊重、効率と公正を踏まえ、公共の福祉の使用に関しては慎重に議論をする必要があることを確認する。 ・双方の立場で代表で何人かを指名し、発表する。 ☆タブレットを用いて学級全体で意見を共有させ、影響を受けた意見には印を２つに絞ってつける。 □発言やワークシートから、だれもが自分らしく幸せに生きることができる社会を創るために、個人の尊重と公共の福祉を視野に、他の人の意見を参考にしながら自分の意見を主体的に追究しようとしている。（態）

第３学年数学科学習指導案

日　時：令和３年１１月１８日（木）５校時
学　級：第３学年１組　３４名
場　所：３年１組教室
授業者：苗代　峻平

１　単元名

相似な図形（中点連結定理の利用）

２　単元の目標

〇平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解することができる。（知識及び技能）
〇三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。
平行線と線分の比についての性質を見いだし、それらを確かめることができる。
（思考力・判断力・表現力等）
〇相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。（学びに向かう力人間性等）

３　単元について

（１）　生徒の実態

学級全体の雰囲気として、普段の授業から積極的に学習に取り組む姿が見られる。特に、知識・技能に関する問題演習では、自分が定めた目標に向かって積極的に学習ができていると感じる。一方で、思考力・判断力・表現力等を発揮して取り組むような発展的な課題については、知識及び技能の定着が確実でないために、うまく力が出せず途中でにあきらめてしまうことや、チャレンジしない生徒が多い。

図形の分野では、２年時に学習した証明問題について、図形の合同の証明や平行四辺形になることの証明は根拠となることがらを示して証明することができていた。また、証明の前段階として説明するような問題にも積極的に取り組むことができていた。一方で、合同の証明を利用して、辺の長さや角の大きさを求めたり、さらに活用したりしていくような問題については苦手意識が強いという実態である。３年生から、知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の観点に準じたレポートに取り組ませたり、リフレクションシートを活用して振り返りの場面を設定したりして、苦手意識の改善をしている。

（２）　教材について

２年時では、三角形の合同条件を用いて、三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることを学習している。ここでは、三角形の相似条件を用いて、三角形や平行線と比に関する図形の性質を中心に論理的に確かめ、数学的な推論のしかたについての理解を深めることがねらいである。

本時の課題については、前時の中点連結定理を用いた証明をもとにさらに条件を加えて、特殊な四角形になるときの性質を考えていく。まずはじめに作図ツールを使って帰納的に考え、そこから証明していく流れとなる。証明については、自分で仮定を決め、ひし形や長方形になるために定義を確認して結論に導くため、やや難しく感じることが予想されるが、既習事項を確認しつつ、生徒が主体的に証明に取り組むように展開していきたい。

（３）　指導について

相似の意味、三角形の相似条件の導入においては、実際に操作や実験などを通して、その性質や条件などを直感的に導いている。推論の根拠として、三角形の相似条件を位置づけ、それを根拠にしていろいろな図形の性質を定理として整理し、図形の相似をもとにして導かれた定理を体系づける展開になっている。

証明の書き方が十分定着していない生徒も見られるが、まずは個人で見通しをもって課題について考えさせて、論証の定着を図りたい。その上で、特に大切にすることとして、根拠となることがらを明確に書き表すということを徹底して指導し、論証において根拠が 論証の柱であるということを理

解させていきたい。

（４）　生徒が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	①…発見･蓄積：必要な情報を確かに取り出す ②…分析･整理：情報を比較し、関連付けて整理する ③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

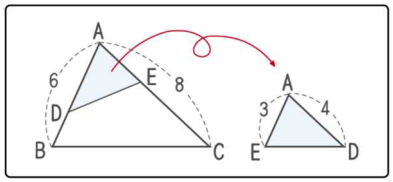
【A①】問題解決に向けて、既習の定理を用いて見通しをもつことができる。	【B①】個人で考えたことをもとに、ペア・グループ活動を通して、自分になかった考え方や表現方法に気づき、理解している。
・例題や問題演習をとおして、表現方法のきまりやポイントなどをノートや振り返りにまとめたことを見直し、見通しをもつ。 ・ICT を活用して、自分や他人の考えを共有する時間を授業の中間に設定する。	
【A②】教科書の例題や図形の性質について、既習の図形の性質や関係を論理的に整理し、論理を組み立てている	【B②】①で得た他者の考えと自分の考えを比較し、ノートで振り返ることで、考えをより深めている。
・ペア・グループ学習や全体で共有した考え方などをもとに、再度自分自身で考えたりまとめたりして深めていく。	
【A③】図形の性質が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明したり、統合的・発展的に捉えたりすることを通して、論理的に考察し表現している。	【B③】日常の生活や社会の事象などを、数学的な表現を用いて説明したり、論理的に表現したりしている。 　数学の事象が実際の生活でどのように活用されているのかを考察している。
・発展的な課題を通して、演繹的に論証することを理解する。 ・学習したことから、実生活で応用されていることなどを調べ、レポートや振り返りシートに記述する。	

４　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解している。 ②　相似な平面図形の相似比と面積比の関係について理解している。 ③　基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係について理解している。 ④　誤差、有効数字の意味を理解し、近似値を a×10n の形に表現することができる。	①　三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ②　平行線と線分の比についての性質を見いだし、それらを確かめることができる。 ③　相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。	①　図形の相似の意味や、相似な図形の相似比と面積比や体積比の関係を考えようとしている。 ②　図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③　相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

5　指導と評価の計画（全２２時間）

次	時	主な学習活動	●指導上の留意点 ◆ICTの活用	評価規準・評価方法
一	1	・タブレット上での 2 本の指の操作によって、図形がどのように拡大されているかを調べる。	～単元全体を通して～ ●授業の流れを示す ・授業のはじめにめあてを提示して、その授業で何を学習するのかを明確に示すようにする。目標については、「三角形の相似条件を理解することができる」、「平行線と比の定理を利用して、図形の性質を証明することができる」など、本時で何ができるようになればいいかを簡潔な形で示すようにする。その上で、本時の課題や具体的な活動について板書するように心がけ、授業の流れを明確にしていく。	・思③：　ノート
	2	・平面図形の相似の意味と表し方を知る。 ・ある図形の拡大図をかいて、対応する部分の長さや角の大きさの関係を調べる。 ・相似な図形の性質を確認する。 ・相似比の意味を知る。 ・図形の合同と相似の関係を考える。		・知①②：章末レポート
	3	・相似の位置にあることの意味を知る。 ・ある図形と相似の位置にある図形をかく。		・知①：章末レポート
	4	・相似な図形の辺の長さを、対応する辺の比が等しいことを使って求める。 ・相似な図形の辺の長さを、となり合う辺の比が等しいことを使って求める。	●振り返りの活動 ・章・節ごとにリフレクションシートの作成をしている。「学びの整理」「学びの再構築」「レベルアップ」という項目ごとに、自分の学習してきたことについてまとめていく。また、授業のノートには毎時間振り返りの記述をするように指導をしていく。 ・振り返りについては、何がわかって何がわかっていないかを考えて記述することを意識させる。その指導をすることで、客観的に自分を見る視点を育てていく。	○知①②：ノート 節末テスト
	5	・ある三角形と相似な三角形をかくためには、何がわかればよいかを考える。 ・三角形の相似条件を確認する。		・思①：行動観察 章末レポート ・知①：行動観察
	6	・2 つの三角形が相似かどうかを、三角形の相似条件を使って判断する。		○知①：節末テスト
	7	・三角形の相似条件を利用して、図形の性質を証明する。		○思①：節末テスト
	8	・直接には測定できない距離や高さを、縮図を利用して求める。		・思③：行動観察 ・態③：ノート
	9	・測定値の誤差の意味を知り、真の値の範囲を不等号を使って表す。 ・有効数字の意味を知り、測定値を a×10 n の形に表す。 ・リフレクションシートに、これまでの過程を振り返って、評価・改善する。		○知④：節末テスト ○態①：ﾘﾌﾚｸｼｮﾝｼｰﾄ 行動観察
二	10	・あたえられた手順でノートの罫線を 3 等分し、その方法で 3 等分できるわけを考える。		・思②：行動観察 ノート

	11	・三角形の１辺に平行な直線が、他の２辺に交わるときにできる線分の比を調べ、成り立つ性質を証明する。 ・三角形と比の定理を確認する。 ・三角形と比の定理を利用して、線分の長さを求める。	●授業展開の工夫 ・生徒の主体性をさらに育む工夫として、授業時間内での問題や課題に取り組む時間を多く確保する。そのため、答え合わせについては、章のはじめに教科書の問題の解答は配布して各自で確認するようにしていく。そして、生徒にはそれでもわからなかったことを質問するように指導をしていく。教師が全体で確認が必要だと思うものについては、その都度確認を行う。	・思②：行動観察 ・知②：ノート 章末レポート
	12	・三角形と比の定理の逆が成り立つことを証明する。 ・三角形と比の定理の逆を確認する。 ・三角形と比の定理の逆を利用して、２つの線分が平行かどうかを判断する。		・思②：ノート ・知②：ノート 章末レポート
	13	・三角形の各辺の中点を結んでできた線分には、どんな性質があるかを調べる。 ・中点連結定理を確認する。 ・中点連結定理を利用して、線分の長さを求める。	・問題演習の場面で、解き方や答えの確認をする前に、全体で解き方のポイントや活用できる既習事項について交流する場面を作る。その展開をつくることで、「読み解く力」の分析・整理→再構築のサイクルを促す。 例）相似な三角形を記号∽を使って表す場面では、辺や頂点に対応する図を書くことで当てはまる相似条件が見えてくる。	○知②：ノート 章末レポート 節末テスト
	14	・四角形の各辺の中点を結ぶと、どんな図形になるかを調べる。 ・四角形の各辺の中点を結んでできる四角形は、平行四辺形であることを証明する。		・思②：　ノート
	15 本時	・四角形の各辺の中点を結んでできる四角形が、特別な四角形になるための条件を調べ、証明する。		・知①：ノート ○思②：行動観察 ノート
	16	・平行線に直線が交わるときの線分の長さの求め方を考え、説明する。 ・平行線と比の定理を確認する。 ・平行線と比の定理を利用して、線分の長さを求める。	●「概念の理解」に向けた発問の工夫 ・本単元では図形の性質に関する多くの定理や考え方が出てくる。例えば中点連結定理を根拠となることがらとして証明に利用したときに、「中点連結定理でどのような関係が成り立つのか」や「中点連結定理の証明に必要な定理は何か・それはなぜか」などの発問を行い、図形の相似が考え方の根幹にあることなどを確認していきたい。	・思②：ノート ・知②：ノート 節末テスト
	17	・平行線と比の定理を利用して、線分の長さをあたえられた比に分ける。 ・平行線と比の定理を利用して、図形の性質を証明する。 ・リフレクションシートに、これまでの過程を振り返って、評価・改善する。		・思②：ノート ○態③：ﾘﾌﾚｸｼｮﾝｼｰﾄ 行動観察
三	18	・相似比が１:２の２つの四角形で、大きい四角形を切って、小さい四角形を４つつくることができるかどうかを考える。 ・相似な三角形について、相似比と面積比の関係を調べる。		・思①：行動観察 ノート

	19	・相似な多角形や円について、相似比と面積比の関係を調べる。 ・相似な平面図形の相似比と面積比の関係を確認する。	◆『日常生活や社会の事象』を数学的に表現した問題に変換するためのツールとしての活用方法 ・iPad のツールを使ってカメラで撮った写真に書き込みをすることで、実際の場面を平面図形として考える。例）人の視線は直線、地面や柱は平面や垂線、鏡に反射した光を対象な図形（同じ大きさの角）のように考えるなど ◆グループ学習の工夫 ・メタモジを活用して、グループ学習の活性化を図る。グループ学習の機能を使い、別々の解き方の方法を知らせて考えさせるなど、より多くの考えが出し合えるように導いていく。	・思①：章末レポート
	20	・相似な平面図形の相似比と面積の関係を利用して、具体的な問題を解決する。		○態②：ノート 行動観察
	21	・立体の相似の意味を知る。 ・相似な立体で、相似比と表面積の比や体積比の関係について調べる。 ・相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を確認する。		・知③：ノート 章末レポート ・思②：行動観察
	22	・相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を利用して、具体的な問題を解決する。 ・リフレクションシートに、これまでの過程を振り返って、評価・改善する。		○思②：ノート ○態③：ﾘﾌﾚｸｼｮﾝｼｰﾄ

※指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」を、その中で特に学級全体の生徒の学習状況について、総括の資料にするために記録を行う機会には「○」を付けている。

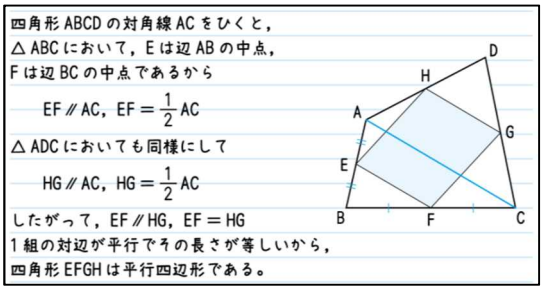
6　本時の目標（本時：１５／２２時間目）

・中点連結定理を利用して、図形の性質を証明することができる。
・特殊な四角形が成り立つ条件を導くことができる。

7　本時の評価規準

【知識・技能】
長方形やひし形、正方形は、平行四辺形の特別な形であることを理解している。
【思考力・判断力・表現力】
中点連結定理を利用して、図形の性質を証明している。

8　本時の展開　　*※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準*

	主な学習活動等	指導上の留意点(・) ICTの活用(☆) 評価規準(□)
10分	１．前時の振り返り ・前回の学習で行った証明の方法や、四角形 EFGH についてどのような方法で調べたかを確認する。  四角形 ABCD の対角線 AC をひくと， △ ABC において，E は辺 AB の中点， F は辺 BC の中点であるから EF // AC，EF = 1/2 AC △ ADC においても同様にして HG // AC，HG = 1/2 AC したがって，EF // HG，EF = HG 1 組の対辺が平行でその長さが等しいから， 四角形 EFGH は平行四辺形である。 教師「前回の学習で、四角形 EFGH はどのような四角形になりましたか？」	・前時までに平行四辺形になることを証明しておく。 ・次の流れで振り返りをしていく。 １．四角形 EFGH はどのような四角形になったか ２．なぜ四角形 EFGH は平行四辺形といえるか ３．辺 EF と HG（辺 EH と FG）が平行といえるのは、四角形 ABCD のどこに注目したか ☆各自でデジタル教科書の作図ツールを用

	生徒「平行四辺形になりました。」 教師「なぜ EFGH は平行四辺形といえましたか？」 生徒「一組の対辺の長さが等しくて平行といえたからです。」 教師「辺 EF と HG（辺 EH と FG）が平行といえるのは、四角形 ABCD のどこに注目したからですか？」 生徒「四角形 ABCD の形？辺の長さとか？」 「四角形 ABCD の２本の対角線の関係？」 教師「それらの条件から、この四角形 EFGH についてさらに言えることはないだろうか？」	いながら、四角形 ABCD の形を変えても同じ証明が成り立っていることを確認させる。 ・四角形 ABCD の対角線の関係に気づきにくい場合については、再度証明を読んで、AC と EF の長さの関係について確認する。 ・さらに条件を加えることで、四角形 EFGH について別のことがいえないかどうかを問いかける。
10分	２．本時の課題に取り組む ・四角形 EFGH が特殊な四角形になるための条件について考える。 本時の課題 四角形 ABCD の対角線 AC、BD にどんな条件があれば、四角形 EFGH は長方形もしくはひし形になるのか？ 教師「四角形 ABCD の対角線 AC、BD がどのような条件のとき、長方形やひし形になりますか。タブレット端末やノートを使って考えてみましょう。」 教師（根拠が曖昧である生徒に対して） 「この図は本当に長方形（ひし形）になっていますか？長方形（ひし形）だとしたら、どんな性質があるからでしょうか？」 生徒「四角形 EFGH の内角がすべて９０°？」 「すべての辺の長さが同じになっている？」 「２本の対角線が垂直（等しい）であれば成り立つ？」	☆デジタル教科書のツールを活用して、四角形ABCD を動かしながら条件に合う図をつくる。 ・帰納的に考えてノートに図をかいて考えている生徒に対しては、その長方形もしくはひし形ができる根拠となることがらが何なのかを考えるように促す。
5分	３．全体共有をする ・ここまでの取り組みで自分の考えたことをまとめる。 教師「対角線 AC、BD にどのような条件を加えると長方形もしくはひし形になりましたか？」 生徒「四角形 ABCD の２本の対角線が垂直（等しい）であるとき、長方形（ひし形）になります」	・いくつかの考えを全体共有する。その際に、帰納的な考えと演繹的な考えを比較していく。その流れから、証明の方法について考えるように促していく。 ・再構築のポイントとして、既習事項の振り返りであるということもおさえておきたい。ここでは、長方形・ひし形の定義の確認がそれにあたる。

15 分	4．ひし形の証明について考える。 ・ひし形の証明ができたら、長方形の証明にも取り組んでいく。 教師「なぜ、その条件だと四角形 EFGH がひし形になるか証明しましょう。」 生徒「仮定が垂直になること？」 「ひし形の定義が結論になってくる？」 教師「そもそも、ひし形とはどんな図形でしたか？最初にわかっていること、そして、最後に示したいことを考えて証明を書いていきましょう。」	・ひし形のほうが長さの関係を示していくだけになるので難易度が低く、ここではひし形の証明から取り組んでいく。 ・証明ができている生徒がいれば、全体で取り上げて共有していく。
10 分	5．正方形になるときについて考える。 ・対角線の条件を考えていく。	・あらかじめ平行四辺形・ひし形・長方形・正方形を並べた図を用意しておく。正方形まで調べるのが時間的に厳しい場合は、本時の振り返りとして扱ってもかまわない。
5 分	6．本時の振り返りをする。 ・ノートに本時の学習についてまとめる。	□思②：ノート

第３学年学級活動（１）指導案

日　時：令和３年１１月９日（火）５校時
学　級：第３学年３組　３１名
場　所：３年３組教室
授業者：明石　勇気

１　議題

全員が進路決定への不安を乗り越えるためにできることを考えよう。
内容（１）ア学級や学校における生活上の諸問題の解決

２　議題について

（１）　生徒の実態

本学級は、落ち着きのある生徒が多く、おだやかな雰囲気で日々の生活を送っている。１学期当初より、１問１答形式の質問に対して多くの生徒が挙手するなど、学習にも意欲的に取り組もうとする生徒が多かった。しかし、発展的な内容や自分の考えに自信がもてないような課題について話し合う場面では、自分の意見を堂々と発表することが苦手な生徒もいた。そのため活発な話合い活動を経て考えを深めるところまでには至っていない状態であった。１学期から学級会を含め、話合い活動に取り組む中で、誰とでも気軽に交流しながら諸活動に取り組むことが出来つつある。また、グループ活動や話合い活動では、じっくりと相手の話を聞き、自分の考えを伝えられる生徒が多くなり、温かい雰囲気で話合いが出来つつある。

学級活動では、４月、５月に「学級目標と学級の方針を決めよう」、７月に「話合い活動をより活発にする方法を考えよう」、１０月に「合唱コンクールの取組方法を考えよう」を議題として、話合い活動を行ってきた。これまでに行ってきた学級活動では、生徒たちは事前に考えておいた意見を自分の言葉で発表できた。また、回数を重ねるごとに挙手をして発表できる生徒も増えてきている。７月の学級会の議題に上がったように、自分たちの話合い活動の取り組みを改善していかなければならないという自覚があり、積極的に参加したいと考えている生徒が増えている。

司会をしている生徒は、４月当初は話合いの見通しをもつことが難しく、進行が滞ってしまう場面が多く見られた。回数を重ねる中で、見通しをもつための事前準備に何をすればよいか少しずつ考えることができるようになってきている。しかし、予想とは違う意見が出た場合では、まだ合意形成に向けての話合いが滞ってしまう場面が見られる。

（２）　議題選定の理由

生徒によって、進路選択も様々なものである。学校で、それぞれが感じている不安を共有し、学級全員でだからこそ取り組めることがあると感じさせ、進路決定に向けての学級生活を充実させたいと考えている。また、あまり授業に入れていない生徒でも、自分事としてとらえ、一緒に話合い活動に臨めるようにしたい。進路決定に向けての思いを共有し、学級全員で希望進路の実現を目指してがんばれる雰囲気をつくりたい。

（３）生徒が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
Ａ…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	①…発見･蓄積：必要な情報を確かに取り出す
Ｂ…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	②…分析･整理：情報を比較し、関連付けて整理する
	③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

・主体的に考えて議論ができるように、生徒自身にとって切実な議題を設定できるように意見を募る。
・自分の考えをもち、他者の意見と比べ、根拠をもって説明できるよう、事前に考える機会を設ける。
・他者の意見と自分の意見を比べて発言する手法を例示する。
・合意形成をする際に、少数意見も尊重されるように指導する。
・話合いの中で、意見をもつ、意見を深める、自信をもつために、座席の近くの生徒と話合う時間を確保する。
・班長、司会、記録の生徒を対象に事前に話合いのシミュレーションを行い、事後に実際の学級会との違いについて考える。

・学級会終了後、合意形成してみんなで取り組んだことについて振り返り、再検討する時間を確保する。

3　指導のねらい

〇学級をより良くするための取組をみんなで話し合って合意形成し、実践することで学級への所属感や連帯感を深め、仲間力の向上を図る。
〇全員で決めたことに対して積極的に取り組もうとする態度を育む。

4　評価規準

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話合い活動や実践活動を通した思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
全員が進路決定への不安を乗り越えるために話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

5　指導と評価の計画

※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準

期日	主な学習活動	指導上の留意点 ・ ICTの活用	評価規準・評価方法
１０月２８日 (木) 朝の会 ～ １０月２９日 (金) 朝の会	**「学級をよりよくするために改善したいことを考えよう」** 学級振り返りプリントを用いて、自分の学級のよいところと課題を振り返り、学級で話し合ってよくしたいところ・変えたいところを考える。	学級をよりよくするためには、学級生徒全員の協力が必要であること、取り組む内容を決定するために全員が協力して話し合うことが必要であると伝え、自分の学級での生活を振り返って話し合いたい内容を記入するように指示する。 意見を集約するためにICT を使用する。	【主体的態度】 ・学級について振り返り、学級が抱えている課題を解決することに関心をもつ。 ＜振り返りカード＞
１０月２９日 (金) 放課後	**「学級会の議題を考えよう」** 学級振り返りプリントをもとにして、代議員と班長とともに今回の学級会で話し合うべき議題を決定する。また、この議題を話し合うべきとする理由を考え、学級全体に配付する学級会カードを作成する。	学級の生徒の思いを共有し、その中でも特にできるだけ早く解決すべきこと、学級全体が関わっていることを議題とすべきであるということを確認し、議題としてふさわしいものを選ぶことができるようにする。「なぜその議題にすべきか」ということを考えることが、その後の話合いには重要であるということを伝え、積極的に考えることができるようにする。	【主体的態度】 ・学級生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、主体的に考えることができる。 ＜観察＞

１１月１日 (月)	**「進路決定への不安を個人で考えよう」** 議題を知り、議題について、どのようにすれば解決に近づけるか考えるために、自分たちの抱える不安を把握する。	全員が進路決定への不安を乗り越えるためにできることを考えることは、全員にとってメリットがあることを確認し、意欲的に考えさせるようにする。	
１１月５日 (金)	**「進路決定への不安を共有し、全員が進路決定への不安を乗り越えるためにできることを学級会カードに記入しよう」** 学級会カードを用いて、議題に対して、自分はどのような意見をもつのかを考える。	自分のこととして考え、できるだけ抽象的にならずに、具体的な方法を考えるようにする。また、理由も記入するように指導する。	【主体的態度】 ・学級の具体的な問題を自分事として考え、自分の意見をもつことができる。 ＜学級会カード＞
１１月８日 (月) 放課後	**「学級会をイメージしよう」司会と記録の担当者と班長でクラス全員の考えた内容を確認し、学級会の流れのシミュレーションを行う。** 事前に学級全員の学級会カードから話合い活動で出てきそうな意見、ポイントになりそうな意見をワークシートに書き、話合いの流れを予想する。	学級活動をどのように進めればよいか助言する。また、生徒の思いを聞きながら活動の見通しがもてるようにする。 学級会カードから、話合いがどのように進むのか代表者が互いに考えたシミュレーションを交流し、より具体的にイメージできるようにする。	【主体的態度】 ・学級活動の充実に向けて、リーダーとして自己の役割に責任感をもっている。＜観察＞ 【知識・技能】 ・学級会カードから、学級としての意見をまとめる話合い活動の進め方を身に付けている。＜観察＞ ＜ワークシート＞
１１月９日 (火) 本時	**「進路決定への不安を共有し、全員が進路決定への不安を乗り越えるためにできることを考えよう」** 議題について意見を出し合い、出た意見を比べ合い、学級の意見をまとめる。	根拠をもって発表するように助言する。できる限り積極的に挙手をして発表するように助言する。発表が少なければ、代議員が指名するように事前に助言しておく。 「出し合う⇒比べる⇒まとめる」の流れを大切にして、話合いを進めるよう助言する。多数決だけに頼らず話し合って得た結果を、代議員を中心にまとめていく。 決めたことは全員で意識して今後の学校生活に生かしていくことを確認する。	【思考・判断・表現】 ・根拠を明確にして自分の意見を述べたり、友達の意見を公平に判断しながら聞いたりして、よりよい学級になるよう話し合おうとしている。＜観察＞ 【知識・技能】 ・学級を振り返り、よりよい姿を目指すことの意義、学級としての意見をまとめる話合い活動の進め方を身に付けている。 ＜観察＞

１１月１０日 (水) ～	話合い活動における決定事項に基づいて活動する。 班長、司会、記録の担当者は、事前に考えたシミュレーションと実際の話合い活動との違いを振り返る。	話合い活動での決定事項を実践しているかどうか見届け、必要に応じて助言する。 よりよい実践について、具体例を示して認める。 次回以降の話合い活動のときに、よりよい見通しがもてるようにする。	【思考・判断・表現】 ・学級の一員として自己の役割に責任をもち、互いに信頼し合って実践している。＜観察＞ ＜ライフノートの記述＞ 【知識・技能】 ・学級会を振り返り、意見をまとめる話合い活動の進め方を身に付けている。 ＜ワークシート＞
１２月	実践を振り返り、互いのよさを評価するなどしながら、今後の学校生活の在り方について考える。	よりよい実践について、具体例を示して認める。	【主体的態度】 ・よりよい学級づくりに関心をもち、自主的・自律的に集団活動に取り組もうとしている。＜観察＞

6　本時の目標（本時：１／１時間目）

・互いの意見を生かして話合い活動を進めることができる。
・クラスの課題や改善策を自分のこととして考えることができる。
・異なる意見から学級としての意見をまとめる合意形成に向け取り組むことができる。

7　本時の展開　***※実線は、「読み解く力」のＡの側面、波線は、Ｂの側面に関わる留意点や評価規準***

	主な学習活動等	指導上の留意点(・)　ICTの活用(☆)　評価規準(□)
	０．コの字型の座席配置を示し、並び替える。 １．代議員より説明。 議題、提案理由、決まっていること、本日の流れなどを確認する。 ２．担任教員からの話 本日の話合い活動で大切にしてほしいことを伝える。 ３．話合い活動①出し合う 学級の課題を改善するためにどんな取り組みが出来そうか、学級会カードで事前に考えてきたことなどを出し合う。 ４．話合い活動②比べ合う 出た意見から「この意見がいい」「この意見とこの意見はこういう点で似ている」「この意見とこの意見をまとめると」「実際にできるのか」という形で比べた意見を発表していく。意見が出ない場合は話合いの時間（TM タイム）をとり、再度発表を促す。具体的な方法、期間などについても考える。	・根拠をもって発表するように助言する。一人ひとりの意見が進路決定への不安を乗り越えるために必要なものであり、全員の意見を大切にしながら考えていけるように助言する。 ・「出し合う⇒比べる⇒まとめる」の流れを大切にして、話合いを進めるよう助言する。 ・多数決だけに頼らず話し合って得た結果を、代議員を中心にまとめていく。決めたことは全員で意識して今後の学校生活に生かしていくことを確認する。 話合い活動①出し合う □学級振り返りカードを記入し、学級での話し合ってよくしたいところ、みんなで取り組むことを見いだしている。 □議題に対する自分の考えをもっている。 □他者の意見を頷きながら聞いている。 □他者の意見に対して質問ができる。 □他者の意見に賛成・反対をし、理由が説明できる。 話合い活動②比べ合う □周りの人の意見を聞いて自分の考えを整理する。様々な意見を比べ、意見をくっつけたり、質問したり、意見に対して賛成・反対を述べたりしている。 □周りの人の意見と自分の意見の違いに気づいたり、質問したりして、他者の考えを受け入れることができる。

	５．話合い活動③まとめる 　出た意見から司会を中心にまとめていく。できるだけ多数決の形にならず、状況に応じてまとめ方を工夫しながらまとめていくようにする。 ６．担任教員からの話 　今回の「めあて」に対してのこと等、話合い全体の講評をし、今後決めたことを全員で取り組むことを確認する。	話合い活動③まとめる □様々な意見から、折り合いをつけようとしている。 □様々な意見から、合意形成に向けて意見をまとめていこうとしている。 □合意形成して、具体的な行動目標を決めようとしている。 ・活動の中でポイントとなった発言や、伝え方を評価し、次回以降の話合いに生かせるようにする。

本校の話合い活動で大切にしているもの

全ての生徒が学級会に参加しているという意識がもてるように、発言の機会として出し合うの時間を大切にしている。話合い活動②以降が高度な内容の話合いになったときに、意見を言える生徒に偏りがあることを考慮し、時間内に出し合う活動を設定している。また、学級会に参加できた、意見を言えた、拍手をもらえたという経験から、授業に入りにくい生徒の自己肯定感の育成にもつなげたい。

各発表に対して拍手するという流れを体得しているため、他教科の授業でも意見発表に対して自然と拍手が起こり、意見を言いやすい雰囲気が出来上がりつつある。発言の内容によって拍手が大きくなる場面も出てきている。それらが３年間の積み重ねとなるように設定をしている。

（栗中版話合い活動の手引き参照）